

ユーザーガイド

DiskStation Manager 7.0



Table of Contents

Chapter 1: Introduction	01	Chapter 5: File-Sharing & Sync	40
Chapter 2: Quick Start Guide	04	5.1 Shared Folder	
2.1 Install drives		5.2 File services	
2.2 Get started with DSM		5.3 File Station	
2.3 Sign up for a Synology Account		5.4 Synology Drive Server	
2.4 Navigate your DSM desktop		5.5 Cloud Sync	
2.5 Check regional options		5.6 WebDAV	
2.6 Specify your QuickConnect ID		Chapter 6: Data Backup	45
2.7 Configure storage space		6.1 Active Backup Suite	
2.8 Create a shared folder and start sharing files		6.2 USB Copy	
2.9 Install add-on packages		Chapter 7: NAS Protection	48
2.10 Create local users and groups		7.1 DSM configuration backup	
2.11 Manage notification settings		7.2 Hyper Backup	
2.12 Fortify security		7.3 Snapshot Replication	
2.13 Keep your DSM updated		7.4 Synology High Availability	
Chapter 3: Account & Privileges	30	Chapter 8: Security	50
3.1 Account & privileges		8.1 Security settings	
3.2 Directory clients		8.2 Secure SignIn	
3.3 Synology Directory Server		8.3 Security Advisor	
3.4 LDAP Server		8.4 Antivirus	
3.5 SSO Server		Chapter 9: Network	52
3.6 RADIUS Server		9.1 External Access	
Chapter 4: Storage & Virtualization	34	9.2 Network Settings	
4.1 Storage Manager		9.3 Proxy Server	
4.2 Storage expansion		9.4 DNS Server	
4.3 Storage Analyzer		9.5 DHCP Server	
4.4 SAN Manager & Storage Console		9.6 VPN Server	
4.5 Virtual Machine Manager		Chapter 10: Management	64
		10.1 Hardware & Power Settings	
		10.2 Login Portal	
		10.3 Resource Monitor	
		10.4 Log Center	
		10.5 Universal Search	
		10.6 Central Management System	
		10.7 Active Insight	
		10.8 System reset	

Chapter 11: Productivity	70
11.1 Synology Office	
11.2 Note Station	
11.3 Synology Chat	
11.4 Synology Calendar	
11.5 Synology Contacts	
11.6 Synology MailPlus	
11.7 Web Station	
Chapter 12: Multimedia	75
12.1 Synology Photos	
12.2 Video Station	
12.3 Audio Station	
12.4 Media Server	
12.5 Indexing Service	
Chapter 13: Surveillance	79
13.1 Set up IP Cameras	
13.2 Monitor Camera Feeds	
13.3 Efficient Recording Playback	
13.4 Comprehensive Management Features	
13.5 Centralized Management System	
Appendix	82
Legal Information	

必要な情報を探す

Synology は、幅広いサポート ドキュメントを公開しています。

まず [ナレッジベース](#) の中には、使いやすい [Help](#) と [FAQ](#) 記事があり、さらに [ビデオ チュートリアル](#) では各種プロセスを短いステップに分けてご案内しています。

また [Synology ドキュメンテーション](#) には、[ユーザーガイド](#)、[ソリューション ガイド](#)、[カタログ](#)、[ホワイト ペーパー](#) があります。経験豊富なユーザーや管理者は、[管理者ガイド](#) や [開発者ガイド](#) で技術的な疑問に対する回答やガイドを入手いただけます。

解決したい問題に関する情報が見つからない場合、ユーザーやサポートスタッフによる多数の回答を [Synology Community](#) 内で検索したり、[ウェブフォーム](#) やメール、[電話](#) で [Synology サポート](#) と連絡をとることができます。

第 1 章:はじめに

Synology DiskStation Manager (DSM) は、すべての Synology NAS 用のウェブベースのオペレーティングシステムで、ネットワークのあらゆる場所にあるデジタル資産の管理を支えます。この DSM 7.0 により、ネットワーク接続ストレージデバイスは、お客様のローカルエリアネットワーク内でのファイル共有センターとして動くだけでなく、期待を超えたものを達成する力となります。

DSM の主な特長と機能:

ファイル - 共有と同期: デジタル資産に必要な時にどこからでも即座に、複数のデバイスを介してアクセス、共有、同期が容易に行なえます。

バックアップと復元: ライセンス不要のバックアップソリューションにより、コンピューター、仮想マシン、クラウドサービス、NAS 上のデジタル資産をバックアップして保護し、お客様の個人目標や組織目標を危険にさらしかねないサービス停止を回避します。

チームコラボレーション: プライバシーが保てる自分専用のクラウドで、Synology Office、Calendar、Chat によってコラボレーションのためのあらゆるニーズを満たしながら、活動的なチーム文化を育みます。

マルチメディアストリーミング: 直感的な Web ベースのインターフェースを通じて、マルチメディアコンテンツにアクセスし、それを好きな時にマルチメディアアプリケーションやパッケージで使用できるマルチメディアライブラリに集めます。

ビデオ監視: インテリジェントな監視とビデオ管理ツールを提供する完全な監視ソリューションで、お客様のビジネスや家庭、その他の環境における貴重な資産を保護します。

仮想化ストレージ: ストレージネットワークを介してストレージ領域にアクセスするために仮想マシンを円滑にプロビジョニングし管理し、領域がひとつのローカルディスクようになります。VMware® vSphere™、Microsoft® Hyper-V®、Citrix® XenServer™、OpenStack 仮想環境で認証済。

強化されたストレージと SAN によるソリューション

まったく新しい Storage Manager には、新しい性能最適化機能が備わり、データ品質低下に対する保護能力が高まっています。新たに SAN 環境向けに設計され、ミッションクリティカルなストレージネットワークに対しファイバーチャネルプロトコル (FCP) によるハイアベイラビリティと低遅延が可能になります。

VMware VAAI と Windows ODX をサポートする高度な LUN 機能は、VM の性能を高め、素早いスナップショット作成、復元、クローニングを実現します。

円滑な操作が可能な管理インターフェースにより、接続および許可の管理は大規模 SAN 環境であっても非常に簡単です。

iSCSI とファイバーチャネルをサポートすることにより、Synology のストレージシステムは大企業環境でも小規模の構成でも容易に統合が可能です。

安全なアイデンティティ保護

Synology Secure SignIn は、多彩なサインイン手法 (2 要素認証、パスワードレスサインイン、従来型認証)、アプリベースのサインイン承認、ハードウェア セキュリティキー、2 要素認証オプションを提供しており、弱いパスワードを排除し、NAS の保護能力を高めます。アカウントのセキュリティ保護は今までになく簡単です。

オールインワンの写真管理

Synology Photos は、写真を効率よく管理するために必要なツールがすべて揃っています。自動化されたツールにより、写真や動画を時系列あるいはフォルダー構造でグループ分けし、メディアファイルをフィルターするカテゴリーを設定、アルバムでの写真の整理、思い出の安全性を確保しながらセキュアな共有リンクでコンテンツを共有することができます。

より充実した保護と高速な復元

定評のあるバックアップアプリケーションは、より多彩なデバイス、オンラインサービスや DSM アプリケーションが保護対象となっています。Active Backup は、新しいエージェントベースの Linux バックアップで保護の範囲を 5 つの主要なディストリビューションに広げました。

お使いの Synology NAS を Hyper Backup で保護することで、より多くの DSM 設定や追加された 12 の Synology ソフトウェアパッケージも対象になります。

セキュアなファイル共有とコラボレーション

コラボレーションは Synology Drive の強化されたセキュリティ機能と管理機能によってセキュアになり、管理者はより厳格なセキュリティ機能でユーザー、許可、データを追跡管理できます。

新しい Synology Drive Admin Console で、Synology Drive Server の大規模な展開にも的確なコントロールが可能です。

ユーザーやグループを選択して共有許可を付与することで、ファイル共有を安全に維持します。ユーザーはファイル共有を行う際にセキュリティを高めるために、パスワードや有効期限を設定するよう求められます。

Synology Drive Server が利用率を集計することで、制限に達する前にユーザートレンドを先取りし、ストレージを管理します。

ストレージをクラウドまで拡張

クラウドの柔軟性を Hybrid Share で実感していただけます。これは、シンプルになったマルチサイトのファイル共有を行うまったく新しいハイブリッドクラウドソリューションです。Synology Account により、お使いの NAS を C2 Storage に接続してハイブリッドクラウドストレージを構築できます。

第 1 章:はじめに

Synology C2 Storage の柔軟性と拡張性に、オンプレミスの Synology NAS のスピードとパワーが組み合わせられ、高速で中断のないファイルアクセスが実現できます。

クラウドで管理されているデータを素早く複数の Synology NAS と同期し、ローカルに保存されている感覚でファイルにアクセスでき、オンプレミスのストレージが占めるスペースやネットワーク負荷、経費を下げられます。

Hybrid Share のフォルダーをお好きな Synology NAS にマウントし、Synology C2 Storage 上のデータに対して即座にアクセスが可能になります。データの復元や移行処理の完了を待つ必要はありません。

クラウドでホストされた NAS の監視

あらゆる場所でお使いの Synology NAS を Active Insight で監視することで、ひとつの統合的ポータルで性能が監視できます。それが持つカスタマイズ性の高い通知設定により、異常の検出をし、停止時間を最小化するソリューションを速やかに打つことができます。

Active Insight は、お客様の管理の下で Synology NAS に生じたシステム異常を検出し、トラブルシューティングのための詳細なアドバイスを含むイベント通知を配信します。

Synology は、接続されている Synology NAS からの匿名化されたデータを分析し、潜在的なシステム障害を察知し、お客様にデバイスのリスクを通知します。

第 2 章:クイックスタートガイド

この章では、Synology DiskStation Manager (DSM) の初期設定について概要を説明します。Synology NAS の利用に先立ち、ドライブのセットアップ、OS のインストール、ストレージの初期化、DSM の管理のためのいくつかの組み込みサービスについて以下に掲げる指示を実施します。

2.1 ドライブをインストールする

データストレージサーバーとして、Synology NAS はそれが機能するために少なくとも 1 つの 3.5 インチあるいは 2.5 インチのドライブが必要です。ドライブのインストールに関する詳細は、Synology の[ダウンロードセンター](#)にあるハードウェアインストールガイドを参照してください。

インストールの前にドライブをバックアップする

お使いのドライブが過去に使用していた Synology NAS のものであれば、[この記事](#)にある指示に従ってドライブ移行を実施してください。この記事にかかれている移行手順により、お持ちのデータのほとんどを保持できるようになります。ただし、偶発的なデータ損失を防ぐため、ドライブが元々あった Synology NAS のデータをバックアップしておくことを強く推奨します。

Synology NAS 以外からのドライブを使用する場合、システムがドライブをフォーマットし、インストール中に既存データはすべて消去されるため、インストールの前にデータをバックアップする必要があります。

RAID タイプを理解する

ドライブのインストールを行った後、ストレージ領域のセキュリティを高め、冗長性をもたせるために RAID アレイをセットアップします。このセクションでは、RAID テクノロジーの概要とそれぞれの RAID タイプの違いについて説明します。

RAID (Redundant Array of Independent Disks) は、データの冗長性と性能向上のために、複数の個別ドライブをひとつの RAID アレイにまとめるデータストレージ技術です。RAID アレイでは、同じデータが複数ドライブの異なる場所に保存され、ドライブ障害によるデータ損失のリスクを減らします。さらに、RAID を設定することで、特定の RAID 構成では複数ドライブを並列に動作させるために読み書き性能が引き上げられます。

RAID 構成が違えば、冗長性と性能のレベルが変わります。以下は、Synology NAS がサポートする RAID タイプの概要です。

SHR:Synology Hybrid RAID (SHR) は、Synology が設計した自動 RAID 管理システムです。SHR は、2 台以上のドライブがある場合に対障害性を発揮します。個別のストレージ領域にもっとも合うようにドライブを自動的に展開するため、経験の少ないユーザーにお勧めします。

基本:Basic 構成は、1 台のドライブだけからなり、対障害性や性能は向上しません。

JBOD:JBOD (Just a Bunch of Disks) 構成は、すべてのドライブを 1 台ずつのドライブを積み上げてまとめます。JBOD ドライブのそれぞれは、切り離された個別のドライブボリュームとなり、データストレージの管理は簡単になります。JBOD 構成では、対障害性や性能は向上しません。

RAID 0:JBOD とは対照的に、RAID 0 は 2 台異常のドライブをまとめ、1 台の装置として扱います。RAID 0 では、データは複数のブロックに分割されて複数のドライブに分けられるため、ドライブ数が多いほど読み書きスピードが上がります。

RAID 1:RAID 1 には少なくとも 2 台のドライブが必要です。RAID 1 では、データはすべてのドライブにミラーされます。同じデータがアレイ中の全ドライブに存在することになるため、もっとも小さいメンバーのボリュームがアレイの総容量を決めます。これは重要なデータを保護するためにはもっとも安全なオプションですが、書き込み性能と容量の点では劣ります。

RAID 5:RAID 5 は、少なくとも 3 台のドライブが必要で、そのうち 1 つは対障害性の目的で使われます。RAID 5 はデータブロックを複数のドライブに分け、パリティと呼ぶ冗長情報がアレイ中の全ドライブに分配されます。1 台のドライブが故障した場合、失われたデータは残りのドライブにあるパリティから再構成できます。

RAID 6:RAID 6 には少なくとも 4 台のドライブが必要です。RAID 6 の特徴は 2 重に分配されるパリティで、これによって RAID 5 よりもデータ冗長性が高まります。ただし、RAID 6 はすべてのメンバードライブに 2 つのパリティブロックを書き込む必要があり、書き込み性能は RAID 5 よりも低くなります。

RAID 10:RAID 10 には少なくとも 4 台のドライブが必要です。ドライブはミラーおよびストライプされる 2 台ひと組のグループにまとめられるため、偶数個でなければなりません。RAID 10 は RAID 0 の性能と RAID 1 のデータ保護性能を持ちます。

RAID F1:RAID F1 には少なくとも 3 台のドライブが必要です。RAID 5 と同じように、RAID F1 はデータブロックのストライピングが行われ、すべてのメンバードライブにパリティデータが分配されます。唯一の違いは、ドライブの 1 つにより多くのパリティが置かれ、より早く劣化することで、すべてのドライブが同じ時期に寿命を迎えることを防止します。RAID F1 はオールフラッシュアレイに推奨されます。

注意:

- RAID F1 と SHR は、特定のモデルでのみ利用できます。詳細情報は各モデルの仕様をご覧ください。

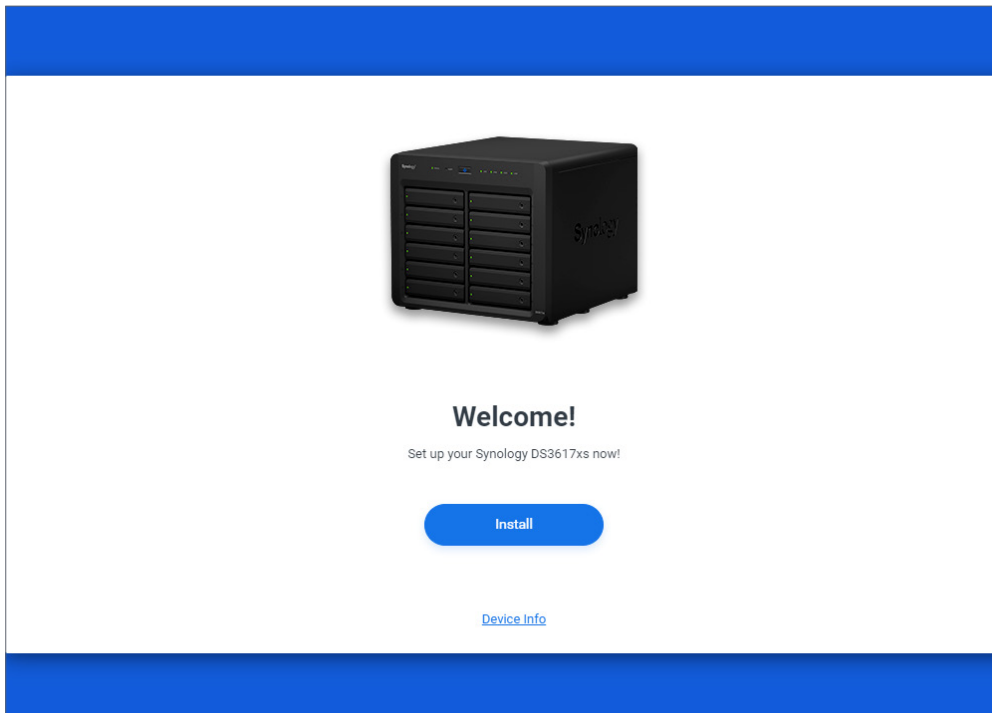
2.2 DSM を使う

このセクションでは、Web ブラウザかあるいは Synology のモバイルアプリケーションで DSM の初回インストールを行う方法を説明します。

Web Assistant を使って DSM をインストールする

Synology NAS に付属している Web Assistant は、最新バージョンの DSM をインターネットからダウンロードし、お使いの Synology NAS にインストールする支援をします。Web Assistant を使用するには、下記の手順を行います。

1. Synology NAS の電源をオンにします。
2. Synology NAS と同じネットワーク内のコンピューターで Web ブラウザを開き、[\[find.synology.com\]](https://find.synology.com) に進みます。NAS の状態は、未インストールでなければなりません。
3. 自分の Synology NAS を選び、Web Assistant で [接続] をクリックします。
4. [インストール] をクリックしてインストールプロセスを開始し、画面の指示に従います。



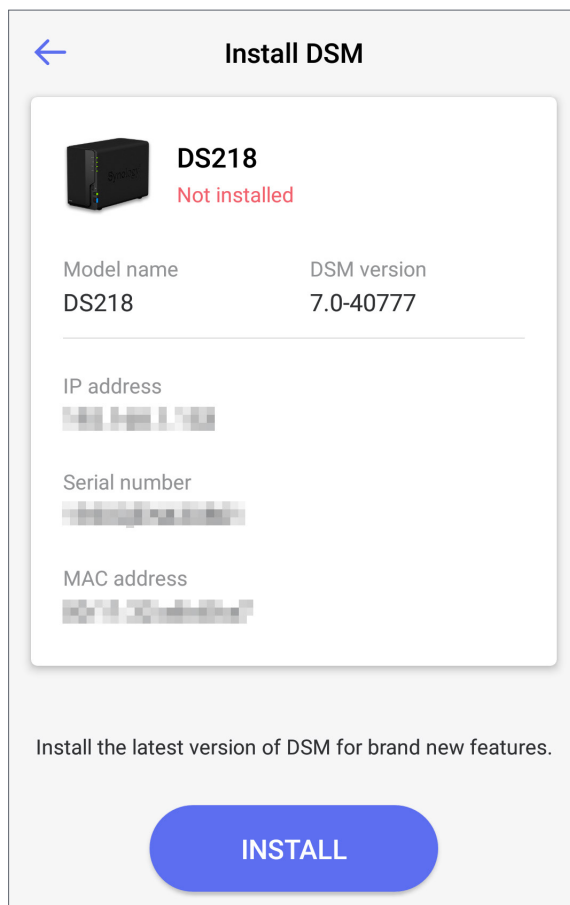
注意:

- Synology NAS とコンピューターは同じローカルネットワークになければなりません。
- DSM のインストールには Chrome かあるいは Firefox の使用をお勧めします。
- Synology NAS と DSM のセットアップに関する詳細は、Synology の [ダウンロードセンター](#) から入手できる、お使いの Synology NAS モデルのハードウェアインストールガイドをご参照ください。

DS finder で DSM をインストールする

以下に示すように、DSM をインストールするために、モバイルデバイスに DS finder ([App Store](#)/[Google Play Store](#)) をインストールすることもできます。

1. Synology NAS の電源をオンにします。
2. モバイルデバイスを Synology NAS があるローカルネットワークに接続し、DS finder を起動します。
3. [新しい NAS をセットアップ] をタップしてセットアッププロセスを開始します。
4. 画面の指示に従い、モバイルデバイスと Synology NAS の間の接続を確立させてから、[検索] をタップします。DS finder がご自身の Synology NAS を探します。NAS の状態は、未インストールでなければなりません。
5. Synology NAS を選択し、[インストール] をタップしてインストレーションプロセスを開始し、画面の指示に従います。



注意:

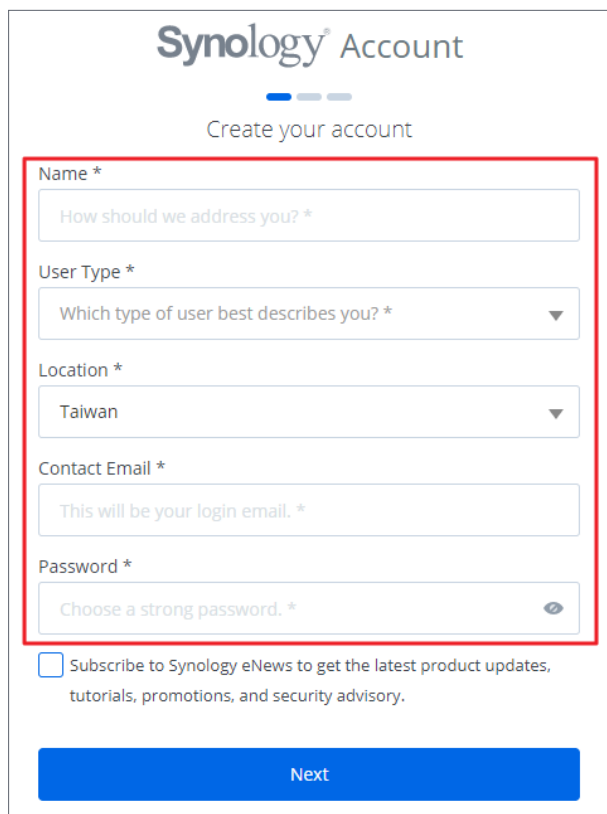
- この章では、Android 10 を例にとります。OS のバージョンやデバイスによって実際の操作は異なります。
- Synology NAS とモバイルデバイスは同じローカルネットワーク上にある必要があります。
- DS finder は、Android および iOS デバイスでのみ動作します。
- DS finder は、ほとんどの Synology NAS モデルで DSM のインストールが可能です (ラックマウントモデルおよびデスクトップモデルの FS/XS シリーズを除く)。

2.3 Synology Account にサインアップする

Synology NAS のオーナーとして、お客様は Synology オンラインサービスにアクセスし、ご自身の顧客情報を管理する Synology Account をお持ちです。DSM にサインインするために使う DSM とは違い、Synology Account は、お客様の課金情報、登録済の Synology 製品、技術サポートのリクエスト、Synology オンラインサービス (QuickConnect、DDNS、Synology C2 など) を管理できます。Synology Accounts と DSM のユーザーアカウントの違いに関する詳細は、[この記事](#)をご覧ください。

Synology Account にサインアップし、DSM のインストール中に、あるいは次の手順に従い、Synology NAS をバインドします。

1. [この Web サイト](#)に進んでください。
2. フォームを記入し、[次へ]をクリックします。次に、画面の指示に従い、Synology Account を作成します。



Synology Account

Create your account

Name *

How should we address you? *

User Type *

Which type of user best describes you? *

Location *

Taiwan

Contact Email *

This will be your login email. *

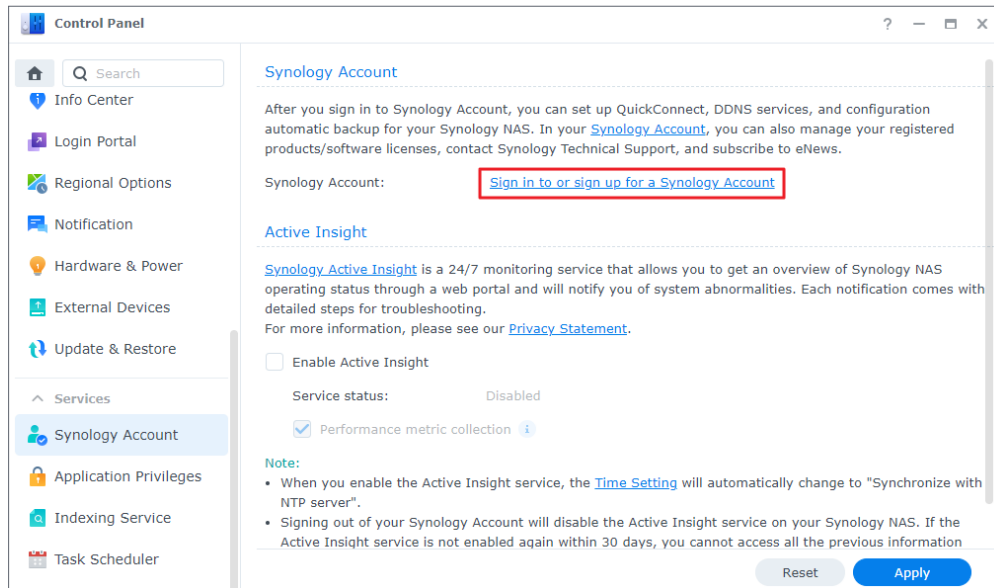
Password *

Choose a strong password. *

Subscribe to Synology eNews to get the latest product updates, tutorials, promotions, and security advisory.

Next

3. 受信トレイに進み、「Synology Account - sign up」というタイトルのメール (送信元は「noreply@synologynotification.com」) をクリックして検証コードを入手してください。
4. 認証コードを入力し、[次へ]をクリックします。
5. 規約とプライバシーポリシーを確認します。[送信]をクリックします。
6. [コントロールパネル] > [Synology Account] に進み、[Synology Account にサインインまたはサインアップする]をクリックします。

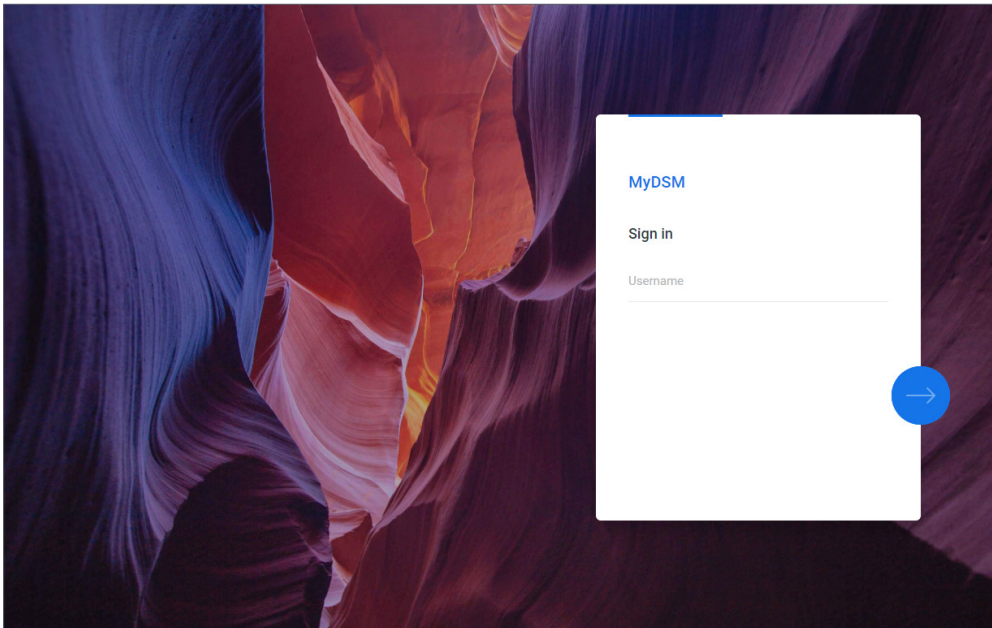


7. ポップアップウィンドウで、ご自分の Synology Account の資格情報を入力し、[サインイン] をクリックします。
8. これで Synology Account への登録が完了し、お使いの NAS がそれにバインドされました。

2.4 DSM デスクトップを操作する

DSM を Synology NAS にインストールした後、初回のインストレーションで追加したばかりの DSM ユーザーアカウントを使用して DSM にサインインできます。以下の手順に従い、Web ブラウザでサインインします。

1. コンピューターと Synology NAS は同じローカルネットワークに接続してください。
2. コンピュータでブラウザを開き、アドレスバーに次のいずれかを入力します。
 - find.synology.com: コンピューターと Synology NAS は同じローカルエリアネットワークに接続されている場合のみ、この URL を入力してください。
 - お使いの NAS の IP アドレス :5000: Synology NAS の IP アドレスが、「192.168.48.14」であれば、「192.168.48.14:5000」と入力します。この IP アドレスは、初期セットアップ時の設定によって変わります。
3. ご自分のユーザー名を入力し、右向き矢印をクリックします。
4. パスワードを入力し、もう一度右向き矢印をクリックしてサインインします。



DSM デスクトップ

サインインすると、アプリケーションやパッケージのウィンドウが表示される DSM デスクトップが表示されます。頻繁に使用するアプリケーションはデスクトップにショートカットを作成できます。



タスクバー

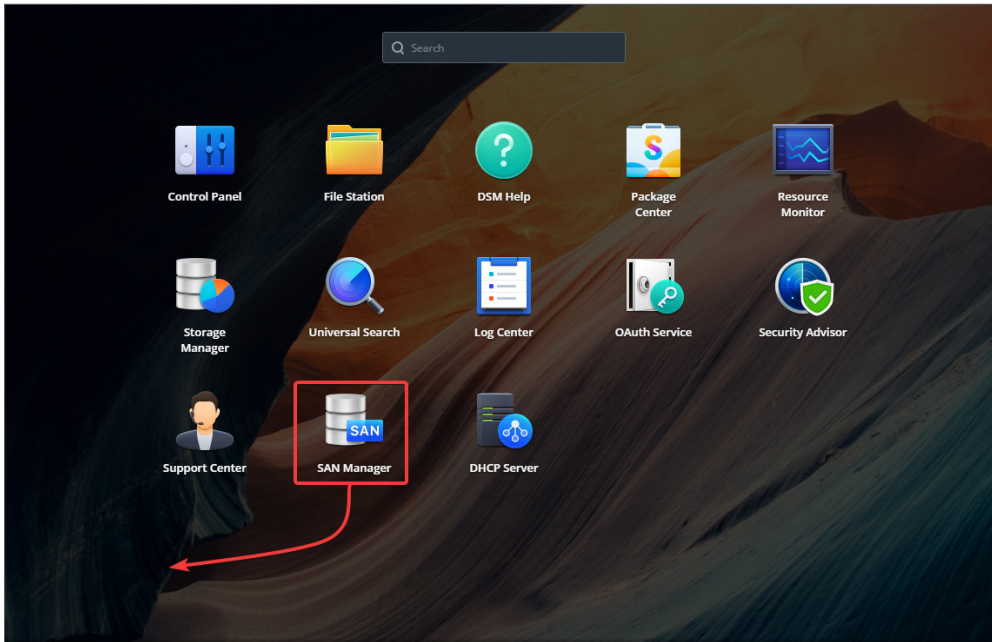
スクリーンの上部にはタスクバーがあり、次のようなアイテムが含まれています。



1. デスクトップの表示:起動中のアプリケーションとパッケージのウィンドウをすべて最小化します。
2. メインメニュー:アイコンをクリックしてアプリケーションとアドオンパッケージを表示し、開きます。また、クリック アンド ドラッグでデスクトップにショートカットを作成することもできます。
3. アプリケーションを開く:今起動したアプリケーションとパッケージを表示します。後で素早くアクセスするために、アプリケーションやパッケージを右クリックしてピン留めすることもできます。
4. アップロードキュー:ファイルを Synology NAS にアップロードすると現れます。アイコンをクリックすると、進行状況やアップロードスピードなどの詳細が表示されます。
5. 外部デバイス:外部デバイス (USB フラッシュドライブなど) が Synology NAS に取り付けられると現れます。
6. 通知:エラーやステータスアップデート、パッケージインストール通知などの通知が表示されます。
7. オプション:メニューをクリックして、Synology NAS のシャットダウン、再起動、サインアウトします。個人アカウント設定を変更するには、メニューから [個人] を選択します。
8. ウィジェット:ウィジェットを表示、非表示にします。ウィジェットはデフォルトでは DSM のデスクトップの右側にあり、ストレージやシステム正常性などさまざまなタイプのシステム情報を表示します。
9. 検索:特定のアプリケーションやパッケージ、DSM ヘルプ記事を素早く見つけます。

メインメニュー

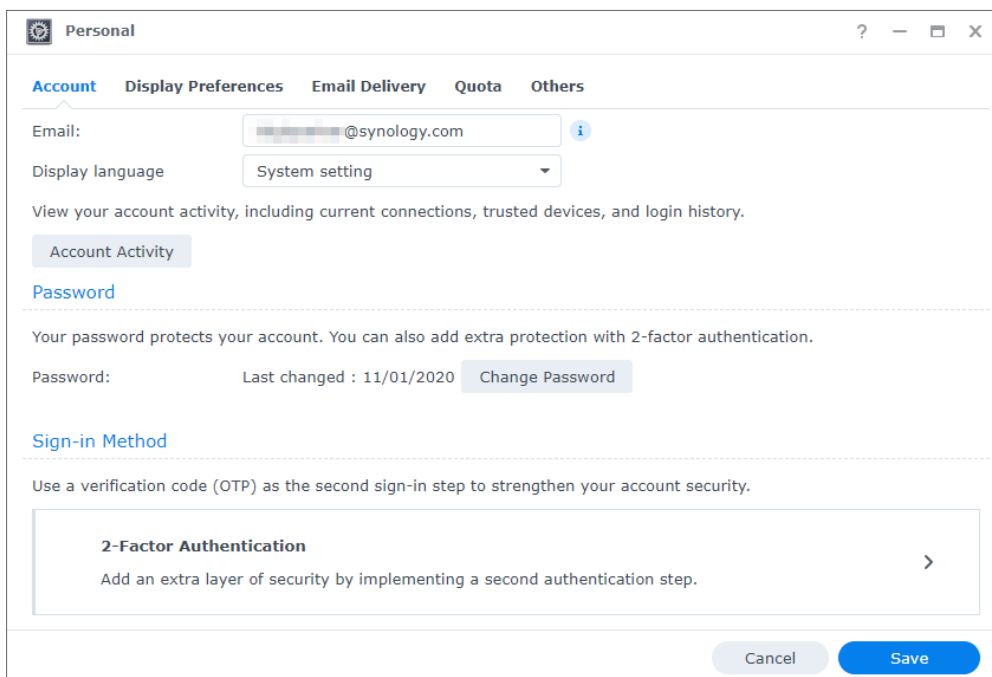
Synology NAS にインストールされているアプリケーションやパッケージの一覧をここで見ることができます。デスクトップショートカットを作成するには、[メインメニュー] を開き、アプリケーションやパッケージの横をクリックします。



シャットダウン、再起動、サインアウト、個人設定

Synology NAS をシャットダウン、再起動、サインアウトするには、[オプション] メニュー（右上の個人アイコン）をクリックします。

さらに、ドロップダウンメニューから [個人] オプションを選択し、パスワードや表示言語、サインイン方法、好みの表示などご自分のアカウント設定を管理できます。このオプションのタブの概要を以下に示します。

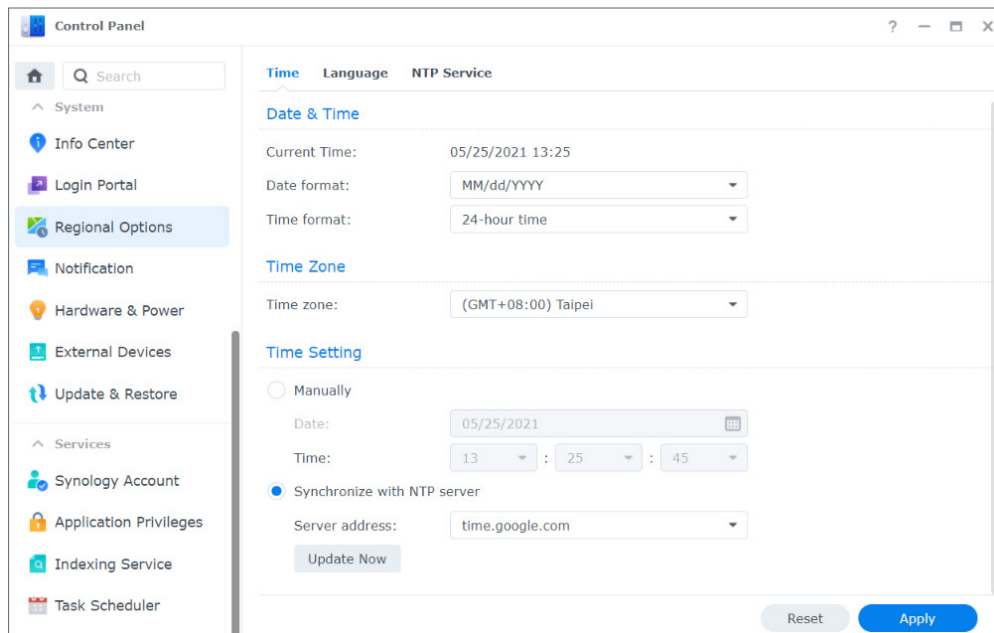


- アカウント: DSM アカウントの、アカウント設定の編集、高度なサインイン方法の有効化、直近のログイン行動の表示 (詳細情報は、[この記事](#)を参照)。
- 好みの表示: 日付と時刻の式や、デスクトップの表示形式を編集 (詳細情報は、[この記事](#)を参照)。

- メールを送達:このタブでメールアカウントを追加します。このメールアカウントは次の状況で使用されます (詳細情報は、[この記事](#)を参照)。
 - File Station に保存されているファイルを添付ファイルとして送付します。
 - Synology Calendar でイベントの招待を送ります。
 - Synology Drive でファイルを他の人と共有する場合は、通知メールを送ります。
- クォータ:管理者アカウントが設定した全ボリュームに対する自分のクォータと、各ボリュームで自分が使用している量を表示します。Btrfs サポートのあるモデルでは、それぞれの共有フォルダの割当量と容量の使用量も見ることができます。
- その他:他の個人アカウントオプションのをカスタマイズします (詳細情報は、[この記事](#)を参照)。

2.5 地域オプションを確認する

[コントロールパネル]>[地域オプション]で、次の地域オプションを設定できます。

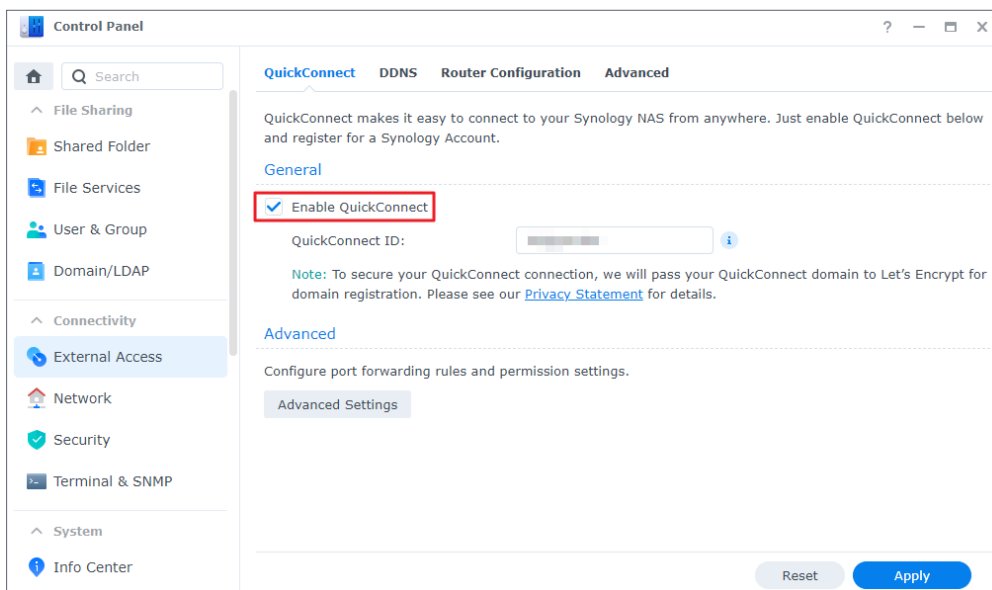


- 時刻:DSM のシステム時間の設定を行います。現在時刻の確認や、サーバーの日時の手動設定、ネットワークタイムサーバーによる自動設定を行います (詳細情報は、[この記事](#)を参照)。
- 言語:表示、通知、コードページの言語を設定します (詳細情報は、[この記事](#)を参照)。
- NTP サービス:他のデバイスをネットワーク越しに時刻同期させるために、Synology NAS をネットワークタイムサーバーに設定します。Surveillance Station およびハイ アベイラビリティクラスターには NTP サービスが必要ですので、ご注意ください。そのため、Surveillance Station や Synology High Availability を Synology NAS にインストールして起動している場合には、NTP サービスを無効にすることはできません。

2.6 QuickConnect ID を指定する

QuickConnect により、ポートフォワーディングルールを設定することなく、クライアントアプリケーションが Synology NAS に接続できるようになります。それは、Audio Station、Video Station、Download Station、Surveillance Station、Synology Photos、File Station、Note Station、CMS、Synology Drive、モバイルアプリケーションといった Synology 開発のパッケージと一緒に動作します。DSM のインストール中に QuickConnect ID を指定するか、あるいはこのサービスを次の手順でアクティブにできます。

1. [コントロールパネル] > [外部アクセス] > [QuickConnect] の順に進みます。
2. [QuickConnect を有効にする] チェックボックスにチェックを入れます。



3. Synology Account にサインインしていない場合は、ログインウィンドウがポップアップします。既存の Synology Account 情報を入力するか、あるいはウィンドウの中に新しいアカウントを作成します。
4. 新しい QuickConnect ID を指定します。
5. [適用] をクリックします。

注意:

- QuickConnect ID は英数字およびダッシュ (-) のみを含むことができます。先頭は文字でなければならない、末尾はダッシュで終わることはできません。
- QuickConnect の詳細については、[この記事](#)を参照してください。

2.7 ストレージ領域を設定する

このセクションでは、組み込みのパッケージである Storage Manager を用いてストレージプールを作成する手順を説明します。

ストレージプールとボリュームについての理解

Storage Manager を初めて起動する場合は、ストレージ作成ウィザードがストレージプールとボリュームの作成と設定を手伝います。ストレージプールは、複数のドライブで構成されるひとつのストレージユニットです。ボリュームは、ストレージプール上に作成されるストレージ領域です。Synology NAS にデータを保存するには、少なくとも 1 つのボリュームを作成する必要があります。

ストレージプールとボリュームの作成

1. メインメニューで Storage Manager を立ち上げます。ストレージ作成ウィザードがポップアップし、以下の手順をガイドします。
2. ストレージを保護するために、RAID タイプを選びます。利用できる RAID タイプは、モデルによるドライブベイの数で決まります。どの RAID タイプが自分のストレージプールに適しているかは、[RAID タイプを理解する](#)セクションかあるいは[この記事](#)を参照してください。
3. ドライブを入れて、ストレージプールを構成します。
4. ボリューム容量を割り当てます。
5. ファイルシステムを選択します。データ保護機能をもつ Btrfs を推奨します。Btrfs と ext4 の違いについては、[この記事](#)を参照してください。

ファイルシステム	説明
Btrfs	スナップショット、複製、ポイントインタイム復元、データ整合性チェックなどのデータ保護機能をサポートします。
ext4	Linux オペレーティングシステムとの対応に優れています。このハードウェア要件は Btrfs よりも少なくなっています。

6. 設定を確定します。システムは自動的に、バックグラウンドでストレージ作成と最適化プロセスを実行します。

2.8 共有フォルダーの作成と共有ファイルの開始

共有フォルダーの設定を通じて、Synology NAS を便利で安全なファイル共有センターにすることができます。このセクションでは、DSM での共有フォルダーが担う役割を説明し、File Station と DS file を用いたファイル管理に関する指示をお伝えします。

共有フォルダーを理解する

共有フォルダーは、ファイルおよびサブフォルダーを保存し、管理できるホームディレクトリです。Synology NAS にファイルを保存するには、少なくとも 1 つの共有フォルダーが必要です。共有フォルダーに保存されているデータは秘密にされ、個別に設定した許可設定に基づくユーザーやグループと共有できます。パッケージやサービスの中には、機能を発揮するために専用の共有フォ

ルダを必要とするものがあります。以下の表は、特定のアプリケーション、サービス、パッケージがインストールあるいは有効化される時に自動的に作成される共有フォルダを示しています。

名前	説明
ActiveBackupforBusiness	ActiveBackupforBusiness フォルダは、Active Backup for Business のインストール時に作成されます。バックアップ データを格納するために使用され、バックアップ タスクが作成されるときにデータベースと構成ファイルが格納されます。
chat	chat フォルダは、Synology Chat Server のインストール時に作成されます。そこには、アップロードされたファイル、URL、サムネイル、プロファイル画像が含まれる添付ファイルがパッケージ内にあります。
docker	docker フォルダは、Docker のインストール時に作成されます。これは、コンテナのためのデフォルトマウントパスを保存するのに使われます。
home	home フォルダは、ユーザーフォームサービスが有効化された時に作成されます。これは、各ユーザーがデータを保存するためのプライベート領域となります。
homes	homes フォルダは、ユーザーフォームサービスが有効化された時に作成されます。これには、すべてのユーザーのホームフォルダが含まれます。システム管理者だけがアクセスでき、すべてのユーザーの home フォルダを管理します。
MailPlus	MailPlus フォルダは、Synology MailPlus Server のセットアップ時に作成されます。これには、ドメインデータ、スパムレポート、検疫設定などが含まれます。
music	music フォルダは、Audio Station または Media Server のインストール時に作成されます。これは、Audio Station を用いて再生したい音楽の保存や、Media Server を用いて他の DMA デバイスにストリームするために使われます。
NetBackup	NetBackup フォルダは、rsync サービスが有効化された時に作成されます。これは、rsync アカウントのバックアップデータの保存に使われます。
photo	photo フォルダは Media Server がインストールされた時、あるいは Synology Photos で 共有フォルダを有効化したときに作成されます。
surveillance	surveillance フォルダは、Surveillance Station のインストール時に作成されます。これは、Surveillance Station の録画を保存するために使われます。
usbshare	usbshare[数字] フォルダは、USB ドライブを Synology NAS の USB ポートに接続する時に作成されます。
video	video フォルダは、Video Station または Media Server のインストール時に作成されます。これは、ビデオを Video Station にアップロードする、あるいは Media Server を用いてビデオを他の DMA デバイスにストリームするために使用されるデフォルトフォルダです。
web	Web フォルダは、Web Station のインストール時に作成されます。これは、Web サイトのホスティングのためのファイルを含みます。

web_packages	web_packages フォルダは、Web Station のインストール時に作成されます。インストールされている他社製パッケージ (phpMyAdmin など) のファイルが含まれます。
--------------	---

共有フォルダーのセットアップと削除

管理者グループに属しているユーザーである場合は、共有フォルダーを作成し、そのフォルダーにユーザーアクセス許可を付与できます。自分で作成したものである限り、共有フォルダーを削除することもできます。

- 共有フォルダーをセットアップするには、[コントロールパネル]>[共有フォルダー]に進みます。[作成]をクリックし、共有フォルダー作成ウィザードに従って共有フォルダー設定を行います。詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。
- 共有フォルダーを削除するには、[コントロールパネル]>[共有フォルダー]に進みます。共有フォルダーを選んでから、[削除]をクリックします。

注意:

- 共有フォルダーを削除すると、そのフォルダー内のデータやそのスナップショットはすべて削除されます。データが必要な場合、削除の前にまずそれをバックアップしてください。

File Station によるファイルの管理

File Station は、DSM にある組み込みのファイル管理ツールです。File Station は、Web ブラウザでファイルやフォルダーにアクセスしたり、それを管理するための集中化されたインタフェースを提供するもので、他のユーザーに付与する許可設定によりファイルにアクセスできるようにします。このセクションでは、File Station によるファイル管理の手順を説明します。

File Station の設定をカスタマイズする

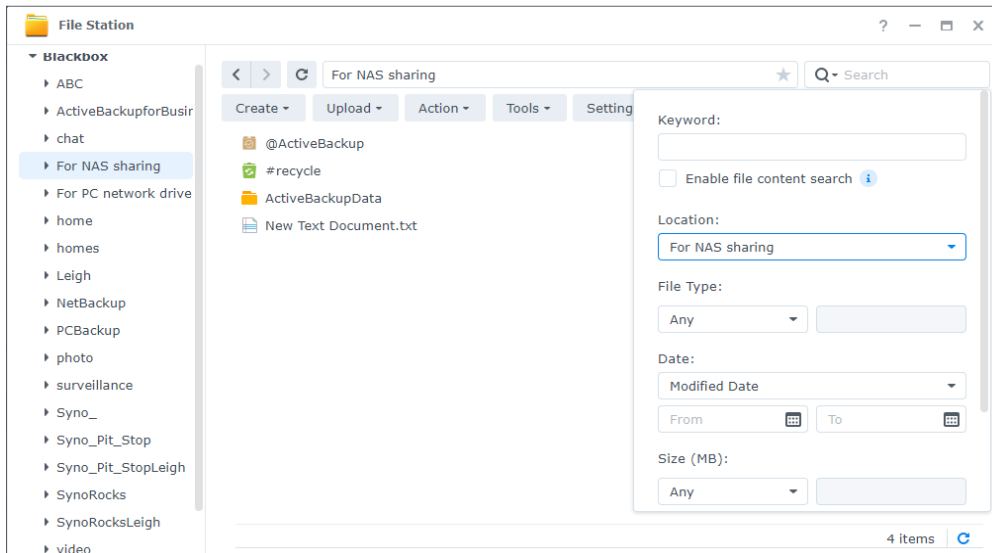
File Station を立ち上げ、[設定]をクリックします。ここでは、次のアクションを実行できます。

- 一般設定を行う。
- 共有フォルダー、仮想ドライブ、サーバー、クラウドサービスをマウントする。
- 特定のユーザーにファイルリンクの共有やファイルアクセスを要求することを許可する。
- File Station によるファイル転送に速度制限を設定する。
- セキュリティ上のために、HTML ファイルをプレーンテキストに変換できるようにする。

ファイルやフォルダーを検索する

File Station は、要求事項に合うよう、一般の検索と高度な検索を提供します。

- 一般の検索を実行するには、対象のファイルやフォルダーがあるフォルダーをクリックします。[検索]フィールドにキーワードを入力します。
- 高度な検索を実行するには、対象のファイルやフォルダーがあるフォルダーに進みます。[検索]フィールド横にある虫めがねアイコンをクリックし、高度な検索メニューを拡張し、そこにより正確な検索結果のために複数の検索条件を設定します。

**注意:**

- 素早い検索のためには、共有フォルダーのコンテンツをインデックス化することをお勧めします。詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。

ファイルとフォルダーを管理

ファイルやフォルダーを選択し、[アクション]をクリックするかまたは、それを右クリックして次のアクションを実行します。

- メールの添付ファイルとしてファイルを送信: ファイルを右クリックし、[メールの添付ファイルとして送信]を選択します。メール送信設定を個人ポップアップウィンドウをセットアップしていれば、File Station 内のファイルをメールの添付ファイルとして直接送信、および共有できます。
- 写真の表示や回転: 写真をダブルクリックして、ビューワーウィンドウで開き、そこで表示および回転ができます。
- アクセス許可の編集: ファイルやフォルダーを右クリックし、[プロパティ]を選択します。アクセス許可は、[許可]タブで編集します。
- ファイル共有リンクの生成: ファイルやフォルダーを右クリックし、[共有]を選択します。共有可能リンクが自動的に生成されます。さらに有効期間や特定の共有を有効にすることができます。

DS file によるファイルの管理


DS file は、Android と iOS デバイスで利用できるアプリで、Synology NAS に保存されているファイルにアクセスおよび管理できるようにします。DS file により、写真の表示、ビデオの視聴、作業文書のチェックがいつでも可能になります。このセクションでは、DS file のインストールとその利用のプロセスをご説明します。





DS file のインストールとサインイン

1. お使いのモバイルデバイスに DS file をインストールします。
2. ログイン ページで次の情報を入力します。

- アドレスまたは QuickConnect ID:これは、内部あるいは外部の IP アドレス、DDNS ホスト名、Synology QuickConnect ID のいずれかです。QuickConnect ID にサインインするには、[コントロールパネル] で QuickConnect を有効にしてください。詳細情報は、[QuickConnect ID を指定する](#)セクションを参照してください。
- アカウントとパッケージ
- HTTPS:安全性の高い HTTPS ログインを希望する場合は、HTTPS 接続を有効にします。HTTPS によるマルチメディアコンテンツを再生するには、ポートフォワーディング設定および有効な SSL/TLS 証明書が必要です。詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。

ファイルとフォルダーを管理

右上隅の [詳細オプション] または、ファイルまたはフォルダーの横にある  アイコンをタップすることで、一般的なファイル管理が可能です。

- アイテムに対し、コピー、削除、ダウンロード、共有、名前の変更、圧縮、取り出し、開く、を行います。アイテムを長押しし、[詳細オプション] アイコンをタップして実行するアクションを選択します。
- フォルダーを追加する:その親フォルダーで [詳細オプション] アイコンをタップし、[追加] > [フォルダーを作成] を選びます。
- アイテムをアップロードする:保存先の共有フォルダを選択してください。[詳細オプション] アイコンをタップし、[追加] > [アップロード] を選び、アップロードするファイルを選びます。[タスク] ページに進み、アップロードの進捗状況を表示します。
- ファイルをピン留めする:ファイルを Synology NAS から自分のローカルモバイルデバイスにピン留めできます。ファイル横にある  アイコンをタップし、[ピン] を選びます。ファイルをピン留めすると、[オフラインファイル] > [ピン留めされたファイル] でそれにアクセスできます。
- ピン留めされたファイルを同期:ローカルのピン留めされたファイルをソースファイルと同期させることができます。即時同期させるには、ファイル横にある  アイコンをタップし、[同期] を選びます。ピン留めされたファイルすべてを同期させるには、[ピン留めされたファイル] ページを更新します。DS file に次にログインした時点で、全てのファイルが同期されます。
- フォルダーをお気に入りに追加:フォルダー横にある  アイコンをタップし、[お気に入りに追加] を選びます。
- アイテムをアーカイブする:フォルダー横にある  アイコンをタップし、[アーカイブに追加] を選びます。DS file は、Synology NAS のストレージ領域を節約するためにファイルを圧縮することができ、秘密のファイルを保護するためにパスワードを設定できます。

2.9 アドオンパッケージのインストール

パッケージセンターでは、Synology NAS に対応した、さまざまな Synology 製およびサードパーティ製パッケージが提供されています。

このセクションでは、パッケージセンターの利用法について説明します。

パッケージセンターでパッケージをインストールする

1. パッケージセンターを起動します。
2. 利用可能なパッケージを見るには、すべてのパッケージページに進みます。

3. インストールしたいパッケージを見つけ、[インストール]をクリックします。(有料パッケージについては、[購入]をクリックし、クレジットカードで購入するか、または[試用]をクリックして評価用の体験版を使ってください。)
4. インストールが完了すると、そのパッケージが[メインメニュー]に表示されます。

ダウンロードセンターからパッケージをインストールする

1. Synology の[ダウンロードセンター](#)に進みます。
2. ドロップダウンメニューからご自分のモデルを選択します。
3. 検索結果の[パッケージ]タブに進み、希望するパッケージの .spk ファイルをダウンロードします。
4. パッケージセンターを起動します。
5. 検索バー横の[手動インストール]ボタンをクリックします。
6. [参照]をクリックして、.spk ファイルをアップロードします。
7. ウィザードに従い新しいパッケージをインストールします。

パッケージのインストレーションに加えて、自動更新などのパッケージ関連、およびパッケージセンターのパッケージソースを設定できます。パッケージセンターの詳細設定に関する詳細情報は、[この記事](#)を参照してください。

2.10 ローカルユーザーとグループの作成

ご自分の家族や会社の同僚に対しては、ユーザーアカウントを作成することで、Synology NAS にアクセス権を付与できます。管理を簡単にするために、ユーザーを分類してまとめて管理できるよう、グループを作成できます。このセクションでは、ユーザーとグループをコントロールパネルで作成する方法について説明します。

ユーザーの作成

1. [コントロールパネル]>[ユーザーとグループ]>[ユーザー]の順に移動します。
2. [作成]をクリックし、[ユーザー作成ウィザード]を立ち上げます。
3. ユーザー情報の入力ページで、次のユーザー情報を入力します。
 - 名前
 - 説明(オプション)
 - 電子メール(オプション):ユーザーの電子メールアドレスを入力します。パスワードリセットメッセージなどのシステム通知は、ここで指定されたアドレスに送られます。
 - パスワード
 - パスワードの確認入力
4. 同じページで、そのユーザーに適用される次の詳しい設定ができます。
 - 新規ユーザーに通知メールを送る:システムがメールを送信できるよう、[コントロールパネル]>[通知]>[メール]でメール通知を有効にします。通知設定をセットアップしたことがない場合は、このチェックボックスにチェックした際に確認ダイアログのポップアップが現

れ、セットアップページに誘導されます。通知設定に関する詳細は、[通知の管理](#)セクションを参照してください。

- 通知メールにユーザー パスワードを表示する
 - アカウントパスワードの変更をユーザーに許可しない
 - パスワードは常に有効:このオプションは、詳細タブでパスワード有効期限が有効でない場合には表示されません。このオプションにより、ユーザーのパスワードは常に有効となり、パスワード有効期限はこのユーザーには適用されません。
5. グループに参加ページで、新しいユーザーが所属するグループを指定します。デフォルトのグループは、管理者、http、ユーザーです。グループをカスタマイズするには、[グループの作成](#)セクションをご覧ください。
 6. 共有フォルダー許可の割り当てページで、ユーザーがアクセスできる共有フォルダーを選びます。ユーザー許可がグループ許可と競合する場合、権限の優先順位は次のようになります。アクセスなし > 読み取り / 書き込み > 読み取り専用 の順です。[プレビュー] カラムには有効になるアクセス権限が表示されます。
 7. ユーザークォータの割り当てページでは、各ボリューム / 共有フォルダーに対してユーザーが使用できる領域の最大量を指定できます。ユーザークォータフィールドで、値を入力し、サイズ単位を選択します。
 8. [アプリケーション アクセス権の割り当て] ページで、ユーザーがアクセスできるサービスを管理できます。ユーザー許可がグループ許可と競合する場合、拒否許可は常に許可許可よりも優先されます。
 9. ユーザーの速度制限の設定ページで、異なるサービス (File Station、FTP、rsync など) に対して速度制限を有効にして、ファイル転送時にユーザーが使える帯域の量を制限できます。それぞれのサービスに対して、次のいずれかのオプションを選択できます。
 - グループ設定の適用:ユーザーが複数のグループに所属している場合、もっとも速度制限の高いグループが他よりも優先されます。
 - 速度上限の設定:フィールドの右にアップロードとダウンロードの速度制限を指定します。
 - 詳細設定:設定したスケジュールに応じて、カスタマイズされた2つの速度制限とグループ制限が適用されます。ポップアップウィンドウで速度制限の設定の変更、およびスケジュールの設定ができます。
 10. 設定の確認ページで、設定のまとめをチェックし、確認します。
 11. [完了] をクリックして設定を終了します。

グループの作成

1. [コントロールパネル] > [ユーザーとグループ] > [グループ] の順に移動します。
2. [作成] をクリックし、[グループ作成ウィザード] を立ち上げます。
3. グループ情報の入力ページで、グループ名を入力します。
4. メンバーの選択ページで、対象ユーザーをグループに追加します。
5. 共有フォルダー許可の割り当てページで、各共有フォルダーにグループメンバーの許可を指定します。
6. グループクォータの割り当てページで、各グループメンバーが使用するストレージ量をコントロールするために、各サービスに対する使用クォータを有効にします。

7. アプリケーション許可の割り当てページで、どのサービスをグループメンバーがアクセスできるかをコントロールします。
8. グループの速度制限の設定ページで、異なるサービス (File Station、FTP、rsync など) に対して速度制限を有効にして、ファイル転送時に各グループが使える帯域の量を制限できます。それぞれのサービスに対して、次のいずれかのオプションを選択できます。
 - 速度上限の設定: フィールドの右にアップロードとダウンロードの速度制限を指定します。
 - 詳細設定: 設定したスケジュールに応じて、カスタマイズされた 2 つの速度制限が制限無しが適用されます。ポップアップウィンドウで速度制限の設定の変更、およびスケジュールの設定ができます。
9. 設定の確認ページで、設定のまとめをチェックし、確認します。
10. [完了] をクリックして設定を終了します。

2.11 通知設定を管理

特定のイベントやエラーが発生した時に、自動的に通知が送られるように Synology NAS を設定できます。利用可能な通知方法は、メール、SMS、プッシュ通知です。このセクションでは、通知の配信の設定に関して簡単な説明をします。[コントロールパネル] > [通知] に進みます。

1. メール、SMS、プッシュサービスタブに進み、必要な情報を入力します。情報の入力方法については、次の記事を参照してください。
 - [電子メール](#)
 - [SMS](#)
 - [プッシュ サービス](#)
2. [ルール] タブに進み、次の設定を設定します。
 - イベントタイプ: システムが通知メッセージを送信するきっかけのイベントを選び、選択された各イベントの配信メディアを指定します。
 - メッセージコンテンツ: 各イベントには、デフォルトの通知メッセージがあります。イベントを選択し、[メッセージを編集] をクリックし、メッセージコンテンツをカスタマイズすることもできます。

Level	Event	Email	SMS	Push Ser...
Active Backup for Business				
Info	Device connected	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Info	Device logged out	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Info	Device offline	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Info	Device deleted	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Critical	Agent task creation failed	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Critical	Failed to update the device	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Warning	Backup verification canceled	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Critical	Backup verification failed	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Warning	Backup verification partially compl...	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Info	Backup verification completed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Warning	Backup task partially completed	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

Note: You can change notification language setting in [Regional Options](#).

注意:

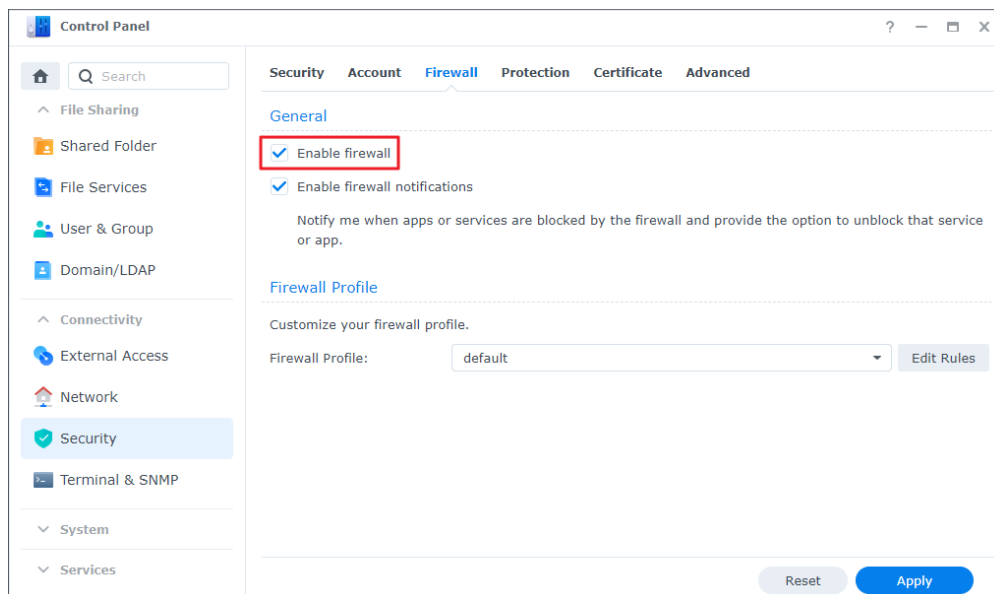
- 通知言語を変更するには、[地域オプション] に進みます。

2.12 セキュリティの強化

Synology NAS がインターネットに接続されると、システムセキュリティに配慮することが不可欠です。このセクションでは、DSM のセキュリティを強化する 4 つの方法をご紹介します。

ファイアウォールを動作させる

1. [コントロールパネル] > [セキュリティ] > [ファイアウォール] に進みます。
2. [ファイアウォールを有効にする] にチェックを入れ、[適用] をクリックします。DSM にデフォルトのファイアウォールのプロファイルが適用されます。ファイアウォールプロファイルをカスタマイズするには、[この記事](#)の詳細な指示を参照してください。

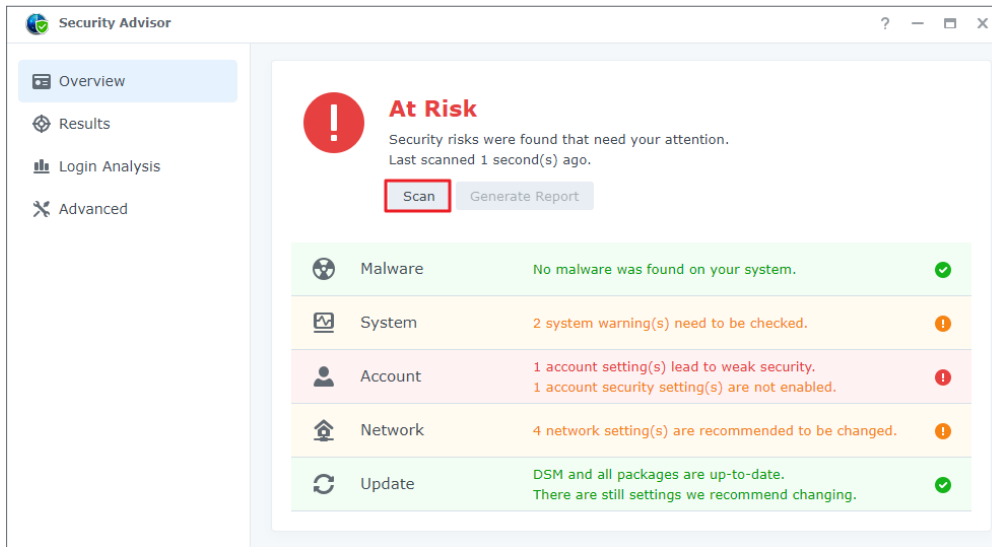


セキュリティアドバイザーの活用

セキュリティアドバイザーは、Synology NAS をスキャンして DSM 設定をチェックし、セキュリティの弱い点への対処方法をアドバイスする組み込みアプリケーションです。次の手順に従い、Synology NAS のセキュリティを保ってください。

Synology NAS を直ちにスキャン

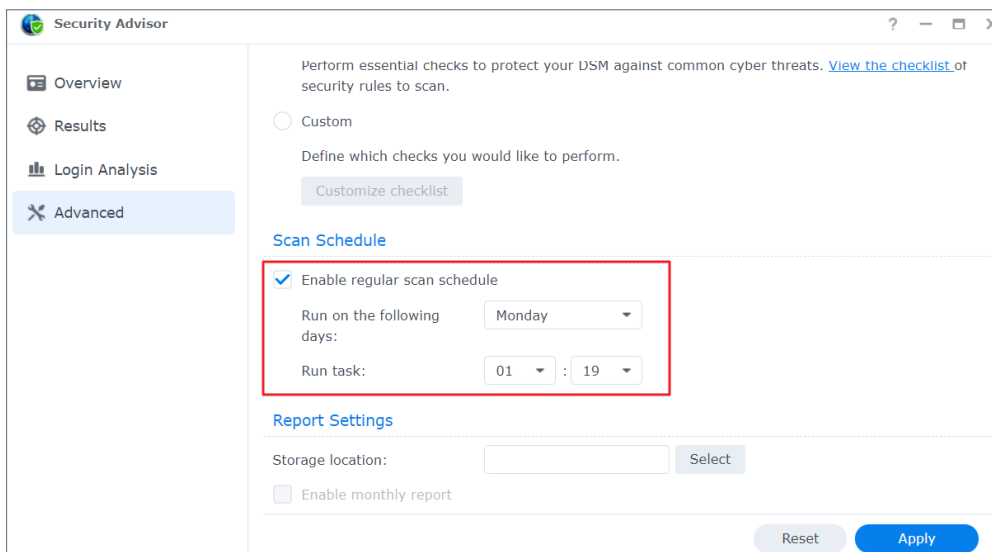
1. [セキュリティアドバイザー] > [概要] に移動します。
2. [スキャン] をクリックします。



3. スキャン結果に応じてセキュリティの弱い点を直します。

自動スキャンスケジュールをセットアップ

1. [セキュリティアドバイザー] > [詳細] に移動します。
2. スキャンスケジュールセクションの下で、[定期的なスキャンスケジュールを有効にする] のチェックを入れます。ドロップダウンメニューからスキャンを実行する時間を選択します。



3. [適用] をクリックして設定を保存します。

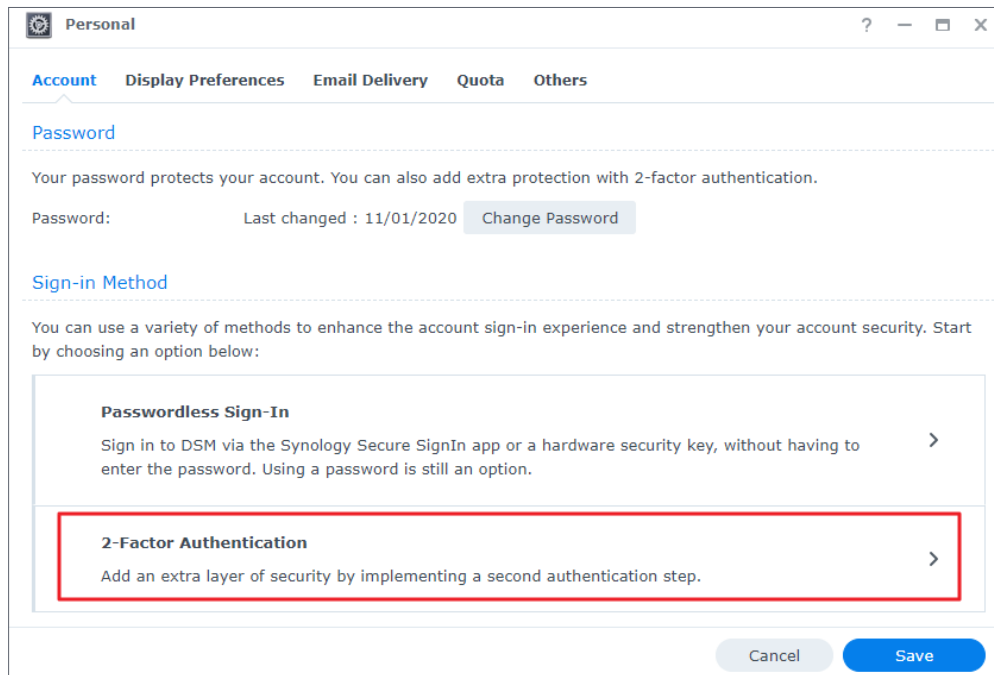
詳しくは、[セキュリティアドバイザー](#)にある記事をご覧ください。

2 要素認証でアカウントを保護する

2 要素認証は、DSM アカウントにさらにセキュリティを追加します。このオプションを有効化した後には、DSM にサインインする際に、ご自分のパスワードの他にワンタイム認証コードの入力が必要になります。このコードは、モバイルデバイスにインストールした認証アプリ (Synology Secure SignIn や Google Authenticator など) を通じて入手します。

ご自身のアカウントで 2 要素認証を有効にするには、次の手順に従ってください。

- [個人] > [アカウント] の順に移動し、[2 要素認証] をクリックしてセットアップ ウィザードを起動します。パスワードを入力して続行します。



- [コントロールパネル] > [セキュリティ] > [アカウント] で Secure SignIn サービスがすでに有効になっている場合は、2 段階サインインとして、サインインの承認、ハードウェアセキュリティキー、OTP のいずれかを選択します。
- Secure SignIn サービスが有効になっていない場合は、OTP が 2 段階サインインで利用可能な唯一のオプションです。

2 要素認証の詳細については、[この記事](#)を参照してください。

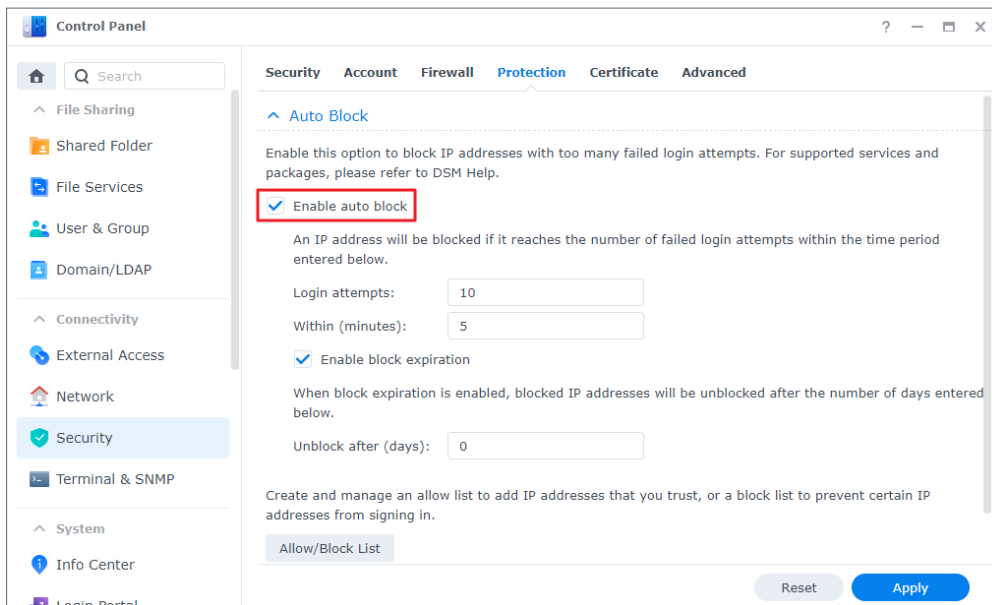
自動ブロック、アカウント保護、DoS 防御の有効化

自動ブロック、アカウント保護、DoS 保護、これら 3 つの機構により、DSM の防御性能を高めることができます。

不正アクセスの自動ブロック

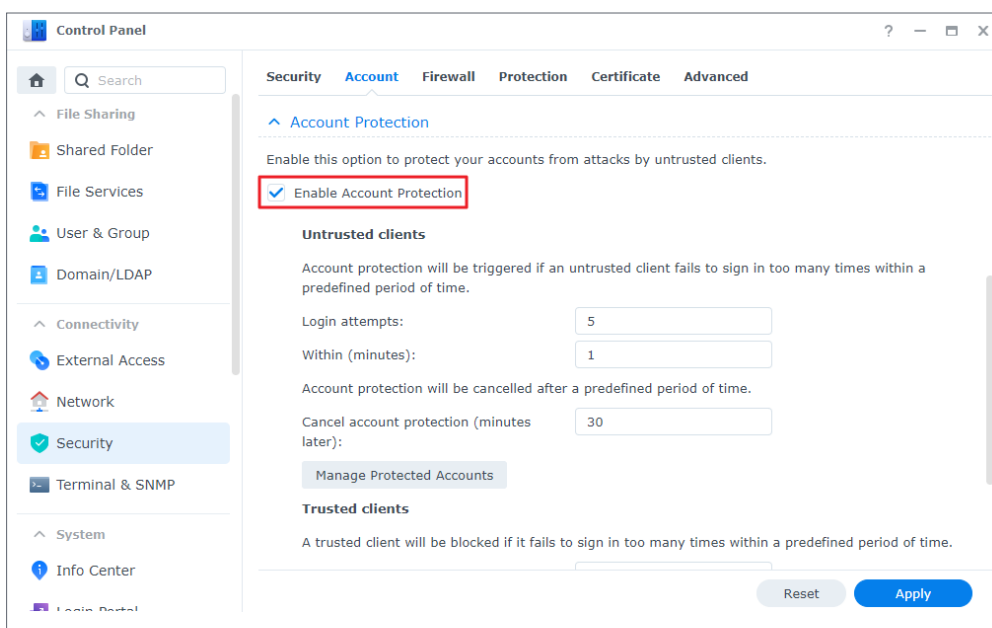
1. [コントロールパネル] > [セキュリティ] > [保護] > [Auto Block] に進みます。
2. [自動ブロックを有効にする] を選択します。
3. [ログイン回数] 欄と [有効時間(分)] 欄に値を入力します。指定期間内に指定した回数以上ログインに失敗すると、その IP アドレスはブロックされます。

- [ブロック有効期限を有効にする] にチェックを入れ、指定日数経過後にブロックした IP アドレスのブロックを解除するために [次の経過後にブロック解除 (日)] フィールドに値を入れます。
- [適用] をクリックして設定を保存します。



ログイン攻撃を防御するアカウント保護を有効化

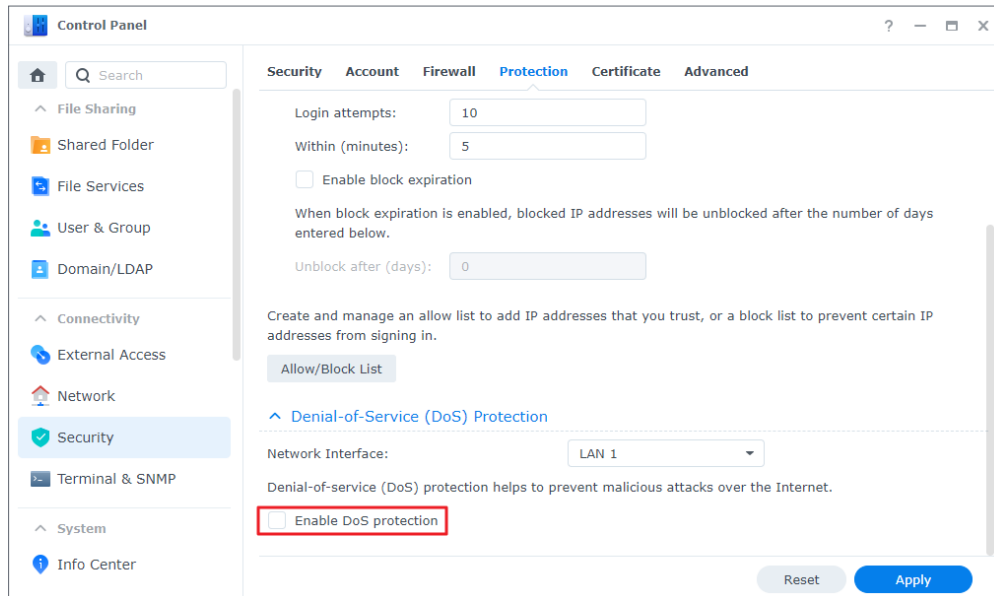
- [コントロールパネル] > [セキュリティ] > [アカウント] > [アカウント保護] に進みます。
- [アカウント保護を有効にする] にチェックを入れます。
- [ログイン回数] 欄と [有効時間 (分)] 欄に値を入力します。指定期間内に指定した回数以上ログインに失敗すると、信用されていないクライアントはブロックされます。
- 信頼されていないクライアントの場合は、[アカウント保護の取り消し (数分後)] フィールドに値を入力します。アカウント保護は、指定された期間後にキャンセルされます。
- 信頼されていないクライアントの場合は、[ブロック解除 (数分後)] フィールドに値を入力します。アカウント保護は、指定された期間後にキャンセルされます。
- [適用] をクリックして設定を保存します。



DoS 攻撃に対する防御

DoS (Denial-of-Service) 攻撃は、サービス機能を妨害することで、ネットワークサービスを利用不要にする悪意のある試みです。この朱のサイバーアタックを避けるには、次の手順に従ってください。

1. [コントロールパネル] > [セキュリティ] > [保護] > [DoS (Denial-of-Service) 防御] に進みます。
2. [DoS 防御を有効にする] にチェックを入れ、[適用] をクリックします。



自動ブロック、アカウント保護、DoS 防御に関する詳細は、[この記事](#)を参照してください。

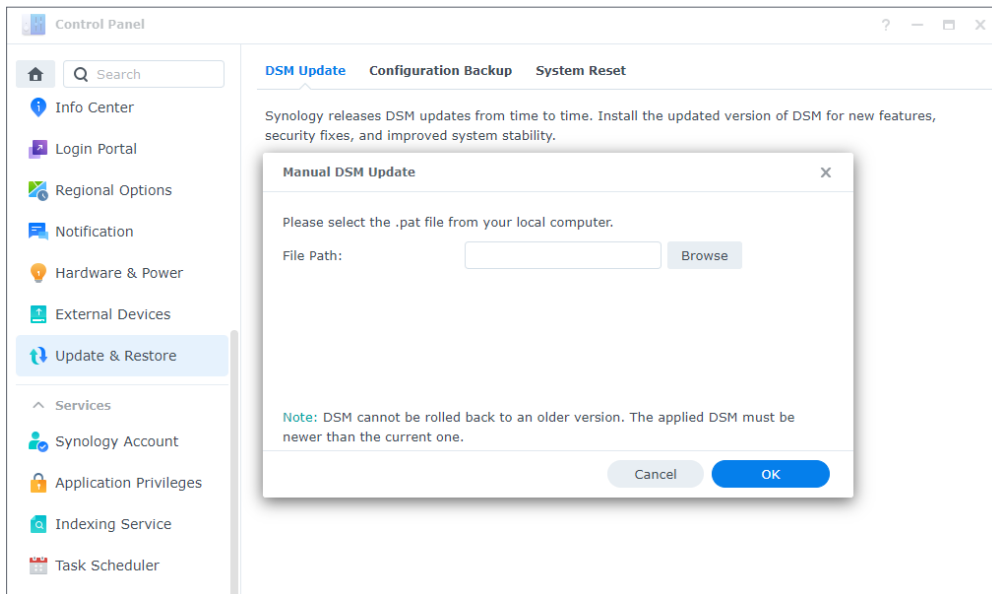
2.13 DSM を更新された状態に保つ

Synology は、適時に DSM の更新版をリリースします。これらの更新には、新しい機能、機能向上、パフォーマンス強化が含まれます。このセクションでは、DSM の更新版の設定について説明します。

手動により DSM 更新を実施する

1. Synology の[ダウンロードセンター](#)に進みます。
2. 2 つのドロップダウンメニューからご自分のモデルを選択します。
3. 検索結果の [オペレーティングシステム] タブに進み、更新ファイルをダウンロードします。
4. [DSM] > [コントロールパネル] > [更新と復元] > [DSM の更新] に進みます。
5. [手動により DSM をアップデート] をクリックします。

6. ポップアップウィンドウで、[参照] をクリックしてファイルをアップロードします。



7. [OK] をクリックし、ファイルがアップロードされるのを待ちます。
8. 更新情報に目を通し、確認チェックボックスにチェックを入れた後、[更新] をクリックします。
9. 確認ボックスで [はい] をクリックします。インストレーションには 20 ~ 40 分ほどかかります。更新中はシステムをシャットダウンしないでください。
- 10.更新が完了した時点で、システムはすべてのサービスとパッケージを再起動します。

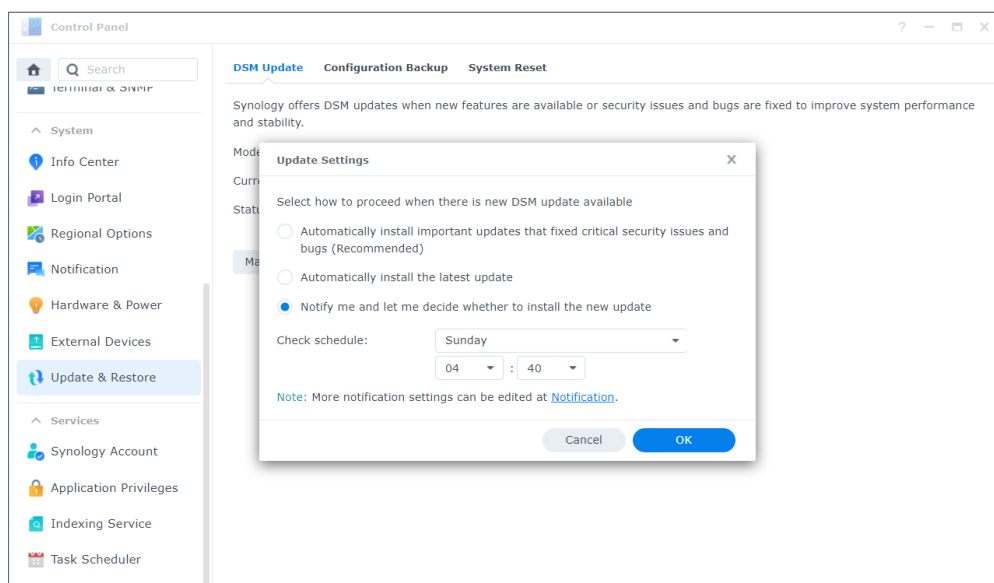
注意:

- DSM の更新後は、以前のバージョンにダウングレードすることはできません。
- 利用可能な更新と最新バージョンは、お持ちの DSM 設定によって変わります。

自動による DSM 更新をセットアップする

1. [DSM] > [コントロールパネル] > [更新と復元] > [DSM の更新] に進みます。
2. [更新設定] をクリックします。
3. ポップアップウィンドウで、Synology の [ダウンロードセンター](#) 経由で、DSM のリリースをチェックするために次の設定ができます。
 - 重大なセキュリティ問題とバグを修正する重要な更新を自動的にインストール (推奨): システムによる重要な DSM 更新の自動インストールを許可。お使いのシステムが常に保護された状態になるよう、このオプションを有効にすることをお勧めします。
 - 最新の更新を自動的にインストール: システムのチェックで新しい更新が利用できることが見つかった場合、システムが自動的に新しい DSM 更新をインストールすることを許可します。
 - 新しい更新を通知し、インストールするかどうかを自分で判断: 新しい DSM 更新が利用できる場合、デスクトップ通知でシステムが通知を出すようにします。通知を受けた後、更新をダウンロードするかどうかを選択できます。

- スケジュールをチェック:システムが更新を利用できるかどうかチェックするタイミングを決めます。ドロップダウンメニューから、確認時間を指定します。



注意:

- 自動更新はメジャーな更新にのみ適用され、マイナーな更新は除外されます。一般に、マイナーな更新にはバグ修正やセキュリティパッチが含まれ、メジャーな更新にはバグ修正やセキュリティパッチに加えて新機能や性能強化が含まれます。また、重要な更新には、重大なセキュリティ上の問題やバグの修正も含まれます。重要な更新の詳細については、[この記事](#)を参照してください。

第3章:アカウントと権限

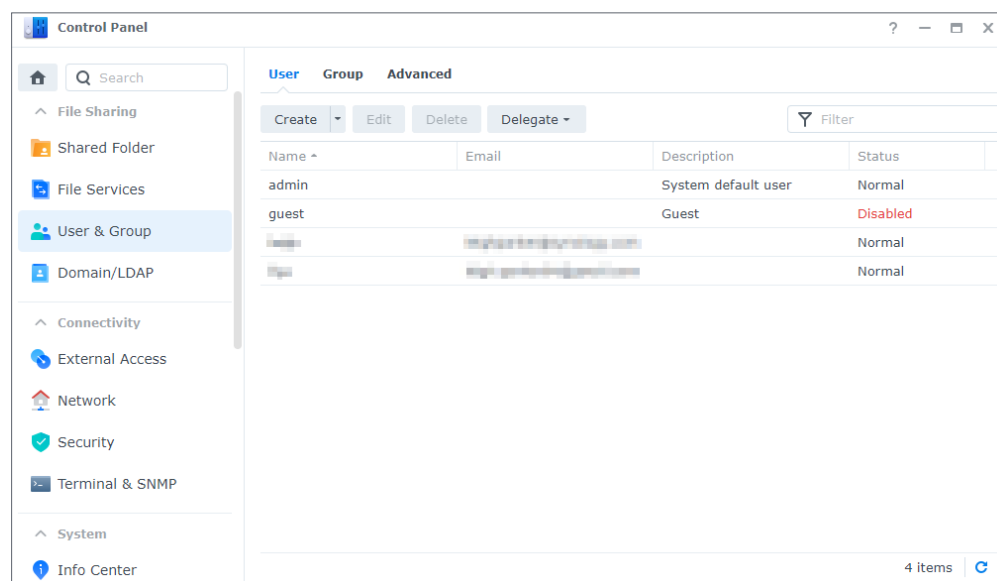
3.1 アカウントと権限

DSM のアクセスを他の人と共有するためにユーザーアカウントを作成し、アカウントと許可の管理をシンプルにするためにユーザーグループをセットアップできます。

各ユーザーに共有フォルダーアクセス、アプリケーション許可、ストレージクォータ、アクセス速度制限を割り当てます。ユーザーまたはグループにアクセス許可を付与します。

管理の委任により、管理業務を管理者権限を持っていないユーザーやグループに割り当てることができます。タスクごとにユーザーアカウント、共有フォルダー、システムサービスの管理を、あるいはシステム監視業務を委任します。

管理者業務を委任することで、IT に関する負荷を分散したり、不在時に同僚に任せたりできます。



アカウントおよび権限に関係した設定は、[コントロールパネル]>[ユーザーとグループ]で行えます。ユーザーとグループの作成および管理の方法については、[クイックスタートガイド](#)セクションのステップバイステップガイドを参照してください。詳細情報に関しては、[ユーザーとグループ](#)にある記事を参照してください。

関連項目

- ビデオチュートリアル:[Synology NAS でユーザー権限を管理する方法](#)

3.2 ディレクトリクライアント

[コントロールパネル]>[ドメイン /LDAP]で、Synology NAS を、Microsoft Active Directory、Synology Directory Server、JumpCloud LDAP サービスなどの既存のディレクトリサービスに参加させることができます。ディレクトリクライアントとして、ディレクトリユーザーの、共有フォルダー、ホームフォルダー、DSM サービスへのアクセス許可を管理できます。

さらに、Synology NAS をシングルサインオン (SSO) クライアントに変えることもできます。SSO クライアントとして動作する Synology NAS により、ユーザーはお持ちの Synology サービスやデバイスすべてへのアクセスで資格情報の入力は一度で済みます。

Synology NAS をディレクトリサービスに参加させるかどうかには関係なく、それを SSO クライアントに変えることができます。

Synology NAS をディレクトリサービスに参加させるための詳細は、[この](#)を参照してください。

関連項目

- [SSO ソリューションを Azure AD Domain Services と一緒に Synology NAS に導入するにはどうしたらいいですか？](#)

3.3 Synology Directory Server

Synology Directory Server を使うと、ドメインアカウントとリソースを Samba 越しに管理できます。これは一般によく使われる Windows Active Directory 機能をサポートします。

- 組織ユニット (OU) でオブジェクトを分類
- デバイス管理にグループポリシーを適用
- 認証に Kerberos を使用
- 広範なクライアントデバイスに参加

Synology Directory Server により、組織構造に従ってディレクトリデータベースを安全に保存し、ユーザーアカウントを管理し、デバイスを展開できます。

Synology Directory Server でドメインをセットアップする方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [Synology Directory Server のユーザーにローミング プロファイルを展開する方法は？](#)
- [Synology Directory Server のユーザーにネットワークドライブをマウントする方法？](#)
- [Synology Directory Server にグループポリシーを設定する方法は？](#)
- [「sysvol」フォルダと「netlogon」フォルダが存在する理由は何ですか？](#)

3.4 LDAP Server

LDAP Server で、アカウント認証サーバーを実行します。LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、アクセスをまとめて制御するために使われるクロスプラットフォームのプロトコルで、複数のアカウントを IP ネットワークを介して、集中してディレクトリ情報に保存されます。

組織内ユーザーの複数のリストを 1 つの LDAP ディレクトリにまとめ、管理するデータベースの数を減らします。

LDAP Server をセットアップすることで次のことが可能になります。

- プロバイダー - コンシューマー型のサーバーアーキテクチャを構築。
- 匿名、非暗号化、あるいはアイドルクライアントによるアクセスを制限するために、接続設定を指定。
- ニーズに従ったユーザーとグループの作成と生理。
- アカウントのセキュリティを確保するためにサインインとパスワード設定をカスタマイズ。
- LDAP データベースとパッケージ設定をバックアップおよび復元。
- Google Workspace ドメイン用に、Synology NAS をアイデンティティプロバイダーに変える。

LDAP Server をセットアップする詳細は、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [Mac/Linux クライアント コンピュータを Synology LDAP ディレクトリ サービスに参加させる方法](#)
- [Synology の LDAP Server を Google Cloud Directory Sync 経由で Google Workspace と同期する方法は?](#)

3.5 SSO Server

いくつかのアプリケーションを Synology NAS にホストする場合、Synology SSO Server をダウンロードすることでシングルサインオンをセットアップできます。Web アプリケーションを統合することにより、資格情報のひとつでアプリへのアクセスが可能で、これにより、他のユーザーと共に、利便性とスピードによるメリットを享受できます。

- ユーザーが覚えているべきはひと組のサインイン用資格情報だけで、アプリごとに別々のサインインは不要です。
- データベースの一人ひとりのユーザーに対する資格情報をひと揃い保持することなく、集中してアプリケーションの管理が可能です。
- 最小化されたデータベースで、サインインの問題が減ります。

SSO Server を動かすには、ドメインあるいは LDAP サービスが必要です。SSO Server をセットアップする詳細は、[この記事](#)を参照してください。

3.6 RADIUS Server

RADIUS Server は、Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) プロトコルで、有線および無線のネットワーク接続に対し認証、認可、アカウントिंग (AAA) を提供するアドオンパッケージです。RADIUS Server は次の事項を可能にします。

- ネットワーク上で RADIUS によるサポートにより、ワイヤレスルーター、VPN サーバー、ネットワークスイッチを柔軟にデプロイ。
- 異なる接続タイプの規制プロセスを安全に統合。
- 多彩な認証方法 (PAP、MS-CHAP、PEAP、EAP-MSCHAPv2、EAP-TTLS など) から 1 つを選択。
- 既存のローカル DSM、ドメイン、LDAP ユーザーリストからインポート。
- ユーザーおよびグループの詳しい成約を設定。
- 詳細レポートでアクセス状況を追跡。

RADIUS Server の詳細については、[この記事](#) を参照してください。

第 4 章:ストレージと仮想化

4.1 ストレージマネージャー

ストレージマネージャーでは、Synology NAS のストレージユニットを整理し、ストレージの全体的な利用を監視し、全ドライブの正常性を検査することができます。

主要な項目:

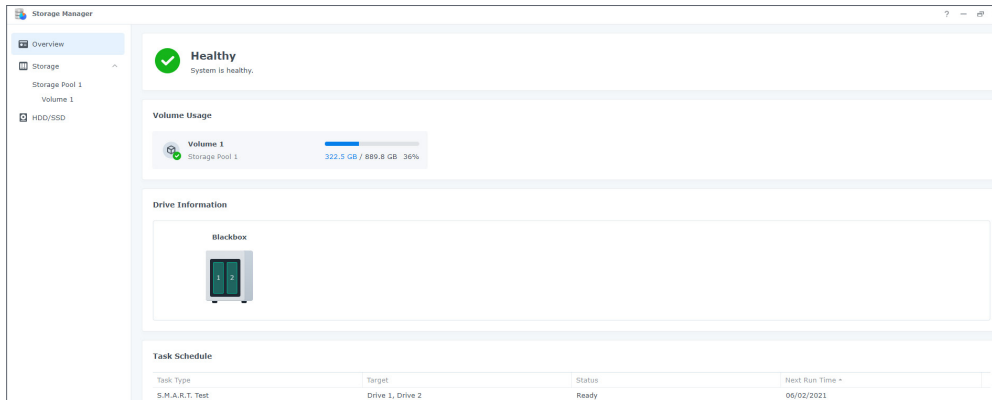
ストレージマネージャーを使用する前に、次の項目を理解しておくことが役立ちます。

- ストレージプール:
 - 1 台または複数のドライブを 1 つのストレージユニットにまとめたものをストレージプールと呼びます。ストレージプールは、Redundant Array of Independent Disks (RAID) として知られるデータストレージ技術で保護されるように設定されます。
- RAID:
 - RAID は、複数の物理ドライブを 1 つまたは複数の論理ユニットに集約して対障害性と性能、そしてストレージ容量を上げるデータストレージ技術です。
 - サポートされる RAID タイプは、Synology NAS モデルによって変わります。詳細は、[この記事](#)およびお使いの Synology NAS の製品仕様をご覧ください。
- ボリューム:
 - ボリュームは、ストレージプールの上に作成され、Synology NAS の基本的なストレージ領域となります。共有フォルダー、ドキュメント、パッケージデータはすべてここに保存されます。

ストレージプールとボリューム

Synology NAS にデータを保存する際には、少なくとも1つずつのストレージプールとボリュームを作成します。詳細については、[2.7 章](#)の指示をご覧ください。

全般的なシステムステータス、ボリュームの利用、ドライブ情報、スケジュールしたタスクなど、ストレージシステムについての主要な情報を見るには、[ストレージマネージャー] > [概要] に進みます。



すべてのストレージプールとボリュームは、[ストレージマネージャー] > [ストレージ] で表示および管理します。ここで実施できるアクションは、お使いの Synology NAS モデルや構成によって変わります。

- 既存データを失うことなくストレージプールの RAID タイプを変更。
- ストレージプールを単一ボリュームサポートから複数ボリュームサポートに変換。
- ストレージプールとボリュームの容量を拡げるためにドライブを追加または交換。
- SSD のみのストレージプールの性能を最適化するために SSD TRIM を有効に。
- データの整合性を維持するために、ストレージプールでデータスクラビングを実行またはスケジュール。
- ボリュームのファイルアクセス性能を高めるために、ファイルシステムのデフラグメンテーションを実行。

関連項目

- 情報に関しては、[ストレージプールとボリューム](#)にある記事を参照してください。

Hot Spare

Hot spare ドライブは、Synology NAS に自動的に性能低下したストレージプールを修復させるようにするスタンバイドライブです。1 台または複数のドライブの対障害性でストレージプールを保護するには、[ストレージマネージャー] > [ストレージ] > [Hot Spare] で Hot Spare ドライブを割り当てます。

ドライブがクラッシュした、あるいはストレージプールの性能低下した場合、Hot Spare ドライブがクラッシュしたドライブを交換し、ストレージプールを復旧できます。より詳細な情報は、[この記事](#)を参照してください。

注意:

以下の要件と制限事項にご注意ください。

- ストレージプールの RAID タイプは、1 台または複数のドライブでの対障害性が必要です (RAID 1、RAID 5、RAID 6、RAID 10、RAID F1、2 台以上からなる SHR)。
- Hot Spare ドライブの容量は、RAID 1、RAID 5、RAID 6、RAID 10、または RAID F1 ストレージプール内の最小ドライブの容量と同等かそれ以上である必要があります。
- Hot Spare ドライブの容量は、SHR ストレージプールで最大のドライブの容量と同じまたはそれ以上である必要があります。
- HDD および SSD はそれぞれ、同じドライブタイプのストレージプールに対する Hot Spare としてのみ割り当てられます。SSD Hot Spare は SSD ストレージプールだけを保護でき、HDD は HDD プールだけを保護します。

SSD キャッシュ

SSD キャッシュは、HDD アレイの性能を向上させる、コスト効率のよい方法です。これは、頻繁にアクセスされるデータを、ボリュームまたは LUN にマウントされている SSD キャッシュの SSD に保存することで、ランダムアクセス性能を向上させます。この機能は、特定のモデルでのみ使用できることにご注意ください。この機能をサポートする Synology NAS モデルを知るには、[この記事](#)を参照してください。

SSD キャッシュには次の 2 つのタイプがあります：

- 読み取り専用キャッシュは、頻繁に読み込まれるデータの保存に 1 台またはそれ以上の SSD を使用し、ランダム読み取り性能を向上させます。このキャッシュモードではボリュームからのデータのコピーのみが保存されるため、SSD の障害が発生してもデータ損失は発生しません。
- 読み取り書き込みキャッシュは、少なくとも 2 台の SSD を使って対障害性のあるキャッシュを作成します。読み取り / 書き込みキャッシュは、まずデータを SSD に書き込み、ランダムな読み取り / 書き込みパフォーマンスを向上させ、データアクセス速度を高速化します。

SSD キャッシュの両方のタイプまたはモデルも、最大 6 台で構成できますが、ドライブは同じタイプでなければなりません。SSD キャッシュに関する詳細情報とセットアップ方法については、[この記事](#)を参照してください。

ご自身のケースで SSD キャッシュの最適サイズが不明な場合は、[ストレージマネージャー] > [ストレージ] > [SSD キャッシュアドバイザー] で分析を実行することを強くお勧めします。

SSD キャッシュアドバイザーは、選択したボリュームに対する現在のデータ使用パターンを分析し、適切な推奨 SSD キャッシュ推奨サイズを提示します。より正確な結果を得るには、最初の分析を少なくとも 7 日間実行します。

SSD キャッシュアドバイザーの詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

詳細は、以下の関連記事をお読みください。

- [SSD キャッシュ作成時の重要な考慮事項](#)
- [Synology SSD キャッシュを使用することに関するよくある質問](#)
- [SSD キャッシュの推奨最小サイズは？](#)

HDD/SSD

[ストレージマネージャー] > [HDD/SSD] で、ドライブの正常性を検査し、フォローアップアクションをとってください。推奨ストレージセットアップと Synology NAS モデルに応じて、以下のことができます。

- 場所、ストレージプールの割り当て状態、正常性、温度、シリアル番号、ファームウェアバージョンなど、ドライブの正常性情報を確認。
- ドライブの状態を確認するため、S.M.A.R.T. テストのスケジュールと実行。
- ストレージプールまたは SSD キャッシュを作成、管理、修復するためにドライブを割り当て。
- SSD の推定寿命通知を有効にし、SSD の推定寿命期待値が指定値に達した時に警告を出させる。
- Synology NAS のシステム性能を高めるために、書き込みキャッシュサポートを有効化。

関連項目

- HDD/SSD ページに関する詳細情報は、[この記事](#)をご覧ください。

4.2 ストレージの拡張

Synology NAS に追加の拡張ユニットまたは拡張デバイスを取り付け、ストレージをスケールアップします。

拡張ユニット

Synology NAS に拡張ユニットでスケールアップし、全体のストレージを増やしたり、バックアップ先として拡張ユニットサーバーを使用します。拡張ユニットは、Synology NAS に接続されると自動的に動作するよう作られており、シームレスにストレージ領域をアップグレードできます。

メインの Synology NAS およびそれに接続されている拡張ユニットをまたがるストレージ領域を作成し、管理できます。ただし、性能を保つためには各ストレージ領域を 1 つのデバイス上にしておくことをお勧めします。

関連項目

- Synology 拡張ユニットに関する情報を見るには、[このページ](#)をご覧ください。
- すでに拡張ユニットをお持ち場合、ベストプラクティスのヒントは [このソリューションガイド](#)を参照してください。

外部デバイス

Synology NAS に接続されている拡張デバイス (SD カードや USB デバイスなど) の管理は、[コントロールパネル] > [拡張デバイス] で行います。接続されている外部デバイスは、そのドライブ容量にアクセスできる、システム作成の共有フォルダーとして見えます。

[USB Copy](#) パッケージをインストールすることで、Synology NAS と外部ストレージデバイスの間で複数の方法でコピーができるようになります。Synology NAS は、次の特定のファイルシステムを USB 経由でのみ認識します。Btrfs、ext3、ext4、FAT32、exFAT、HFS Plus、NTFS。その他のファイルシステムをもつ外部ドライブは、使用する前にフォーマットする必要があります。より詳細な情報は、[この記事](#)を参照してください。

exFAT ファイルシステムに保存されているデータにアクセスしたい場合は、Synology NAS に exFAT Access パッケージをインストールします。exFAT パッケージに関する詳細情報は、[この記事](#)を、そして対応モデルについては[この記事](#)を参照してください。

4.3 Storage Analyzer

Storage Analyzer は、Synology NAS の全般的な使用傾向を監視できます。システムを管理し、設定を最適化することに役立つ、ボリュームに関する詳細なレポートを取得する報告タスクを作成します。詳しくは、[Storage Analyzer](#) にある記事をご覧ください。

4.4 SAN Manager と Storage Console

Synology NAS を SAN Manager で、コンピューターの拡張ストレージにします。LUN を作成するためにボリュームの一部を分割し、ストレージエリアネットワーク (SAN) サービスを用いてそれに接続します。

Synology NAS は、VMware®、Microsoft®、その他の仮想化プラットフォームのための認定ストレージとなります。管理の効率を上げるため、ストレージシステムをハイパーバイザーの中で管理するために VMware および Windows 用に Synology Storage Console をインストールします。

- SAN ストレージの配備にあたって、iSCSI とファイバーチャネルのいずれかを選択します。ファイバーチャネルの配備には、適切なスイッチとアダプターが必要です。
- ブロックレベルのデータストレージとして、Thick-provisioning または Thin-provisioning の LUN を作成します。
- ブロックレベルのストレージを、スナップショットと複製機能で保護します。

iSCSI やファイバーチャネルの設定方法については、[SAN Manager](#) にある記事を参照してください。プラグインに関する詳細情報は、Synology Storage Console for [VMware](#) および Synology Storage Console for [Windows](#) についての記事をご覧ください。

関連項目

- VMware 環境に Synology Storage Console をインストールする手順については、[このチュートリアル](#)を参照してください。

4.5 Virtual Machine Manager

Virtual Machine Manager は、Synology NAS 用の十分な機能をもつハイパーバイザーです。Synology NAS 上に仮想化された Windows または Linux サービスを実行でき、Virtual DSM の仮想インスタンスが作成できます。

第4章:ストレージと仮想化

クラスタリングアーキテクチャにより、ひとつのポータルから複数の Synology NAS にまたがる仮想マシンとオペレーションを管理できます。必要な時に異なる Synology NAS 同士で、利用可能なハードウェアリソースを割り当て、仮想マシンを移行させます。

データ保護に関しては、スナップショットと複製による保護計画で仮想マシンを安全に保ちます。システム停止を最小化するために、ハイアベイラビリティ機能が組み込まれています。

パッケージとその機能性に関する詳細は、[Virtual Machine Manager](#) にある記事を参照してください。

第 5 章: ファイル共有と同期

5.1. 共有フォルダー

Synology は、一般的なストレージ用とマルチサイトファイルアクセスの 2 種類の共有フォルダーを提供します。

共有フォルダ

共有フォルダーは、Synology NAS にファイルとフォルダーを保存する基本的なディレクトリです。データを共有する前に、少なくとも 1 つの共有フォルダーを作成する必要があります。

プライベートの共有フォルダーにデータを保存、あるいはカスタムアクセス許可を設定して特定のユーザーやユーザーグループと共有します。保護のレイヤを加えるには、共有フォルダーを暗号化することもできます。

共有フォルダーの作成とファイルの共有を始める方法については、[2.8 章](#)や、[共有フォルダー](#)にある記事を参照してください。

共有フォルダーには次のような高度なオプションがあります。

- ほぼ一瞬でコピーを作成する共有フォルダーのクローニング (Btrfs ボリュームでのみ利用可能)。
- 取り出し可能な形で削除したファイルやフォルダーを保存する、ごみ箱機能の有効化。
- 共有フォルダーの暗号鍵を管理し、複数の共有フォルダーを一度に復号化する Key Manager の使用。

関連項目

- [SMBまたはAFPでSynology NAS上の共有フォルダーにアクセスできません。どうしたらよいでしょう。](#)

Hybrid Share フォルダ

Hybrid Share フォルダーは、Synology のパブリッククラウドソリューションである C2 Storage 上のクラウドストレージです。Hybrid Share フォルダーを Synology NAS 上の共有フォルダーの一形態としてマウントし、C2 Storage でオンプレミスの Synology NAS を接続できます。Synology NAS 上で Hybrid Share フォルダーをマウントすると、クラウドベースの全データをローカルとして表示でき、もっとも最近アクセスしたファイルだけをローカルサイトにキャッシュできます。Hybrid Share フォルダーは、Hybrid Share service が提供する機能のひとつで、以下の事項が可能になります。

- マルチサイトファイルアクセス: 複数の Synology NAS に同じ Hybrid Share フォルダーをマウントし、集中化して保存されているデータにアクセスします。

- ディザスタリカバリ:Synology NAS に Hybrid Share フォルダをマウントすることで、新しい NAS に移行する時や、ドライブ障害時にデータ復元処理に時間を費やすことなく、保存されているすべてのデータにすぐアクセスできます。

始めるには次の事項が必要です。

- Hybrid Share プラン
- DSM 7.0 以降のバージョンが動作している Synology NAS
- Hybrid Share Service パッケージ
- Hybrid Share フォルダをマウントする Btrfs ボリューム
- 外部ネットワークへの接続

より詳細な情報は、[この記事](#)を参照してください。

暗号化

Synology NAS は AES-256 暗号を使用し、共有フォルダと Hybrid Share フォルダを不正アクセスから保護します。

- 共有フォルダ:共有フォルダでは暗号化はオプションです。より詳細な情報は、[この記事](#)を参照してください。
- Hybrid Share フォルダ:Hybrid Share フォルダはデータセキュリティを確保するために、C2 Storage への転送においてはその前に NAS 上で常に暗号化されます。Hybrid Share フォルダのマウント時および復号時には暗号鍵が必要です。C2 Storage にアップロードされている間、およびそこに保存されている間は、データは暗号化されたままになります。

権限

共有フォルダと Hybrid Share フォルダでは、自動的に Windows Access Control List (ACL) 許可が導入されます。Windows ACL で個々のファイルやサブフォルダに対する許可をカスタマイズすることもできます。

5.2 ファイルサービス

SMB/AFP/NFS

Synology NAS をファイル共有センターとして使用するには、その上で SMB、NFS、AFP ネットワーキングプロトコルを設定します。DSM 共有フォルダのファイルをクライアントコンピューターから、ローカルストレージにあるように管理できます。

DSM は、Windows、Linux、Mac デバイスからのシームレスなファイルアクセスを可能にする一般的なプロトコルをほとんどサポートします。

- Windows の場合:SMB/CIFS
- Mac の場合:AFP、SMB
- Linux の場合:NFS、SMB

それぞれのオペレーティングシステムには、そのプラットフォームでもっともよい性能が発揮できる、ネイティブのファイル共有プロトコルがあります。SMB は 3 つのオペレーティングシステムすべてをサポートしますが、NFS と AFP よりも低速です。それぞれのプロトコルには、異なるセキュリティが備えられています。

ファイル共有プロトコルを有効にするには、[コントロールパネル] > [ファイルサービス]に進みます。より詳細な情報は、[SMB/AFP/NFS](#) を参照してください。

FTP

FTP は、既知のユーザーまたは匿名ユーザーとファイルを共有する便利な方法です。ユーザーは、自身のコンピューターから Web ブラウザや FTP クライアントを用いて FTP サーバーにアクセスできます。転送時のセキュリティは、FTP over SSL (FTPS) や SSH FTP (SFPT) で高めることができます。

FTP サービスの設定方法については、[FTP](#) にある記事を参照してください。

5.3 File Station

File Station は、ユーザーがファイルを簡単にアクセスし、管理するための組み込みのファイルマネージャーです。カスタマイズ可能なアクセス許可と一時的な共有リンクで、安全にファイルを共有します。写真や楽曲、さらにはバックアップファイルまで含むあらゆるファイルを一箇所から表示できる場所です。

次のような付加機能があります。

- リモートフォルダーやパブリッククラウドストレージを File Station にマウントし、ファイルアクセスを集中化。
- 非 DSM ユーザーが、ファイルを Synology NAS にアップロードするためのファイルリクエストを作成。
- それに付随するモバイルアプリケーションである DS file で、どこからでもファイルにアクセス。

より詳細は、[File Station](#) にある記事を参照してください。

5.4 Synology Drive Server

Synology Drive は、ファイルを管理し、仲間との共有と共同作業が容易に行えるようにする総合的なファイル管理・コラボレーションソリューションです。そのパッケージには、Synology Drive Admin Console、Synology Drive、Synology Drive ShareSync という 3 つのコンポーネントが含まれます。

Admin Console では、管理者がチームフォルダーの指定、クライアント接続の監視、サービス設定の管理を行うことができ、Synology Drive Web ポータルは、ファイルとフォルダーの参照、管理、共有、共同作業を誰でも仲間と行えるようにし、Synology Drive ShareSync は、Synology Drive のファイルを複数の Synology NAS の間で同期するアプリケーションです。

Synology Drive にはデスクトップユーティリティ (Synology Drive Client) とモバイルアプリ (Synology Drive) が付属します。これらのアプリケーションは、主要なプラットフォームすべてで利用可能です。

Synology Drive でできること:

- ローカルファイルのバックアップ: クライアントデバイス上のファイルの同期とバックアップ。
- バージョン管理: ファイルあたり 32 バージョンまでを保持。Synology Drive の Intelliversions は、もっとも重要な変更を保持できるようにします。
- オフラインアクセス: クライアントデバイスがオフラインの場合でも、アクセスの可能性を維持するために、クライアントデバイスに重要なファイルをピン留めします。
- マルチサイト交換: 複数のサイト間でファイルやフォルダーを同期し、ローカルアクセスをシンプルにし、オフィス間でのファイルの共同作業を強化します。これはファイルにさらなる冗長性も加えます。
- リアルタイムの共同作業: Synology Office および Synology Chat と統合することで、生産性を向上させます。ドキュメント、スプレッドシート、スライドを用いた共同作業、および仕事をしながらディスカッションを開始できます。

Synology Drive のセットアップ方法については、[Synology Drive Server](#) にある記事を参照してください。

関連項目

- [Synology Drive Server](#) 内のストレージ領域がほとんどいっぱいです。どうしたらよいでしょう。
- [Synology Drive Client](#) を使用して自分のコンピューター上のデータをバックアップするにはどうしたらいいですか？
- [Synology Drive Server](#) 経由で、複数の Synology NAS 間でのデータ同期をするにはどうしたらいいですか？

5.5 Cloud Sync

Synology NAS を Google Drive や Dropbox、その他のパブリッククラウドサービスに雪像し、自分専用のハイブリッドクラウドを作ります。片方向か双方向を選び、プライベート NAS とパブリッククラウドの間でデータをバックアップあるいは同期します。

Synology NAS からパブリッククラウドに、あるいはその逆でデータをバックアップするには、片方向同期を使用します。同期先サイトでのファイルへの変更は、ソースには反映されません。

一方、双方向同期は、Synology NAS とパブリッククラウドのファイルを完全に同一に保ち、両方で自動的に変更のアップロードとダウンロードを行います。

1 つのフォルダーは複数のパブリッククラウドと同期でき、ファイルのバックアップを複数作するために同じクラウドにある複数のアカウントと同期できます。Synology NAS あるいはパブリッククラウドのどのファイルをどちらの方向で同期するかを選択できます。

クラウド上のファイルへの不正アクセスを防止するため、動悸されるファイルを AES-256 暗号で保護できます。

同期タスクのスケジュールや、トラフィックの上限を定めたり、使用されるシステムリソースを制限することで、Cloud Sync が他のアプリケーションやプロセスに影響を与えることを防止できます。

Cloud Sync についての詳細は、[Cloud Sync](#) を参照してください。

5.6 WebDAV

WebDAV (Web ベースの分散オーサリングとバージョン管理) は、リモートサーバー上に保存したファイルをユーザーが管理できるようにする HTTP プロトコルの拡張版です。Windows File Explorer、macOS Finder、そして Linux ファイルマネージャーの多くが WebDAV をサポートします。

WebDAV Server をセットアップした後、Windows、macOS、Linux デバイスの共有フォルダーをマウント、アクセスできるようになります。

WebDAV には、他のファイルアクセスプロトコルにはない次のような利点があります。

- CIFS/SMB over VPN よりも高い性能
- クライアントデバイス上のファイル編集をサポート
- HTTPS のセキュリティを活用可能

Synology NAS で WebDAV を有効にする方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [Synology NAS 上のファイルを WebDAV でアクセスするには?](#)
- [カレンダーを WebDAV Server から Synology Calendar にインポートするには?](#)

第 6 章: データ バックアップ

6.1 Active Backup Suite

PC/ サーバー /VM 向けバックアップソリューション

Active Backup for Business

Synology NAS は、PC、物理サーバー、ファイルサーバー、仮想マシンに対するバックアップ先になることができます。

Active Backup for Business は、複数のデバイスに対する複数のバックアップタスクを一箇所から簡単に管理、展開、監視できるようにする、オールインワン型のビジネスデータ保護ソリューションです。Active Backup for Business は、Admin console と復元ポータルからなります。Admin console により、復元デバイスの保護を展開し、追跡できるようになります。復元ポータルにより、ユーザーおよびエンドユーザーはサーバー管理者から委任されて、バックアップデータのアクセス、参照、ダウンロード、復元ができるようになります。Active Backup for Business は、グローバル重複排除、データ圧縮、増分バックアップ技術により、バックアップの効率性を最大限高めることができます。データが複数の異なるプラットフォームからバックアップされる場合、同じバックアップデータで消費されるストレージ領域は大きく減少します。

さらに、バックアップデバイス向けのフルデバイス復元、仮想プラットフォームへのインスタント復元などさまざまな復元手法が、多様な IT ニーズを満足させます。IT に影響のある災害が発生した場合、バックアップデータを即座に取り出してサービスの停止時間を短縮し、事業の継続性を保ちます。

Active Backup for Business は、次のバックアップデバイスをサポートします。

- Windows パーソナルコンピューター
- Windows 物理サーバー
- Linux 物理サーバー
- VMware vSphere 仮想マシン
- Microsoft Hyper-V 仮想マシン
- SMB プロトコルのファイルサーバー
- rsync プロトコルのファイルサーバー

Active Backup for Business で各デバイスに対するバックアップタスクの作成方法については、[Active Backup for Business](#) にある記事を参照してください。

SaaS バックアップソリューション

Active Backup for Microsoft 365

OneDrive for Business、Exchange Online、SharePoint Online などの Microsoft サービスにある重要データを Active Backup for Microsoft 365 でバックアップします。次の Microsoft 365 プランのユーザー: Business、Enterprise、Education、Exchange Online は、Microsoft サービスのデータを Synology NAS にバックアップできます。

Active Backup for Microsoft 365 は、Admin console と復元ポータルからなります。Admin console は、集中化された管理インターフェースで、Microsoft 365 のグローバル管理者がここでバックアップタスクの作成や、バックアップ状態の監視、ストレージ消費の管理を行えます。管理者が Admin console でバックアップタスクを実施した後、ユーザーは復元ポータルで自身のバックアップデータを復元できます。

Active Backup for Microsoft 365 により、Microsoft 365 上に置いてあるデータを保護することができ、データ損失のリスクを減らし、柔軟にバックアップデータを取り出すことができます。連続的にバックアップすることで、企業はユーザーのサービスを無停止のままバックアップでき、データ損失のリスクを最小限にできます。データの復元をする必要がある場合、復元ポータルによって細かな復元およびデータのエクスポートが提供されます。一箇所から簡単に、元の場所へのデータの復元や、ローカルでバックアップへのデータのダウンロードが可能です。

以下は、それぞれの Microsoft サービスに対してサポートされるバックアップオプションの一覧です。

- OneDrive for Business: ファイル、ファイル共有許可、対応するメタデータ
- Exchange Online: メール、フォルダー構造、メール添付ファイル、連絡先、イベントの添付ファイルを含むカレンダーを含むメールボックス。
- SharePoint Online: サイト、マイサイト、チームサイトに保存されているドキュメントライブラリとリスト。

Active Backup for Microsoft 365 でバックアップタスクの作成方法については、[この記事](#)を参照してください。

Active Backup for Google Workspace

Active Backup for Google Workspace は、Google Drive、Gmail、Google Contacts、Google Calendar に保存されているデータをバックアップするために作られています。Active Backup for Google Workspace は、Admin console と復元ポータルからなります。Admin console により、Google Workspace の管理者は Google Workspace の全アカウント向けにバックアップタスクを作り、総合的な管理・監視機能をもつ集中化されたインターフェースを提供できるようになります。復元ポータルには、管理者およびそれ以外のユーザー向けにバックアップデータのセルフサービス復元機能があります。

Active Backup for Google Workspace により、Google Workspace のデータを保護し、データ損失のリスクを最小化し、バックアップデータを柔軟に取り出せるようになります。連続的にバックアップすることで、企業はユーザーのサービスを無停止のままバックアップでき、データ損失のリスクを最小限にできます。データの復元をする必要がある場合、復元ポータルによって細かな復元およびデータのエクスポートが提供されます。一箇所から簡単に、元の場所へのデータの復元や、ローカルデバイスへのデータのダウンロードが可能です。

以下は、それぞれの Google Workspace サービスに対してサポートされるバックアップオプションの一覧です。

- Google Drive:マイドライブおよび共有ドライブ内のファイル、ファイル共有許可、対応するメタデータ。
- Gmail:ラベルとメール添付ファイルを含むメールボックス。
- Google Contacts:連絡先データ。
- Google Calendar:添付ファイル付のカレンダーイベントを含むカレンダー。

Active Backup for Google Workspace でバックアップタスクを作成する方法については、[この記事](#)を参照してください。

6.2 USB Copy

USB Copy により、Synology NAS と USB ストレージまたは SD カードの間でデータをコピーできます。

ストレージの利用効率上、対象のデータだけが交換され、重要なコピーバージョンだけが保持されるよう、コピータスクには次の設定が加えられます。

- ファイルタイプと拡張子に応じたカスタマイズされたフィルター。
- 増分、ミラーリング、マルチバージョンのコピーモード。
- マルチバージョンのコピーモードのためのバージョンローテーション。

各 USB/SD ストレージデバイスでコピータスクをカスタマイズできます。コピータスクに使われたことがあるデバイスが Synology NAS に取り付けられた場合、それは認識され、以前の設定が自動的に適用されます。

コピータスクを作成する方法については、[この記事](#)を参照してください。

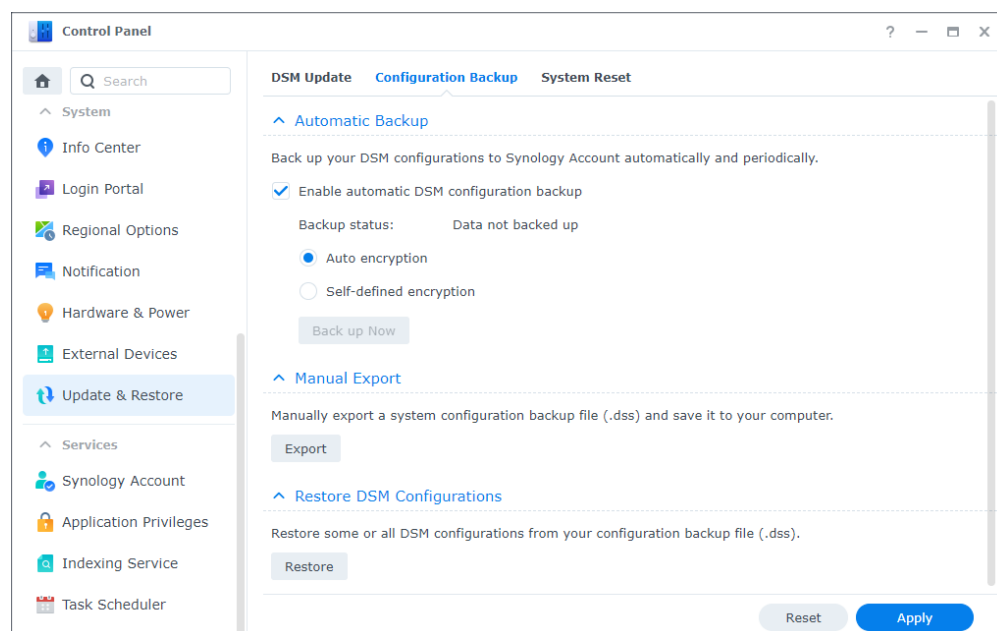
注意:

- Synology がサポートする以下のファイルシステムにある USB/SD ストレージデバイスはいずれも、データを Synology NAS に、および Synology NAS からコピーすることができます。FAT32、NTFS、ext3、ext4、exFAT。

第 7 章:NAS の保護

7.1 DSM 設定のバックアップ

通常のバックアップシステム設定では、設定を取り出し、復元することは問題なく素早く行えます。DSM がシステム設定を自動的に Synology Account にバックアップするには、[コントロールパネル]>[更新と復元]>[設定のバックアップ]でセットアップします。バックアップは、コンピューターに保存されたデータと共に手動でも行えます。



DSM システム構成をバックアップする詳細については、[この記事](#)を参照してください。

7.2 Hyper Backup

Hyper Backup により、システム設定、許可設定、アプリケーション、フォルダー、ファイル、LUN など、Synology NAS の全データのバックアップと復元が可能になります。バックアップ先は、ローカルフォルダー、リモート NAS、rsync ファイルサーバー、複数のクラウドサービスプロバイダーなど多彩なバックアップ先が可能です。これにより、バックアップ戦略を柔軟に組み立てられるようになります。

重要な情報を便利、簡単に複数のデータバックアップバージョンを保持できます。バックアップデータは、DSM上のHyper Backup Explorerや、Windows、Mac、Linuxといったプラットフォームを用いて簡単に参照、ダウンロード、復元が可能です。

Hyper Backupでバックアップタスクを作成する方法については、[この記事](#)を参照してください。

7.3 Snapshot Replication

スケジュール可能でほぼ一瞬のスナップショットと復元プランで、NASを保護します。スナップショットは、一時点でのNASの状態を保持したものです。フルバックアップと比較すると、スナップショットは最小限のストレージスペースしか使わず、Btrfsの機能によりわずかな時間で取得できます。偶発的あるいは悪意によるデータ損失や破壊が起きた場合、スナップショットを使ってデータを復元します。以前のバージョンのファイルを表示し、それをFile StationやWindows File Explorerで簡単に復元できます。保持ポリシーをカスタマイズし、不必要な古いスナップショットを自動的に削除し、ストレージ領域を空けます。

Snapshot ReplicationをサポートするSynology NASが複数ある場合、スナップショットをリモートNASに複製すれば、さらに安全にデータを保護できます。定期的に共有フォルダー/LUNのスナップショットをとり、スナップショットも他のNASに転送するよう複製スケジュールを設定します。複製元がアクセスできなくなった場合、他のNASにファイルアクセスするようにフェイルオーバーを実施できます。これは、ディザスタリカバリ計画を立てている場合には、NASのデータを常にアクセスできるようにすることで有効に使うことができます。

スナップショットとレプリケーションの詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。

7.4 Synology High Availability

ハイアベイラビリティとは、サーバーの故障によるサービスの中断を回避するために設計されたサーバーレイアウトソリューションです。Synology NASを2台使用すると、Synology High Availabilityを活用して「ハイアベイラビリティクラスター」を立ち上げることができ、一台が「アクティブサーバー」で、もう一台がスタンバイ状態の「パッシブサーバー」になります。

リアルタイムデータミラーリング機構を使用すると、アクティブサーバー上に保存されたデータはすべてリアルタイムにパッシブサーバーに複製されます。これにより、ハードウェア障害時には複製された全データに素早くアクセスでき、サービスの停止時間を最小化できます。

ハイアベイラビリティクラスターをセットアップする方法については、[この記事](#)を参照してください。

第 8 章:セキュリティ

8.1 セキュリティ設定

コントロールパネルから、ファイアウォール、オートブロック、アカウント保護で、不正ログインから Synology NAS を保護します。適切なファイアウォール設定により、どの IP アドレスまたはサービスが DSM にアクセスできるかをコントロールできます。

オートブロックとアカウント保護機能により、総当たり攻撃から Synology NAS を安全に保てるようになります。これらは指定時間内に、ログインの失敗数が多すぎる IP アドレスや DSM アカウントをブロックします。NAS またはその IP アドレスに、ランダムなユーザー名 / パスワードの組み合わせで特定の IP アドレスからサインインの試みがあった場合、その IP アドレスのユーザーが NAS にアクセスすることをオートブロックが止めます。アカウント保護も同様ですが、個人アカウントに重きを置いており、特定アカウントへのユーザーのアクセスをブロックします。

Let's Encrypt からの証明書やその他の認証局が、DSM との間で安全な接続を確保できるようにします。Web ブラウザで DSM に接続する場合、証明書が DSM とブラウザ間で送られる情報を暗号化し、情報漏えいを防止します。

セキュリティ設定は、[コントロールパネル] > [セキュリティ]で行います。これらの設定についての詳細は、次の記事を参照してください。[ファイアウォール](#)、[保護](#)、[証明書](#)。

8.2 Secure SignIn

Secure SignIn サービスは、使いやすさと柔軟なログインオプションを提供しながらも DSM アカウントの総合的セキュリティを高めることが目的です。シングルタッププロンプト (サインインの承認) またはハードウェア セキュリティキーを使い、パスワードを手入力することなくサインインできます。アカウントをさらに保護するためには、2 要素認証を有効にしてください。パスワードを入力後、身分検証の 2 段階目として、ワンタイム認証コード (OTP)、サインインの承認、ハードウェア セキュリティキーのいずれかを選択してシームレスなログインが行われます。

Synology は、サインイン要求を承認し、OTP コードを受け取るために、モバイル認証アプリである: Synology Secure SignIn を提供しています。

サインイン方法と 2 要素認証についての詳細は、[サインイン方法](#)にある記事を参照してください。

8.3 セキュリティアドバイザー

セキュリティアドバイザーは、Synology NAS のシステム設定に関する総合的なセキュリティ確認機能を提供します。これは、セキュリティ上の弱点をスキャンし、対応のアクションを助言します。

セキュリティアドバイザーにより、次のようなセキュリティチェックを行ってデータおよびシステムのセキュリティを確認できます。

- マルウェアの検出と除去。
- パスワード強度のチェック。
- システムと関連するネットワーク設定のスキャン。
- 疑わしいログインアクティビティの分析。
- 利用できる DSM およびパッケージの更新バージョンのチェック。

希望するセキュリティベースラインに基づいた手動 / スケジュールシステムチェックを実行、あるいはニーズに合うようチェックリストをカスタマイズします。結果は、[セキュリティアドバイザー] > [詳細] > [レポート設定] で行う設定により、日次 / 月次レポートにまとめることができます。レポートをメールで受け取るには、[コントロールパネル] > [通知] に進み、通知サービスを有効にします。

開始するには、[セクション 2.12](#)にあるステップバイステップの指示を参照してください。

詳しくは、[セキュリティアドバイザー](#)にある記事をご覧ください。

8.4 アンチウイルス

アンチウイルスソリューションで悪意のある脅威から Synology NAS を保護します。実行できるタスクは、フルシステムスキャン、指定フォルダーのスキャン、スケジュールによる自動スキャンです。ウイルス定義は、可能な限りセキュリティを高めるために自動的に更新されます。

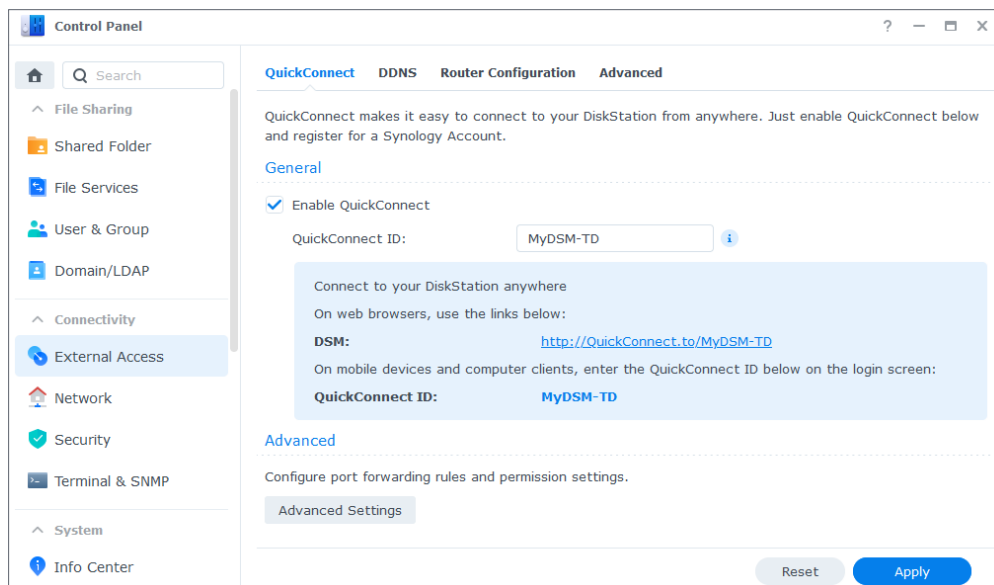
パッケージセンターでは、2 つのアンチウイルスパッケージが利用できます。アンチウイルスエッセンシャル (無料、ClamAV スキャンエンジンベース) および Antivirus by McAfee (有償サービス、McAfee スキャンエンジン)。より詳細は、次の記事を参照してください。[アンチウイルスエッセンシャル](#)、[Antivirus by McAfee](#)。

第 9 章: ネットワーク

9.1 外部アクセス

Synology NAS がプライベートネットワーク内 (クライアントとしてルーターに接続されるなど) にある場合、外部アクセスを設定することで、Synology NAS をインターネット越しにどこからでもアクセスできるようにできます。このセクションでは、外部アクセスへの 3 つのアプローチに関する基本を説明します。QuickConnect、DDNS、ポートフォワーディング

QuickConnect



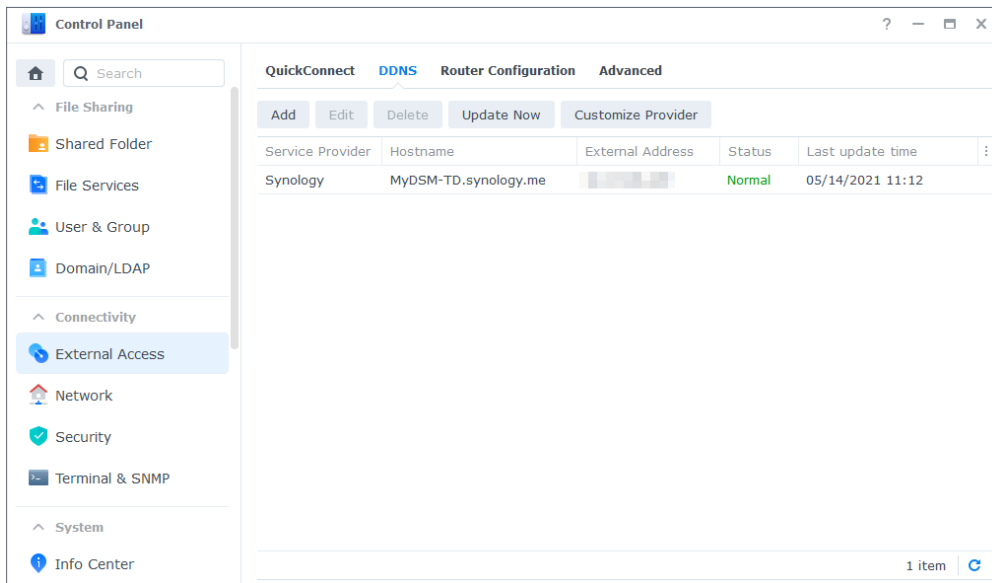
QuickConnect は、Synology NAS にローカルネットワークの外側から素早く簡単に接続を行うために設計されています。カスタマイズされた QuickConnect ID により、Synology NAS を別の場所に移動した時にも、スタティックの外部 IP アドレスの設定や、NAT やポートフォワーディングルールのセットアップを必要とせず、WAN/LAN のアドレスを切り替えることなく Synology NAS にアクセスできます。

QuickConnect の設定は、[コントロールパネル] > [外部アクセス] > [QuickConnect] で行えます。QuickConnect の設定方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [QuickConnect と DDNS は何が違いますか?](#)
- [QuickConnect をサポートするパッケージまたはサービスはどれですか?](#)
- [Synology に QuickConnect でアクセスできません。どうしたらよいでしょう。](#)
- [Synology QuickConnect ホワイト ペーパー](#)

DDNS



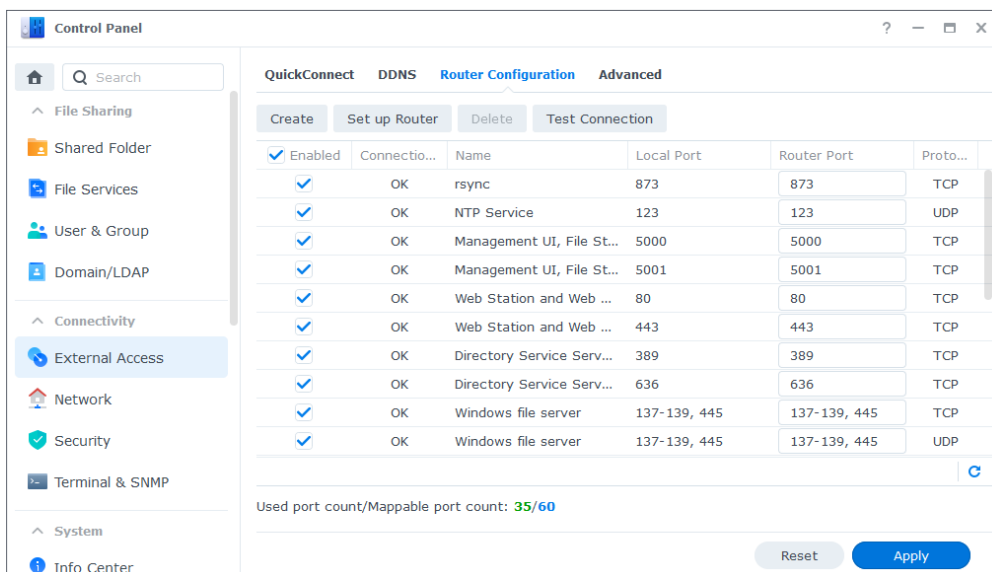
DDNS (Dynamic Domain Name System) は、Synology NAS に外部アクセスを許すための効率的な方法です。これは、ホスト名を Synology NAS の IP アドレスにマッピングすることで、インターネット越しの接続をシンプルにします。たとえば、Synology NAS に IP アドレス (たとえば、「10.17.1.1」) の代わりに DDNS ホスト名 (たとえば、「www.john.synology.me」) でアクセスできます。

DDNS のホスト名は、[コントロールパネル] > [外部アクセス] > [DDNS] で設定できます。Synology NAS で DDNS ホスト名を登録する方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [QuickConnect と DDNS は何が違いますか?](#)
- [Synology DDNS サービスに関するよくある質問](#)

ポート転送



ポートフォワーディングは、外部デバイスにローカルエリアネットワーク内のリソースへのアクセスを許可します。これは、ネットワークパケットを NAT デバイス (ルーターなど) から、ローカルデバイスの IP アドレス / ポートの組み合わせにリダイレクトすることで動作します。

ポートフォワーディングルールは、[コントロールパネル] > [外部アクセス] > [ルーター構成] で設定できます。

DSM でのポートフォワーディングルールをセットアップする詳細は、[この記事](#)を参照してください。

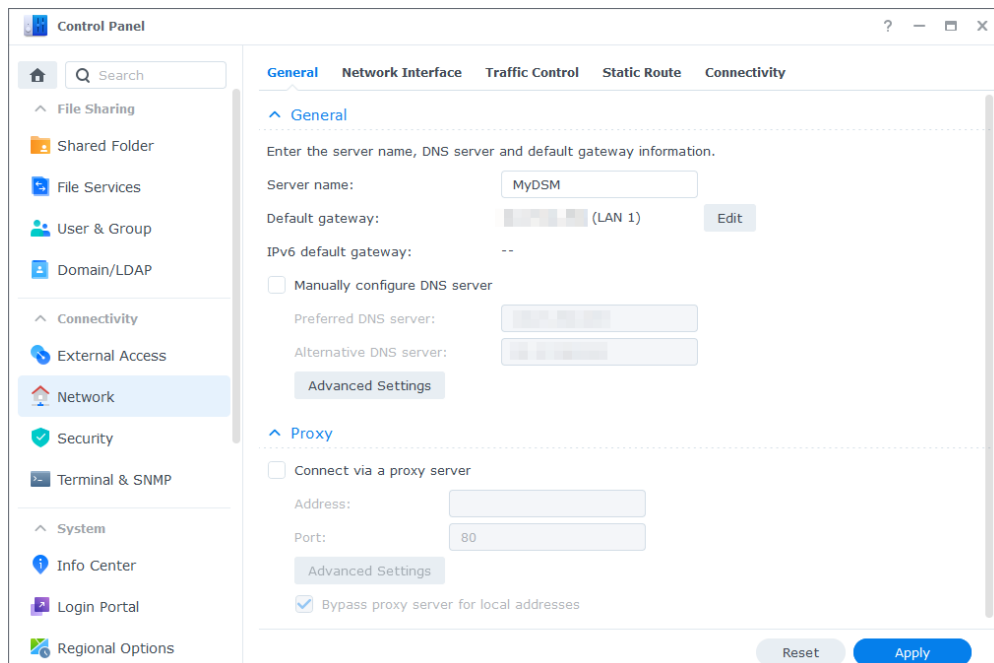
関連項目

- ポートフォワーディングに関する詳細情報は、[この記事](#)を参照してください。
- DSM サービスではどのネットワークポートが使われますか？
- ビデオチュートリアル: Synology NAS にリモートからアクセスするためには、どのようにポートフォワーディングを設定するのですか？

9.2 ネットワーク設定

大半の場合、DSM をインストールした直後に、ネットワーク設定をすることなく、Synology NAS 上のサービスを調べ始めることができます。設定をカスタマイズしたい方は、[コントロールパネル] > [ネットワーク] に進むと可能になります。

以下では、[コントロールパネル] > [ネットワーク] > [一般] にある一般的なネットワークオプションをご紹介します。

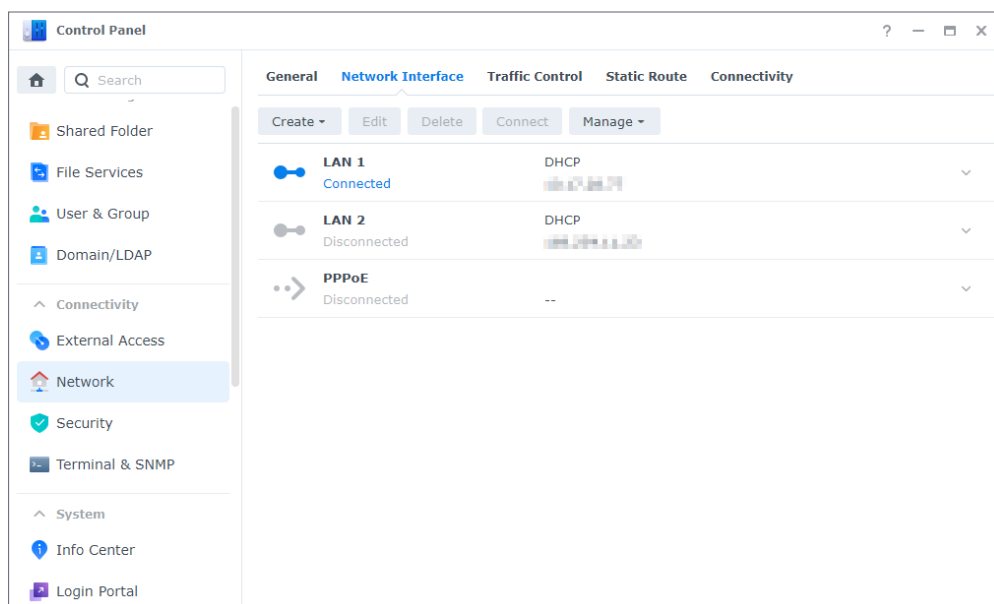


- **ホスト名の変更:**ホスト名は、ネットワーク上のデバイスの一意で絶対的なラベルで、ネットワーク通信中にデバイスを識別するのに使用されます。お使いの Synology NAS のホスト名を編集するには、一般セクションの下にあるサーバー名フィールドに新しい名前を入力します。
- **デフォルトゲートウェイの割り当て:**ゲートウェイは、Synology NAS からのデータを他のネットワークに転送できるよう、複数の異なるネットワークに接続します。デフォルトゲートウェイは、別の経路が指定されていない場合に使われるデバイスとなります。デフォルトゲートウェイを割り当てるには、デフォルトゲートウェイ横の [編集] ボタンをクリックし、接続されたゲートウェイの優先順位を調整します。
- **DNS サーバの指定:**Domain Name System (DNS) は、覚えやすいインターネットアドレスを、インターネットに接続されているデバイスが使用する数字のアドレスに変えます。Synology NAS がたとえば、「www.synology.com」というドメイン名に接続されている場合、その DNS サーバーは、サイトの IP アドレスである「210.61.203.200」を問い合わせるのが仕事で、Synology NAS がその Web サイトの情報にアクセスすることを許可します。[一般] セクションで、[DNS サーバーを手動で設定] をクリックし、優先する DNS サーバーを代替サーバーと共に指定します。
- **プロキシサーバーによる接続:**プロキシサーバーは、インターネット上のリソースにアクセスするために、クライアントデバイスのために働きます。Synology NAS にプロキシサーバーを指定するには、プロキシセクションの下のプロキシサーバーで接続するにチェックを入れ、アドレスとポートを入力してから [適用] をクリックします。

[コントロールパネル]>[ネットワーク]>[一般], での設定に関する詳細情報は、[この記事](#)を参照してください。

ネットワークインターフェイスの管理

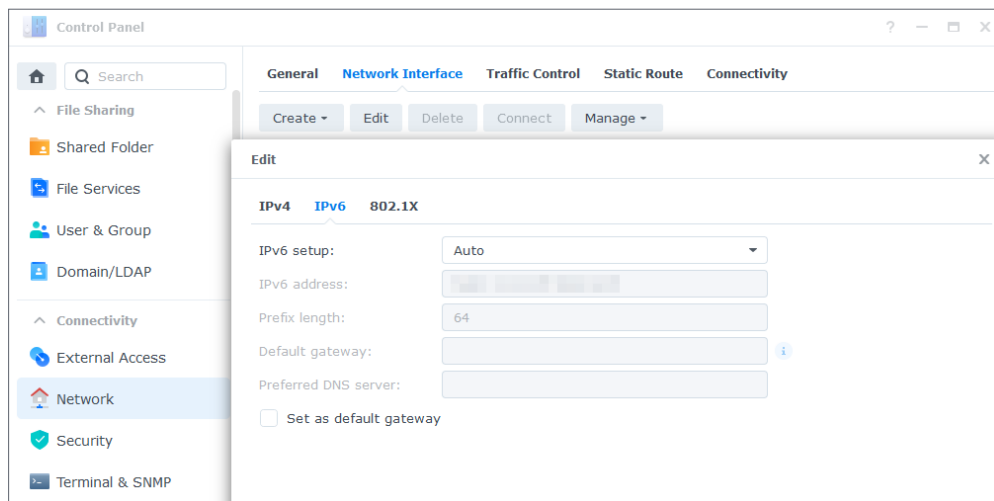
ネットワークインターフェイスは、Synology NAS をローカルネットワークやインターネットに接続するメディアとして機能します。ネットワークインタフェースには以下に示すように 3 つのタイプの接続があり、これは、[コントロールパネル]>[ネットワーク]>[ネットワークインタフェース] で設定できます。



- **ダイナミック IP:** Synology NAS は、DSM がインストールされた後、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー (ルーターなど) から自動的にダイナミック IP アドレスを取得します。Synology NAS の接続タイプを変更した後に再度ダイナミック IP モードを使用したい場合は、[編集] をクリックし、[IPv4] タブでネットワーク設定を自動取得 (DHCP) にチェックを入れます。
- **スタティック IP:** 固定 IP アドレスをすでに持っている場合、ネットワークインターフェースにこの接続タイプを適用できます。企業での利用の場合、これの方が IT 管理者が管理しやすいため、Synology NAS にはスタティック IP アドレスを割り当てることをお勧めします。DSM でスタティック IP アドレスをセットアップする方法については、[この記事](#)を参照してください。
- **PPPoE:** Synology NAS が DSL あるいはケーブルモデムでインターネットに接続されていて、ISP から PPPoE (Point to Point Protocol over Ethernet) サービスを購入している場合、この接続を適用してルーターを使わずに NAS をインターネットに直結できます。DSM で PPPoE 接続を有効にする方法については、[この記事](#)を参照してください。

[コントロールパネル]>[ネットワーク]>[ネットワークインターフェース]で、IPv6 接続、VPN クライアント設定、Link Aggregation など、Synology NAS のネットワークインターフェースに関するより詳しい設定が行えます。次のセクションでは、これらのオプションを簡単に紹介し、その設定方法を説明します。

IPv6 接続のセットアップ



IPv4 プロトコルでのインターネット接続の他に、DSM では次の 2 つの戦略で IPv6 アドレス構造もサポートしています (この 2 つは同時に適用可能)。

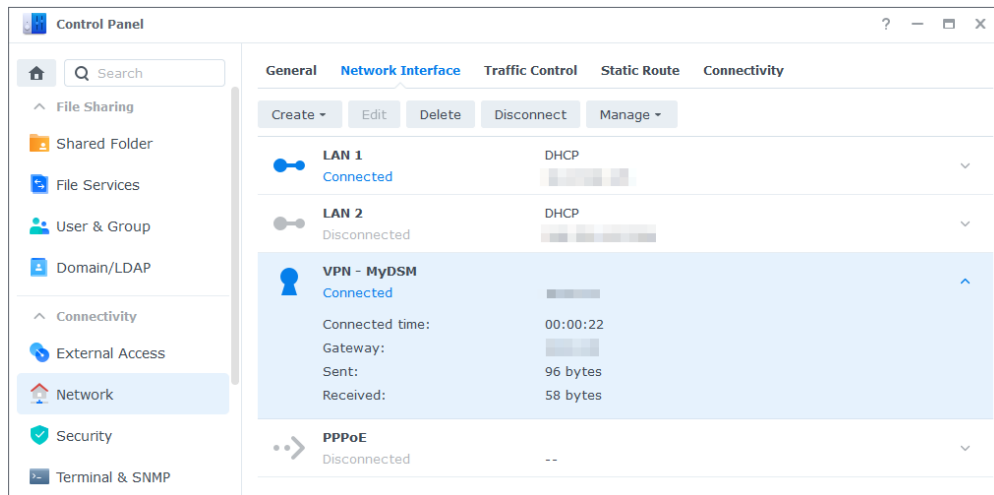
- **デュアルスタック:** IPv4/IPv6 デュアルスタック構成では、Synology NAS を IPv4 と IPv6 両方のアドレスで設定できます。IPv4 と IPv6 のネットワーク環境をまたいでリソースにアクセスするには、この方式を使用します。
- **トンネリング:** トンネリングでは、カプセル化により 1 つのプロトコルをもう 1 つの中に入れて送信します。この方式を使うことにより、Synology NAS は IPv6 パケットを IPv4 パケットの中にカプセル化し、それを IPv4 ネットワークに送出します。

IPv6 を統合したネットワークインターフェイスターをセットアップする方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [IPv6 をサポートする Synology NAS のサービスは何ですか?](#)

Synology NAS を VPN クライアントに変える

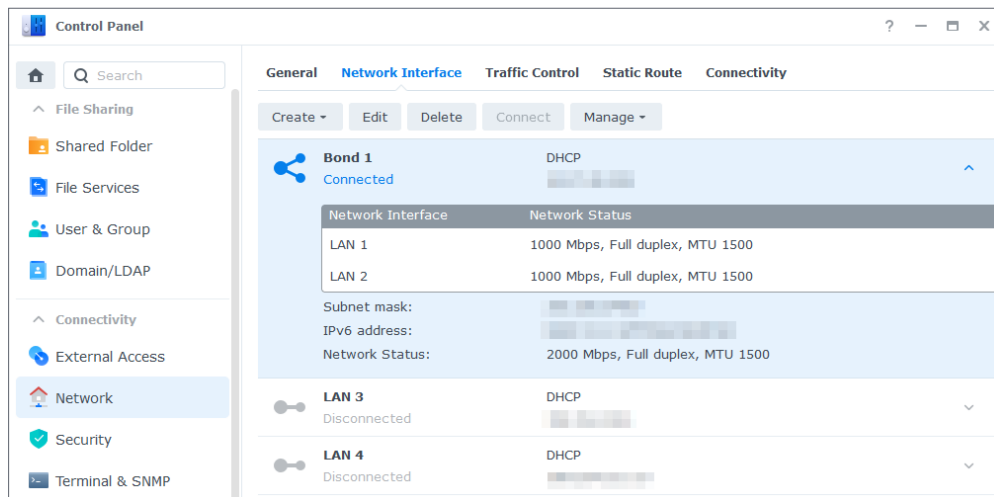


VPN (Virtual Private Network) サービスは、どこからでも自分のプライベートネットワークから、セキュリティを保ったままリソースにアクセスできるようにします。これは、Synology NAS のネットワーク接続を暗号化されたトンネルで安全にするためにも使われます。

DSM では、PPTP、OpenVPN、L2TP/IPSec プロトコルによって簡単に、Synology NAS を VPN サーバーに接続することができます。VPN リソースが複数ある場合、VPN プロファイルを使うことにより、異なるサーバー間を切り替えることもできます。

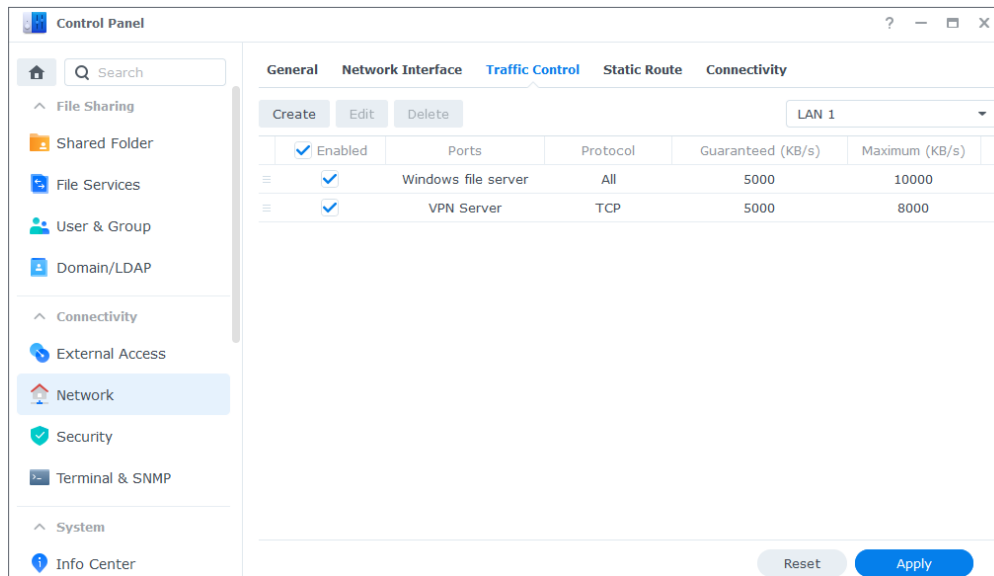
DSM で VPN プロファイルを作成する方法については、[この記事](#)を参照してください。

Link Aggregation で LAN をまとめる



Link Aggregation は、複数のネットワークインタフェースを集約することで Synology NAS の帯域を増やし、そしてトラフィックのフェイルオーバーにより無停止のネットワーク接続を確立します。Link Aggregation でネットワークインタフェースを束ねる方法については、[この記事](#)を参照してください。

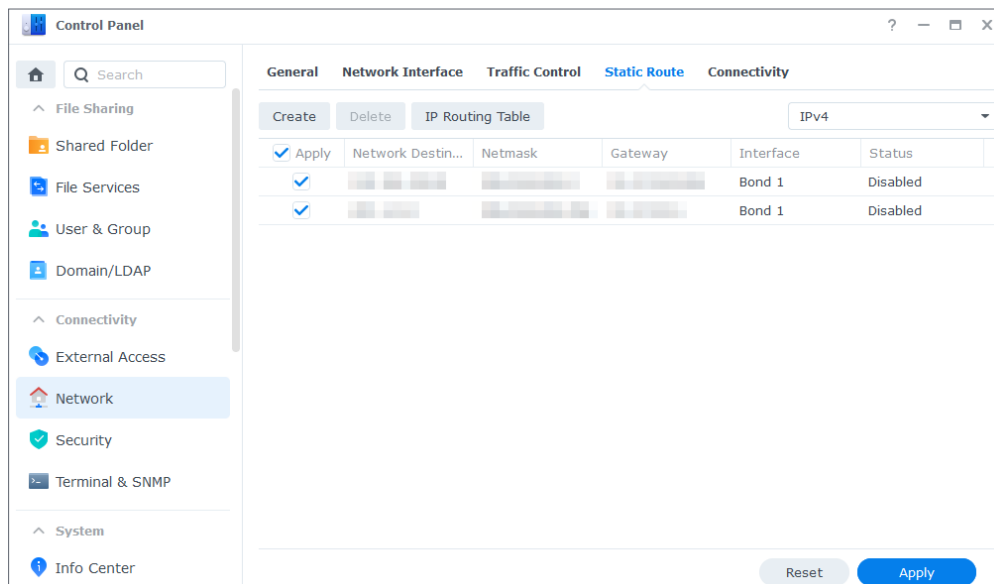
ネットワークトラフィックのコントロール



[コントロールパネル]>[ネットワーク]>[トラフィックコントロール]で、DSM サービスの送信ネットワークトラフィックをコントロールでき、遅延や輻輳、パケットロスを防止します。特定のサービスに対するトラフィックを制限したい場合、トラフィックコントロールページでそれに対する保証帯域と最大帯域を指定できます。

トラフィックコントロールルールを作成する方法については、[この記事](#)を参照してください。

スタティックルートを設定

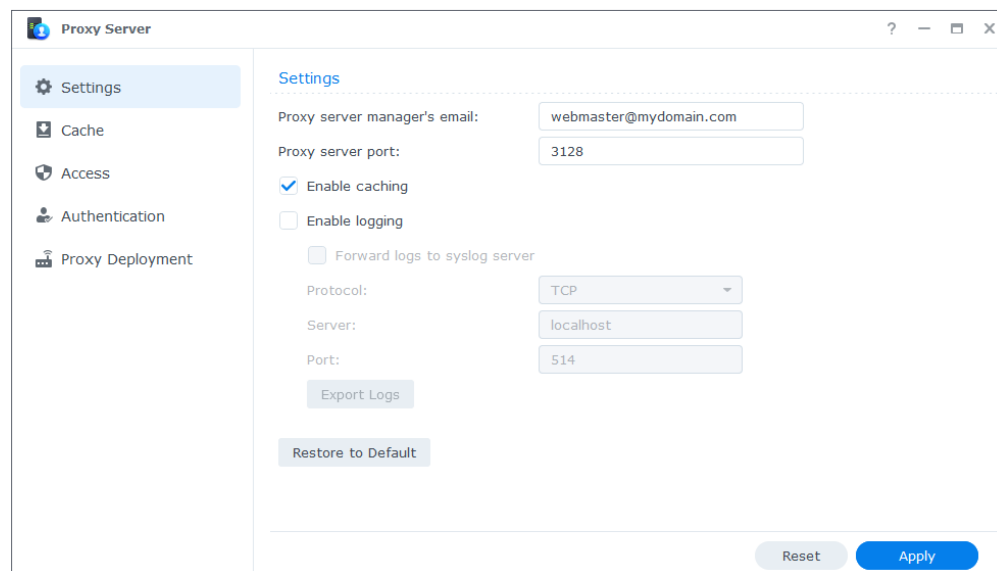


[コントロールパネル]>[ネットワーク]>[スタティックルート]で、スタティックルートを DSM のルーティングテーブルに追加できます。それにより、DSM のサービストラフィックはネットワーク先に応じて別々のパスで送信されるようになり、ネットワーク環境のゲートウェイデバイスによるルーティング効率が上がります。スタティックルートをセットアップする方法については、[この記事](#)を参照してください。

9.3 プロキシサーバー

プロキシサーバーは、ご自分のネットワークのクライアントとインターネット上のサーバーの間で Web リクエストやデータを転送するゲートウェイとして機能します。

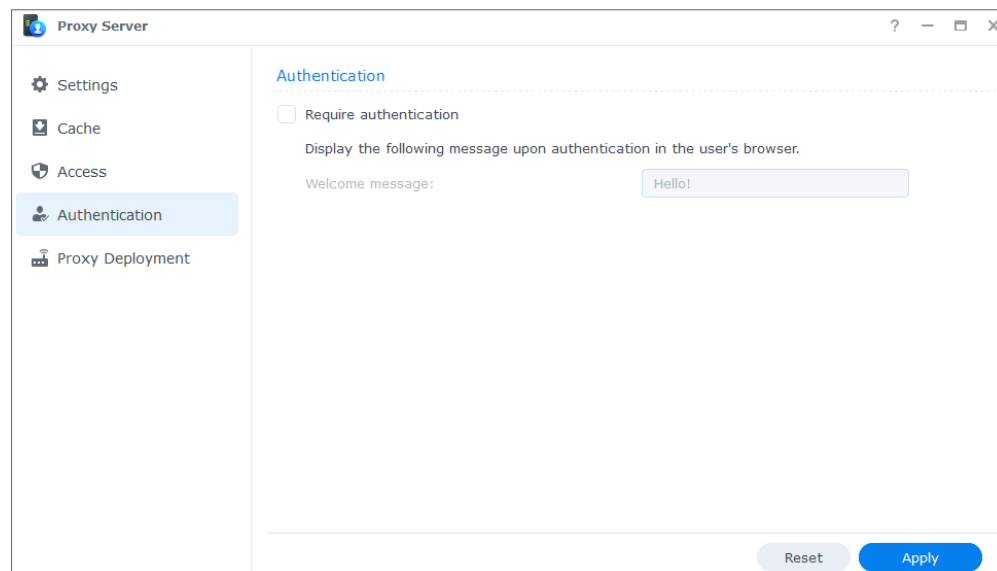
プロキシサーバーを、Web トラフィックのフィルター、共有ネットワーク接続の管理、よく使われる Web リクエストの速度向上のために、ファイアウォールとして使用することもできます。



The screenshot shows the 'Settings' page of the Proxy Server interface. The left sidebar contains navigation options: Settings, Cache, Access, Authentication, and Proxy Deployment. The main content area is titled 'Settings' and includes the following fields and controls:

- Proxy server manager's email:
- Proxy server port:
- Enable caching
- Enable logging
- Forward logs to syslog server
- Protocol:
- Server:
- Port:
-
-

At the bottom right of the settings area, there are and buttons.



The screenshot shows the 'Authentication' page of the Proxy Server interface. The left sidebar contains navigation options: Settings, Cache, Access, Authentication, and Proxy Deployment. The main content area is titled 'Authentication' and includes the following fields and controls:

- Require authentication
- Display the following message upon authentication in the user's browser.
- Welcome message:

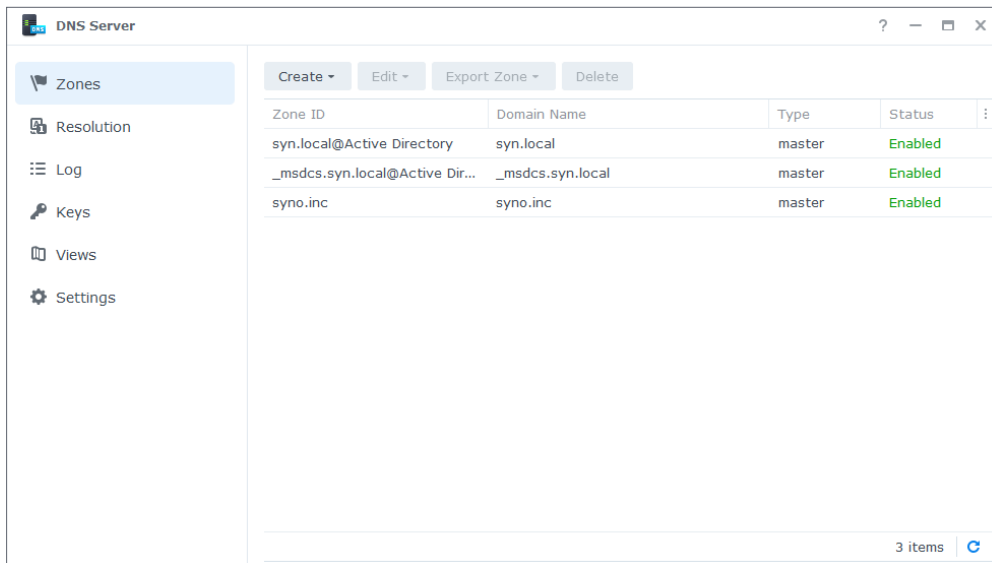
At the bottom right of the authentication area, there are and buttons.

プロキシサーバーは、パッケージセンターでダウンロードとインストールができます。このパッケージでプロキシサーバーをセットアップし、設定する方法については、[プロキシサーバー](#)にある記事を参照してください。

関連項目

- Synology NAS をプロキシサーバー経由で接続する方法については、[この記事](#)の中のプロキシサーバー経由で接続するセクションを参照してください。

9.4 DNS Server



Domain Name System (DNS) は、インターネットのアドレス帳です。これは、わかりやすい名前 (「www.synology.com」のようなドメイン名) を IP アドレス (「210.61.203.220」など) に対応させ、ユーザーが Web ページやコンピューター、その他のリソースにネットワーク越しにアクセスしやすいようにします。

DSM では、DNS サービスは DNS Server を介してセットアップします。このパッケージは、Web サイトホスティングを行う際に推奨されるもので、Active Directory ドメインサービスでは必須です。これは次のような特長を持っています。

- マスターとスレーブのゾーン: DNS コンポーネントをきめ細かくコントロールできるようにする DNS の境界。DNS 情報は、1 つのマスターゾーン (データの読み書き可能コピーを含む) と、複数のスレーブゾーン (データの読み取り専用コピーを含む) に保存され、DNS サービスの可用性を高めています。
- DNS フォワーディング: DNS Server が、対応する IP アドレスをゾーン内に発見できない場合に使われる、DNS 解決の別手法です。
- TSIG キー: 暗号化により DNS ファイルの同期を保護します。
- スプリットホライズン DNS: 各クライアントにカスタマイズされた DNS 情報を与える機能で、DNS ゾーンレコードのセキュリティとプライバシーの管理を向上するのに役立ちます。

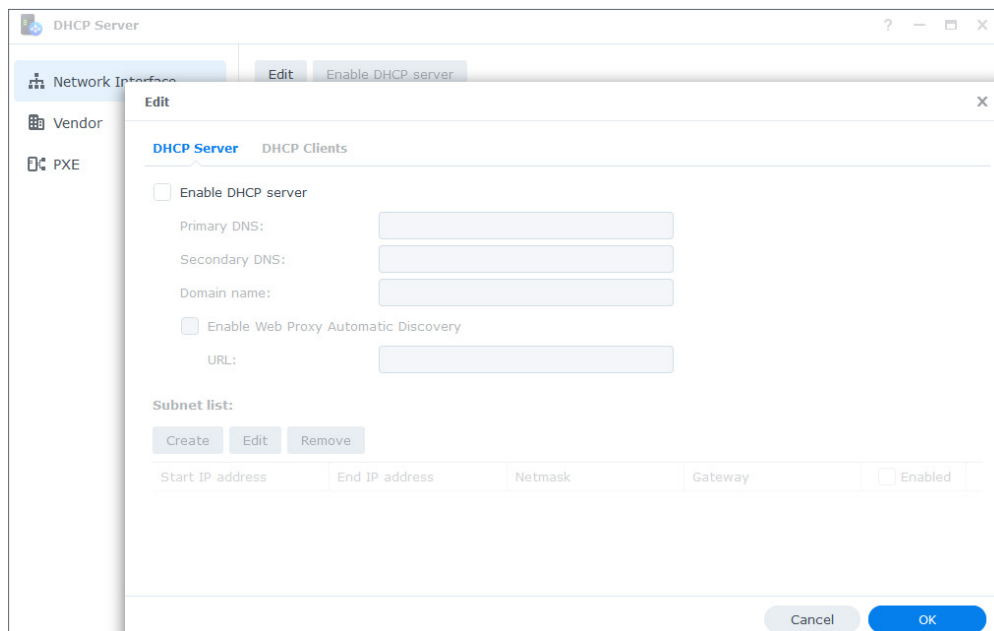
このパッケージで DNS サーバーをセットアップする方法については、[DNS Server](#) にある記事を参照してください。

関連項目

- [Synology NAS に DNS サーバーをセットアップするにはどうしたらいいですか?](#)

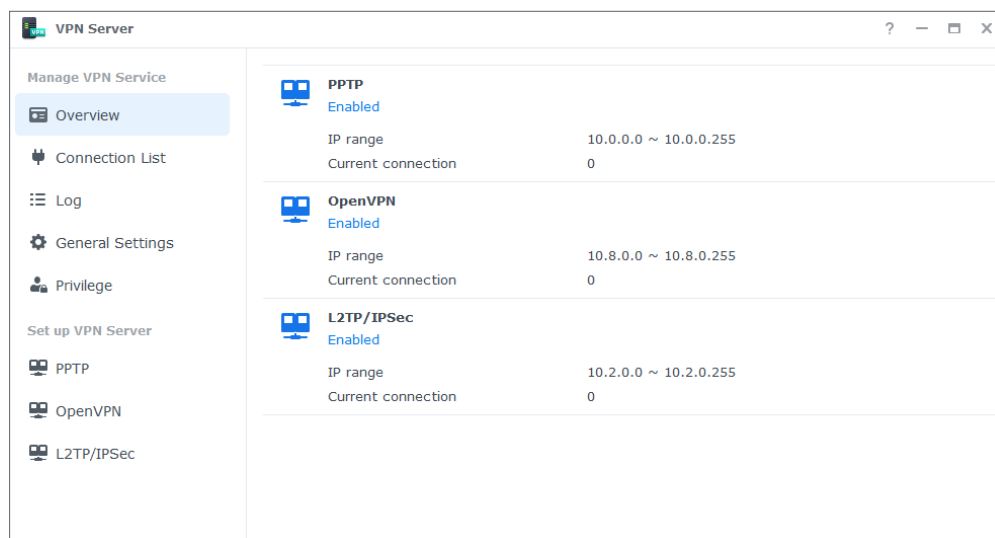
9.5 DHCP Server

DHCP Server は、同じローカルエリアネットワークにあるクライアントデバイスに、IP アドレスとネットワークパラメーター (サブネットマスク、DNS サーバーなど) を自動的に割り当てます。それにより、管理者は各クライアントデバイスにネットワーク設定を手動で与える必要がなくなります。



DHCP Server は、パッケージセンターでダウンロードとインストールができます。このパッケージで DHCP Server をセットアップし、設定する方法については、[この記事](#)を参照してください。

9.6 VPN Server



Synology NAS を VPN (virtual private network) サーバーに入れることで、DSM ユーザーは Synology NAS が属するローカルエリアネットワークにどこからでも安全に接続できるようになります。

サポートする VPN プロトコル:

- L2TP/IPSec:セキュアな VPN 接続を提供する複数のプロトコルの組み合わせ。これはほとんどのクライアント (Windows、Mac、Linux、モバイルデバイスなど) でサポートされています。
- OpenVPN:信頼性が高く安全な VPN 接続のためのオープンソースのプロトコル。これは SSL/TLS 暗号で VPN 接続を保護します。
- PPTP:古い VPN プロトコルは、Windows、Mac、Linux、Android デバイスなど大半のクライアントでサポートされています。

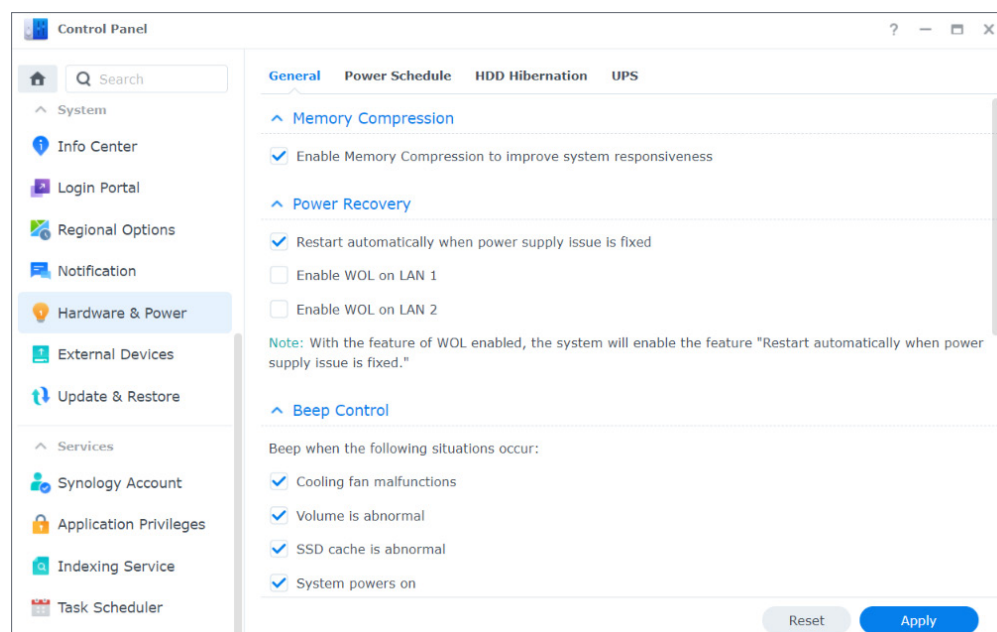
VPN Server で VPN サービスを作成する方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [Synology の VPN Server を Windows PC 経由で接続するにはどうしたらいいですか?](#)
- [Synology の VPN Server を Mac 経由で接続するにはどうしたらいいですか?](#)
- [Synology の VPN Server を Android デバイス経由で接続するにはどうしたらいいですか?](#)
- [Synology の VPN Server を iOS デバイス経由で接続するにはどうしたらいいですか?](#)
- [Synology NAS の VPN サービスに関するよくある質問](#)

第 10 章:管理

10.1 ハードウェアと電源の設定



ハードウェア設定

以下のような Synology NAS の一般的なハードウェア設定は、[コントロールパネル] > [ハードウェアと電源] > [一般] で設定できます。

- メモリ圧縮
- 電源復旧
- 警告音の設定
- ファン速度モード

電源設定

Synology NAS の電源設定は、[コントロールパネル] > [ハードウェアと電源] にある以下のタブで行えます。

- 電源スケジュール: DSM を自動的に起動およびシャットダウンさせる時刻を指定します。
- HDD ハイバネーション: ドライブがハイバネーションに入るまでのアイドル時間を指定します。この機能により、電源消費が節約でき、ドライブの寿命を長くできます。
- UPS: 予期せぬ停電時にも Synology NAS の動作が続くよう、UPS サポートを有効にします。これは、DSM に対し通常のシャットダウンを実行するための時間を与えます。

関連項目

- LED インジケータで Synology NAS が休止モードになっているか見分けることができますか？
- HDD ハイバネーション、システム ハイバネーション、ディープスリープの違いは何ですか？
- Synology NAS がハイバネーションに切り替わらない原因はなんですか。

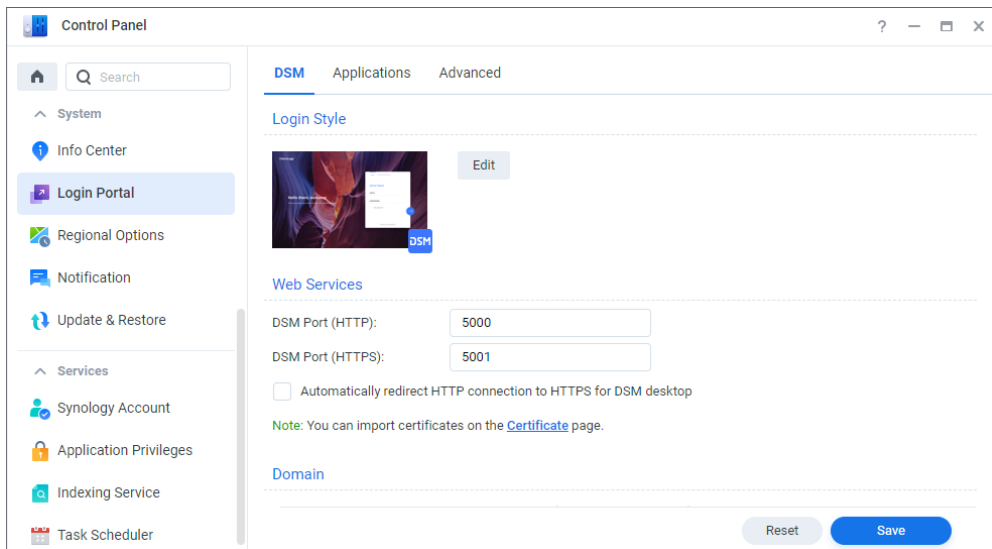
10.2 Login Portal

コントロールパネルの Login Portal で、DSM およびさまざまなアプリケーション (File Station など) のためのログイン用 Web ポータルをカスタマイズし、そのログイン背景や外観の変更し、ネットワーク設定を管理します。

HTTP/HTTPS ポート、ドメイン名、DSM またはアプリケーションのエイリアスをカスタマイズでき、ユーザーはそれらにカスタム URL でアクセスできます。ユーザーが DSM にサインインした後にアプリケーションを立ち上げる代わりに、カスタム URL はそれらを直接アプリケーションインタフェースに案内します。これは、特定のアプリケーションを立ち上げたい時に素早くログインできるだけでなく、他のユーザーに DSM の特定のアプリケーションだけに許可を与えることができます。

ネットワーク設定管理は、Synology NAS のセキュリティ確保に有効です。アクセスコントロールルールを設定することにより、拒否される IP アドレスのユーザーには Synology NAS をアクセスさせないようにしながら、リバースプロキシルールを設定して、信頼するユーザーには秘密のポートで Synology NAS にアクセスを許すことができます。

関連設定の方法については、[ログインポータル](#) にある記事を参照してください。



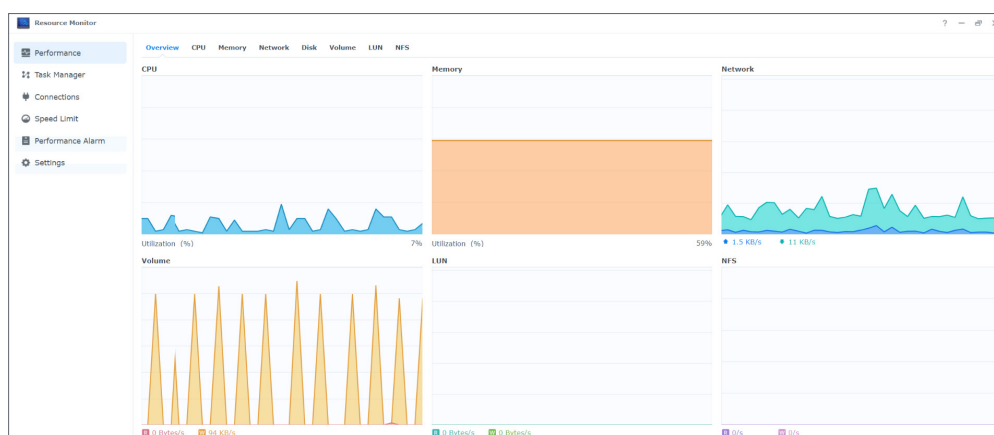
10.3 リソースモニター

組み込みの Resource Monitor を用いて、Synology NAS の CPU 利用、メモリ利用、ディスク利用率、ネットワークフローをリアルタイムで監視します。

システム利用を特定の期間と比較するために履歴データを表示させ、リソースの異常を速やかに警告するよう性能アラームをカスタマイズします。

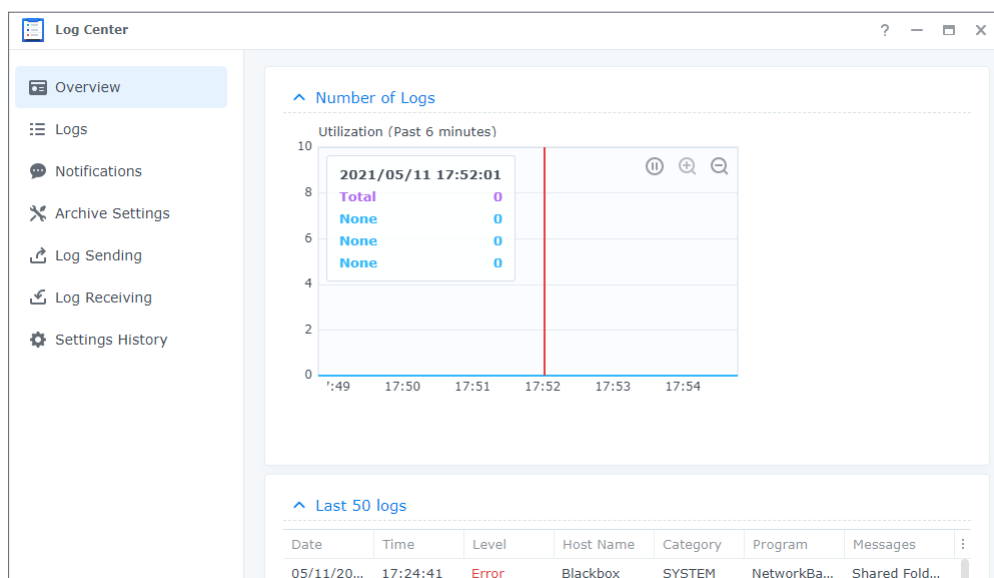
DSM で実行されているサービスを管理して、Synology NAS に接続されているユーザーは最良のシステム性能が得られ、メモリ利用をコントロールできます。たとえば、事前設定した速度制限に達したサービスのファイル転送を停止し、ユーザーを DSM からサインアウトさせるか、または接続したユーザーが NAS のデータをアクセスするのを停止することができます。

関連設定の方法については、[リソースモニター](#)にある記事を参照してください。



10.4 Log Center

Log Center は、システムログを集中的に管理するものです。通知設定をして、特定のイベントが発生した時に管理者に知らせることができます。



Log Center は、DSM がセットアップされた時点でデフォルトでアクティブ化されます。リモートログ転送やログのアーカイブなどの高度な機能を使用するには、[パッケージセンター]の Log Center パッケージをインストールします。

ログセンターの使用方法については、次の記事を参照してください。

- [Log Center](#) (組み込み機能)
- [Log Center](#) (アドオンパッケージ)

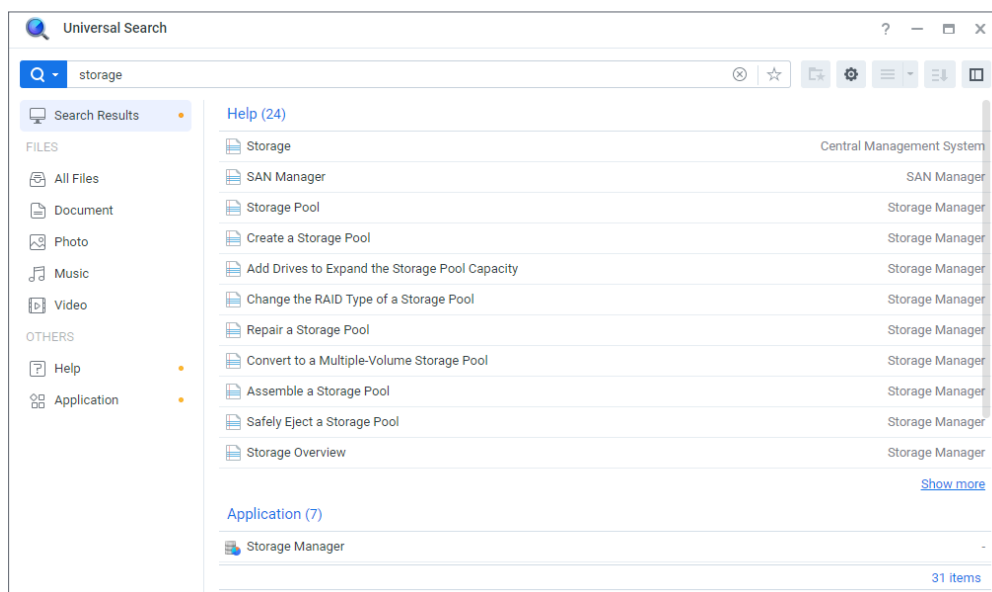
10.5 Universal Search

Universal Search を使用して、数クリックで、キーワード検索を実施、あるいは Synology NAS のアプリケーション、フォルダー、ファイルに高度な検索をかけます。フォルダーにあるファイルに深い、高速の検索をかけられるよう、フォルダーまたはファイルをインデックス化し、お気に入りの検索にスターをつけて検索を管理し、検索レコードの最大数を指定したり、といったことができます。

Universal Search は、次の項目をカバーします。

- インデックス付きフォルダ内のファイル (画像、音楽、ビデオを含む)
- パッケージ特定のファイル:
 - Note Station のメモ
 - Synology Office のスプレッドシートおよびドキュメント
- オフライン DSM ヘルプドキュメント
- アプリケーション

Synology NAS のアイテムを検索する方法、および関連事項の設定方法については、[Universal Search](#) を参照してください。

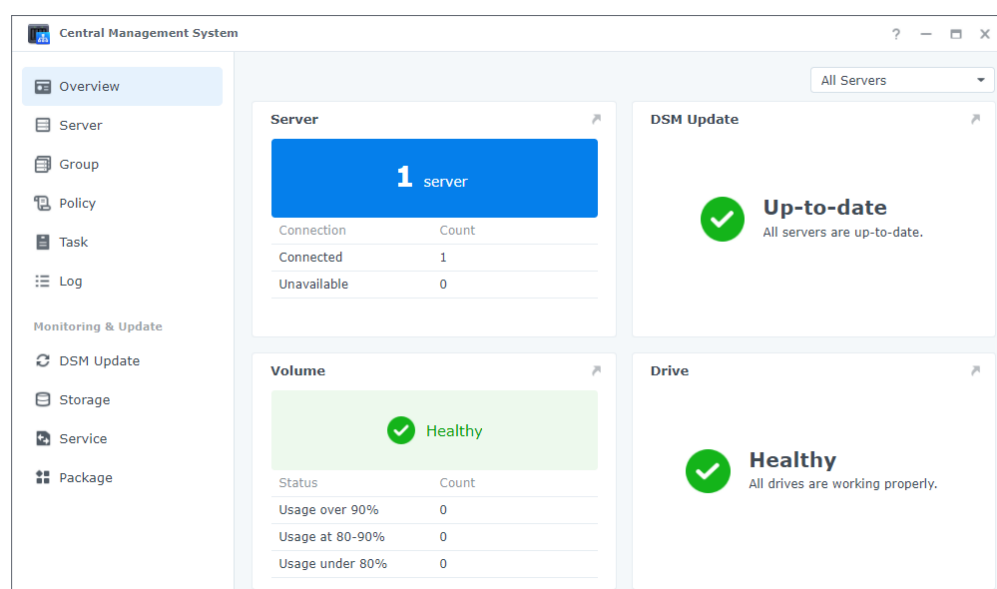


10.6 Central Management System

1 台の NAS をホストサーバーに、他の NAS を被管理サーバーに指定することで、複数の Synology NAS を一元化し、同時に管理します。ホストサーバー上で、IT 管理者は、ポリシー（トラフィックコントロールやファイアウォールなど）を被管理サーバーに適用し、タスク（Wake on LAN の有効化など）やカスタマイズされたスクリプト（ユーザーやインストールパッケージの作成など）をそのサーバー上で実行するよう、複数の NAS を大量に展開する責任をもちます。これにより、すべてのサーバーにわたる設定が同じになり、管理がシンプルになります。

一元化されたダッシュボード上では、被管理サーバーの全体の情報（接続状態やストレージの利用など）の監視、特定のユーザーやグループへの管理者権限の委任、DSM バージョンとパッケージのインストール、被管理サーバーでの更新の実施などが可能です。

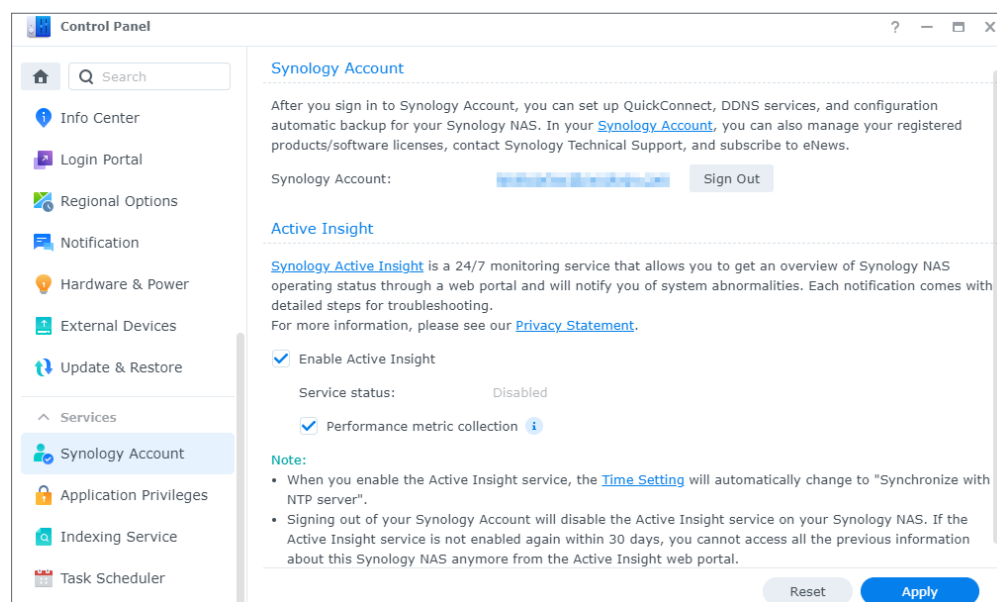
関連設定の方法については、[Central Management System](#) にあるヘルプ記事を参照してください。



10.7 Active Insight

Synology Active Insight は、Synology NAS にリアルタイムのシステム管理を提供する、クラウドベースのサービスです。これは、以下のサービスを通じて NAS の保守を支援します。

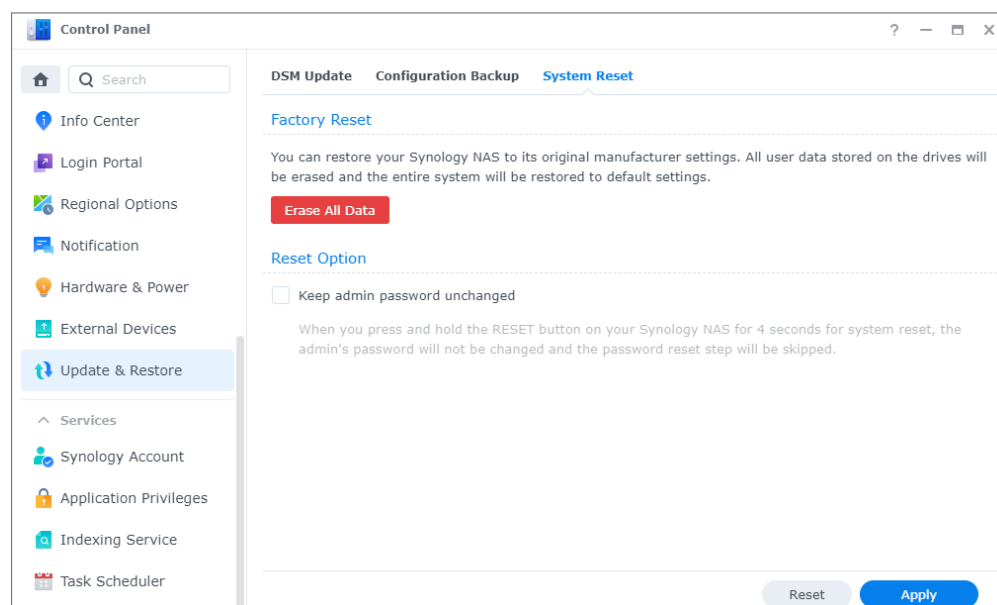
- **クラウド監視:** このサービスは、Synology NAS の正常性と性能をアクティブに監視します。これは、それぞれの性能指標に対する上位の NAS を表示し、予期せぬ高い値を示している異常を素早く認識できます。
- **一箇所での集中管理:** Active Insight は、Web ポータルおよび専用のモバイルアプリを通して、全 Synology NAS の概要情報を提供します。Synology NAS を 1 台ずつチェックしなくてもよいため、IT 担当者の負担が軽くなり、すべてを一箇所で見ることができます。
- **セルフサービストラブルシューティング:** システムに異常が発生した場合、Active Insight はメールおよびモバイルアプリのプッシュ通知で、トラブルシューティングについての詳細な通知を配信します。提供される手順に従うことで、異常なイベントの原因究明にかかる時間が短縮されます。



Synology Active Insight サービスは、[コントロールパネル] > [Synology Account] で有効にできます。Active Insight のセットアップと利用の方法については、[この記事](#)を参照してください。

10.8 システムリセット

DSM は、[コントロールパネル] > [更新と復元] > [システムリセット] で工場出荷時設定にリセットできます。すべてのユーザーデータとシステム設定は削除され、DSM はデフォルト設定に戻されます。DSM をリセットする方法については、[この記事](#)を参照してください。



第 11 章:生産性

11.1 Synology Office

Synology Office は、リアルタイムでの対話的な共同作業を可能にする一式のツールをまとめたものです。Synology ドキュメント、スプレッドシート、スライドでは、作業やアイデアを作成、編集、共有する編集ツールが利用できます。作業ファイルはすべてオンラインに保存されるため、コンピューターやモバイル、タブレットなどさまざまなデバイスを使って、いつでもどこからでもアクセスすることができます。

Synology Office における秘密のドキュメントは、ファイル暗号化によって保護されます。さらに、Synology Chat が同じ Synology NAS にインストールされている場合は、指先ひとつで即時に対話型の共同作業が可能になります。

Synology Office を始める方法については、[この記事](#)を参照してください。

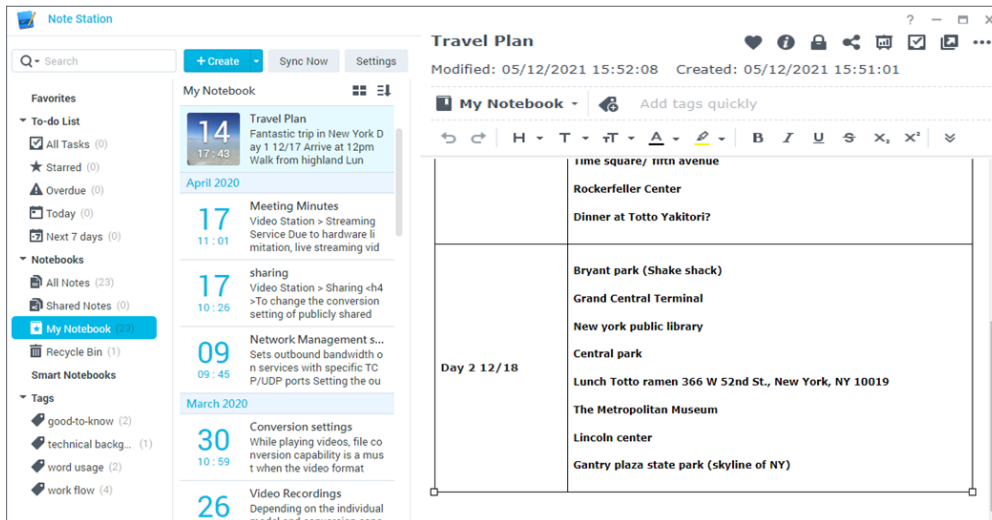
関連項目

- [Synology Office にインポートできるファイルを教えてください。](#)
- [Synology NAS のファイルを Synology Office にインポートする方法を教えてください。](#)
- [Synology Chat プラグイン](#)

11.2 Note Station

Note Station は、リッチなコンテンツを含むメモを追加、管理、共有できる、メモアプリケーションです。作成するどのメモも、参照リンクや録音などの要素を簡単に追加できます。さらに、クリップしたテキスト / 画像は、Chrome ブラウザ上で Synology Web Clipper を使用して保存が可能です。タグや分類でメモをグループ分けし、メモ帳や棚として容易に管理できます。

Note Station は、Web ブラウザから、デスクトップユーティリティとして、およびモバイルアプリの形で利用できます。Note Station を管理する方法については[この記事](#)を参照してください。



関連項目

- [Note Station](#) で自分個人の生産性はどう高められますか？

11.3 Synology Chat

Synology Chat は、個人ならびに職場でのコミュニケーションの両方でセットアップできるインスタントメッセージングサービスです。一対一のメッセージ、プライバシー保護のためのメッセージの暗号化、グループディスカッションのためのチャンネルの作成が可能です。

Synology Chat Admin Console により、管理者はチャンネル設定の管理、コンテンツ削除の間隔、ログの閲覧を管理でき、Synology Chat Web ポータルは、メッセージのピン留め、ブックマーク、メッセージのスケジューリング、リマインダー、チャットボットなど、生産性向上に役立つさまざまな機能を提供します。

サービスは、職場のコラボレーションを強化するために、[Synology Office](#)、[Synology Drive](#)、[Synology Calendar](#) と統合できます。たとえば、ユーザーは Synology Office の使用中に、メッセージの送信、会話の表示、フォルダーの Chat チャンネルへのリンクなどを、ウィンドウを切り替えることなく可能です。

Synology Chat は、Web ブラウザから、デスクトップユーティリティとして、およびモバイルアプリの形で利用できます。Synology Chat Server のセットアップ方法に関する詳細情報は、[Synology Chat Server](#) にある記事を参照してください。

11.4 Synology Calendar

Synology Calendar により、個人のカレンダーをセットアップし、それを他の人と共有できます。イベント、そしてその説明や時間、場所、アラートといった詳細を作成し、共有やゲストの招待も可能です。

高度な管理オプションとして、繰り返しイベント、イベントカラーの追加、イベントへのファイルの添付、ゲストリストの編集、カレンダー間の切り替え、カレンダーのエクスポートといった機能が利用できます。さらに、Synology Calendar が Synology MailPlus と同じ Synology NAS にインストールされている場合は、サービスをまたいだ情報の同期が可能です。

Synology Calendar をセットアップする方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [WebDAV Server でカレンダーをホストするにはどうしたらいいですか？](#)

11.5 Synology Contacts

Synology Contacts により、連絡先や見つけやすいようにする個人のラベルを作成し、組織のメンバーとアドレス帳を共有できます。Team Contacts というデフォルトのグループアドレス帳があり、それにはアカウントシステム (ローカル、グローバル、あるいは LDAP ユーザー) 内の全ユーザーが含まれるため、手動でそれを作る必要はありません。

さらに、Synology Contacts は、同じ Synology NAS に Synology MailPlus がインストールされている場合に連絡先管理のアドオンとして機能します。それにより、クライアントユーザーが Synology MailPlus でメールを送信する際に、メールの宛先を表示できるようになります。

Synology Contacts で連絡先を整理する方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [CardDAV Server から Synology Contacts に連絡先をインポートするにはどうすればよいですか？](#)
- [Synology Contacts を CardDAV を介して自分のモバイルデバイスと同期するにはどうしたらいいですか？](#)

11.6 Synology MailPlus

Synology MailPlus により、Synology NAS 上で個人的に所有しているメールサービスの実行と管理ができます。MailPlus スイートには、2 つのパッケージが含まれています。Synology MailPlus Server と Synology MailPlus。

Synology MailPlus Server

Synology MailPlus Server は、ご自分のメールサーバーを一元的に管理、監視できる管理コンソールです。主な特長は以下の通りです。

- 多彩なセキュリティツール:以下のツールは、受信トレイからスパムやフィッシングメールを排除し、メールのプライバシーを保護します。DNSBL (Domain Name System-based Blackhole List)、アンチウイルススキャン、メール検疫、SPF/DKIM/DMARC 認証、MCP (message content protection)。
- 複数ドメインの管理:MailPlus Server は、複数ドメインを管理できます。各ドメインに対するエイリアス、自動 BCC、使用制限、免責条項に関する設定がひとつのインターフェースから可能です。

- MailPlus High-availability:2 台の Synology NAS により、MailPlus high-availability cluster を構築でき、サーバーの異常動作や過負荷に起因するサービス停止を最小化します。双方向の同期を実施することにより、メールデータは両サーバーの間で整合し、データ損失が防止され、サーバー停止時間が最小化されます。

Synology MailPlus

Synology MailPlus は、主要なブラウザすべてで動作する、多機能のメールクライアントです。主な特長は以下の通りです。

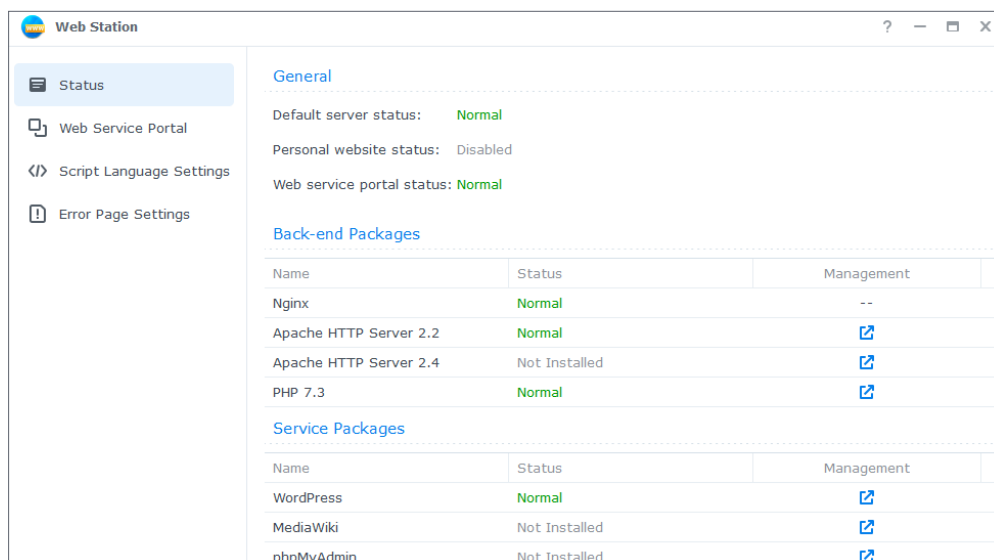
- メール、カレンダー、連絡先の統合: Synology MailPlus、Synology Calendar、Synology Contacts が同じ Synology NAS で動作している場合、情報は異なるサービス間で同期されます。たとえば、メールの内容はカレンダーイベントとして Synology Calendar に追加され、Synology Contacts は宛先のオートサジェスト用の連絡先リストを提供します。
- メールボックスの共有: 個人用メールボックスは、他の内部ユーザーと共有することができ、プロジェクトの進捗管理用の共同作業用受信トレイを作成できます。
- カスタムメールフィルター: 複数のフィルタールールをセットアップし、素早く見つけられるようにラベルを自動的に付加したり、特定のメールを集中管理用の特定の受信トレイに移動できます。
- 個別のブラックリストとホワイトリスト

Synology MailPlus Server でメールサーバーをセットアップする方法については、[この記事](#)を参照してください。

関連項目

- [Synology MailPlus を展開する最良の方法と、適した Synology NAS の選択方法](#)
- [システム構成を Microsoft Exchange から Synology MailPlus Server に移行する方法](#)
- [Synology MailPlus Server 向けのハイアベイラビリティクラスターを作成する方法](#)
- [Mozilla Thunderbird と Microsoft Outlook で Synology MailPlus をチェックする方法](#)
- [ユーザーが Synology MailPlus を使用する許可をもっていません。どうしたらよいでしょう。](#)

11.7 Web Station



Web Station は、Synology NAS 上で Web サイトをホストできるようにします。PHP、MySQL、Nginx、Apache HTTP Server、およびさまざまなサードパーティパッケージにより、個人あるいはビジネスのニーズに応じてダイナミックでデータベースによる Web アクセスを管理できます。

以下の特長により、Web サイト管理は柔軟で簡単になります。

- 仮想ホスティング: 複数の Web サイトをホストすることができ、それぞれは独自の URL を持ちます。
- パーソナル Web サイト: ローカル、ドメイン、LDAP それぞれのユーザーに個別の Web ポータルを割り当てることで、自分の Web サイトをホストできます。
- PHP 環境とエラーページ用のユーザー定義プロファイル

詳しくは、[Web Station](#) にある記事をご覧ください。

関連項目

- [Synology NAS で Web サイトをホストする方法](#)
- [Web サイトのホスティングに使われているフォルダーにアクセス許可を設定するにはどうしたらいいですか?](#)

第 12 章:マルチメディア

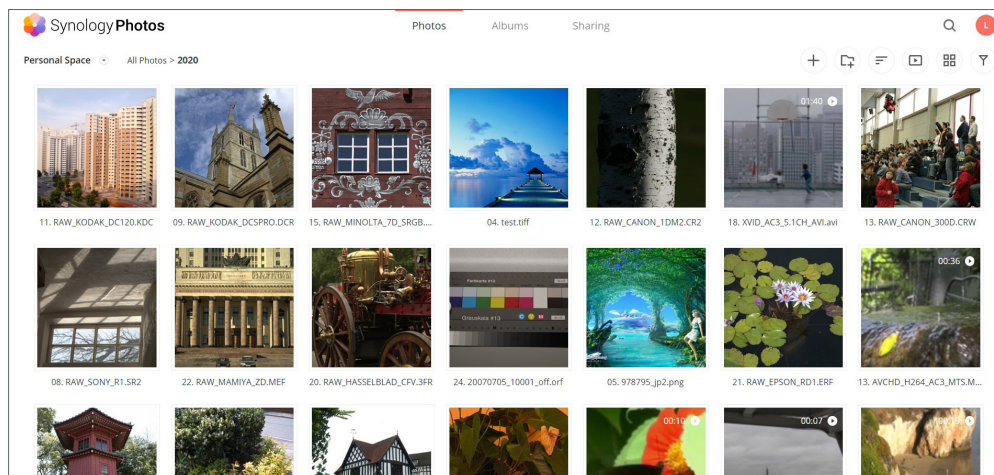
DSM のマルチメディアアプリケーションにより、誰でも自分の写真を上手に管理し、動画を整理し、いつでもどこでも音楽を楽しむことができます。この章では、Synology NAS でエンターテインメントコンテンツを楽しむための、主要な特長を取り上げます。

12.1 Synology Photos

Synology Photos は、Synology NAS に保存された写真と動画を集め、表示します。柔軟性のある整理のためのオプションと細かな共有設定により、ユーザーは自分の好みに合わせた写真管理ができます。

Synology Photos の各タブが、主要機能のひとつを表します。

- Photos は、写真と動画のファイルをフォルダーで管理できるようにします。ユーザーは、自分の個人領域で運用するか、共有領域を開き、一緒に作業する人を招待するかを選択できます。
- アルバムは仮想的なもので、ユーザーは、余分のストレージ領域をとることなく自分の写真のコレクションを複数作ることができます。
- 共有は、自分に共有されているアルバムと他の人と共有しているアルバムの一覧を表示します。



iOS と Android では、モバイルアプリケーションが用意されています。これは、ブラウジングや整理、バックアップが簡単に行えるように作られています。AirPlay や Google Chromecast で、写真を他の人の画面に飛ばすこともできます。

Synology Photos を Web ブラウザで動かすための詳細は、[この記事](#)を参照してください。Synology Photos モバイルについての詳細は、[この記事](#)を参照してください。

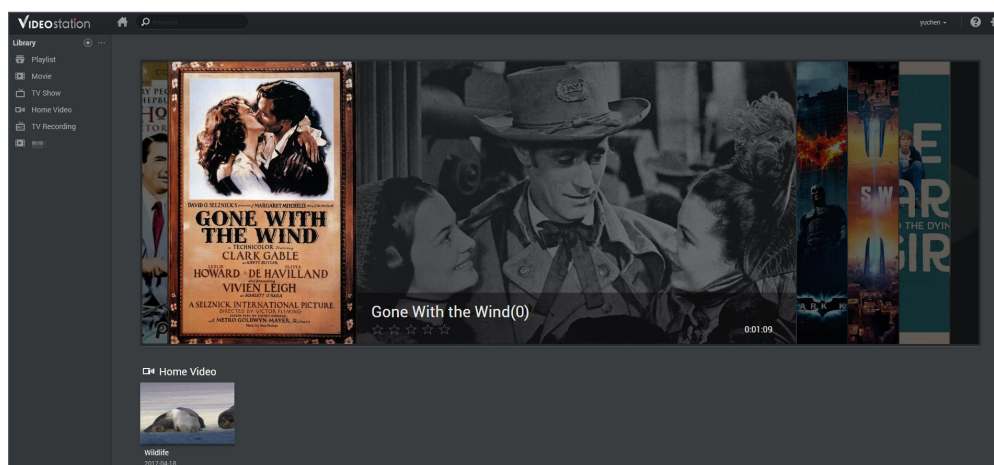
12.2 Video Station

Video Station でビデオコレクションを整理します Synology NAS 上で、動画、TV 番組、ホームビデオを管理し、それらをコンピューター、DLNA/UPnP 対応の DMA、AirPlay デバイス、モバイルデバイスなどさまざまなデバイスにストリームできます。

主な特長と目玉機能は以下の通りです。

- NAS に保存した動画の表示:動画を 映画、TV 番組、ホームビデオに分類したり、独自のライブラリを作成して、見やすく管理。
- 動画情報を自動的に取得:インターネットから取得したメタデータ (ポスター、字幕、その他の動画詳細) で動画を識別。情報の取得のためには、ビデオ情報プラグイン機能を有効にします ([Video Station] > [設定] > [詳細設定])。
- 動画の再生をコントロール:ボリュームを調整、動画再生品質を選択、字幕をオン。
- 動画を他の人と共有。動画を、リンクを持っている人全員と、あるいは適切な許可を与えた特定の人とだけ共有。

Video Station の管理方法については、[Video Station](#) にある記事を参照してください。



関連項目

- [Video Station/DS video でスムーズにビデオをストリームするには何が必要ですか？](#)
- [Synology NAS は 4K ビデオのストリーミングをサポートしていますか？](#)

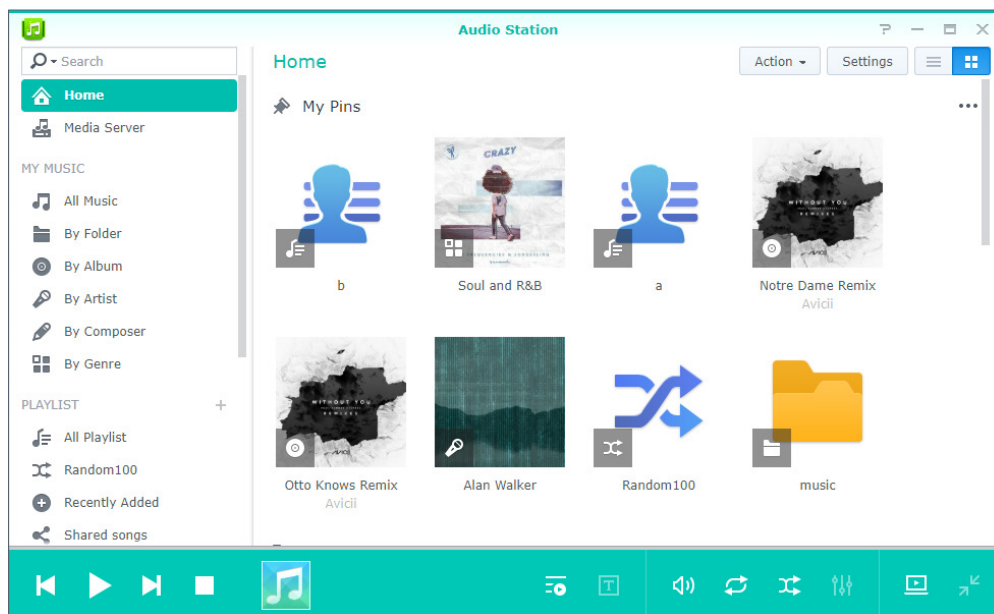
12.3 Audio Station

お持ちの音楽コレクションをクラウドにまとめます。Audio Station により、Web ブラウザまたはモバイルデバイスを使って Synology NAS 上の音楽にアクセス、またはそれらを再生のためにさまざまなデバイスにストリームできます。

Audio Station は、複数のブラウジングと再生機能を提供し、音楽管理をシンプルにします。以下は Audio Station が提供する利点のリストです。

- いつでもどこでも音楽を楽しむ: Audio Station は、AirPlay、Chromecast、CarPlay、Android Auto、Amazon Alexa デバイスをサポートし、さまざまなタイプのデバイスを使って音楽を簡単に再生できます。
- 音楽ライブラリを効率的に整理: アーティストやアルバム、作者、ジャンルで音楽を分類し、個人 / グループ / スマートプレイリストを作成して管理をシンプルにできます。
- 簡単に音楽にアクセス: プレイリストやアーティスト、アルバムをマイピンに保存して素早くアクセスできるようにし、最近の追加で最近追加した音楽コレクションを表示し、ランダム 100 でランダムに選ばれたあらゆるタイプの局を聞くことができます。
- 音楽を他の人と簡単に共有: 1 つの局をリンクを使って、あるいは誰とでも共有でき、複数の曲を有効期限をカスタマイズしてセキュリティを高めながら共有プレイリストで、誰とでも共有できます。

Audio Station の管理方法については、[Audio Station](#) にある記事を参照してください。



関連項目

- [Amazon Alexa で Audio Station skill を有効化する方法](#)

12.4 Media Server

Synology NAS をマルチメディア サーバーに変えます。Media Server により、マルチメディアコンテンツを Synology NAS から DLNA/UPnP 準拠の DMA (ステレオ、テレビ、ゲーミングコンソールなど) にストリームできます。これらのデバイスをホームネットワークに接続することで、それらにアプリケーションやデバイスをインストールすることなく、写真を表示し、音楽を聞き、動画を見ることができます。

強化された DMA の互換性とスムーズなストリーミング体験のために、Media Server を次のオプションで管理します。

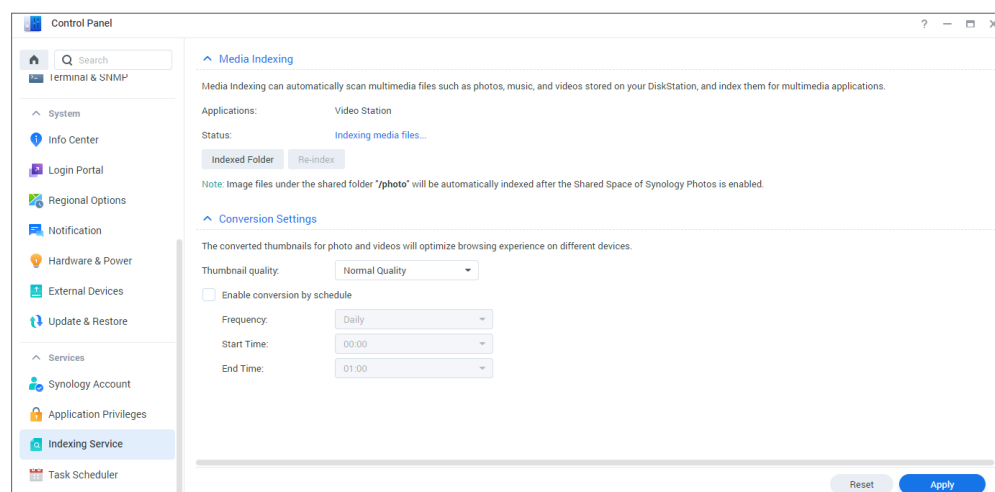
- オーディオ / ビデオ変換により、ファイルに対応するフォーマットへの変換をサポートします。
- 個々のデバイスがファイルフォーマットを認識するのに役立つ、カスタム MIME。
- LAN 上で新しく見つけたデバイスのアクセスを制限し、事前定義したプロファイルを適用するためのデバイスリスト。

詳しくは、[Media Server](#) にある記事をご覧ください。

関連項目

- [DLNA/UPnP 準拠の DMA で、Synology NAS に保存されたマルチメディアコンテンツを楽しむにはどうしたらいいですか？](#)

12.5 Indexing Service



Indexing Service は、File Station 内の指定のフォルダーを自動的にスキャンし、そこからマルチメディアファイルのインデックスを作成できるようにします。インデックスが作成されると、ファイルは DMA からアクセス可能になり、Synology Photos、Video Station、Audio Station、Media Server、iTunes Server などのマルチメディアパッケージで表示できるようになります。

デフォルトでは、photo、music、video フォルダーに作られるファイルは自動的にインデックス化されます。インデックス化されたフォルダーを作成したい場合は、[コントロールパネル] > [Indexing Service] に進んでください。このページで、インデックス化されたフォルダーの編集 / 削除、写真と動画のサムネイル品質のセットアップ、動画の変換設定の管理が可能です。

Indexing Service の詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。

注意:

- リモートサーバーからマウントされた共有フォルダーは、インデックス化されたフォルダーには追加できません。
- Synology NAS では、最大 100 個のインデックス フォルダを追加できます。

第 13 章:監視

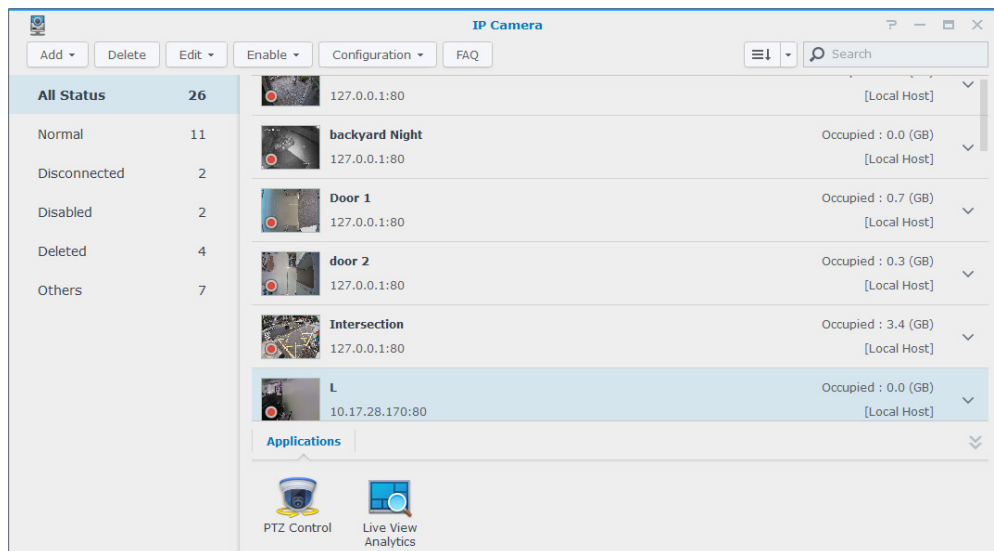
Surveillance Station は、あらゆるユーザーのニーズに合わせることができる、プロフェッショナルなセキュリティソリューションです。その整った Web インタフェースと広範な対応デバイスに支えられ、カメラからのライブフィードの監視、ビデオ録画のカスタマイズ、即時警告の受信など、さまざまなことが容易に行なえます。Surveillance Station のモバイルバージョンである DS cam も、場所を選ばないセキュリティ管理に利用できます。

監視システムを配備する方法については、[このドキュメント](#)を参照してください。

13.1 IP カメラのセットアップ

Surveillance Station は、PTZ、魚眼、マルチレンズ、その他の特殊なデバイスを含む、7,900 以上の IP カメラに対応しています。ビデオ録画は、必要な録画だけがストレージ領域を占めるよう、スケジュールしたり、イベント検出でトリガーされます。

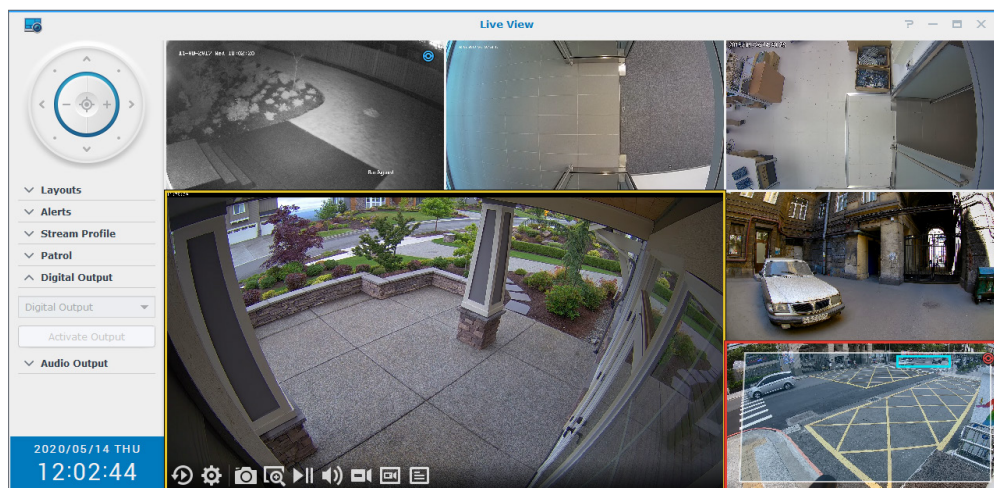
カメラを追加し、その多彩な機能を適用する方法については、[この記事](#)を参照してください。



13.2 カメラフィードをモニターする

Live View は、1 つのレイアウト上で最大 100 チャンネルのリアルタイムストリーミングをサポートします。異なるカメラ映像間を自由に切り替え、画面上のカメラコントロールでカメラを直接操作し、イベントアラートを有効にして不審な動きを見逃さないようにできます。

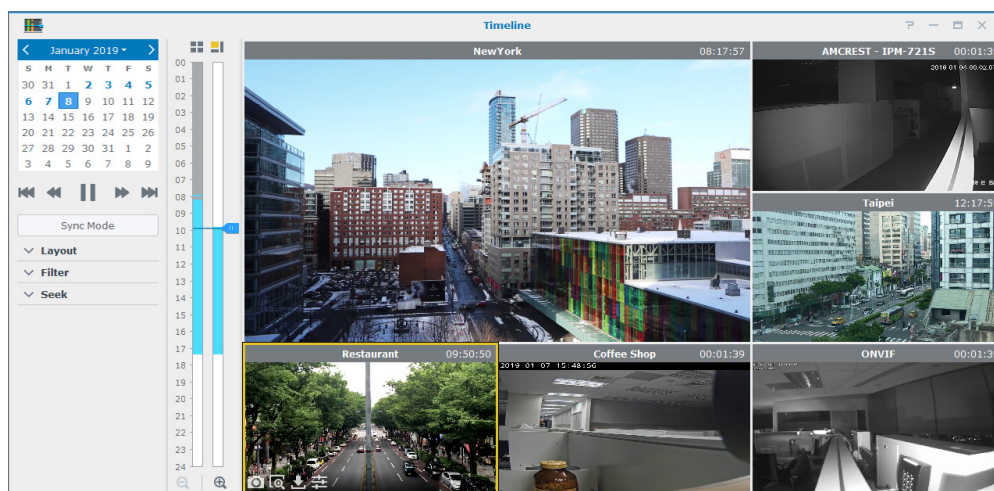
Live View の操作方法については、[この記事](#)を参照してください。



13.3 効率的な録画の再生

タイムラインは、セキュリティ映像を見る場所です。Surveillance Station のタイムライン、カレンダー、探索機能で、特定時間帯の録画をチェックします。特定のイベントやカメラを対象にするフィルターを設定します。録画は、同期させて、あるいは 1 つずつ再生できます。

録画管理に関する詳細情報は、[この記事](#)を参照してください。



13.4 総合的な管理機能

管理者は、自らの管理を IP カメラや録画を超えて拡大できます。以下に例を挙げます。

- アクションルールは、パトロールするカメラのスケジュール設定など設定したルールに従った一連の監視機能を自動化します。
- 許可プロファイルは、Surveillance Station アプリケーションに対する、管理のための異なる管理者 / 閲覧者許可をユーザーに付与します。
- システムログには、イベントログリストがイベントを検出した際の Surveillance Station の動作の全記録が含まれます。
- 通知は、即時のアラートを警備担当者に送信するよう、カスタマイズが可能です。

関連項目

- アクションルールに関する詳細情報は、[この記事](#)を参照してください。
- ユーザーと許可に関する詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。
- Surveillance Station の詳細情報については、[この記事](#)を参照してください。
- 通知の送信に関する詳細情報は、[この記事](#)を参照してください。

13.5 集中管理システム

Surveillance Station Centralized Management System (CMS) は、サーバーをホストにすることで、複数サイト、複数サーバーの監視システムを運用できます。カメラ、ライブフィード、録画映像は、1 つの Web ポータルで運用できます。無停止のビデオ監視を実現するため、自動フェイルオーバーとバックアップサービスも利用可能です。

関連項目

- Surveillance Station CMS のセットアップ方法については、[この記事](#)を参照してください。
- Synology 製品を CMS ホストとして選択する詳細情報は、[この記事](#)を参照してください。

付録

法規

- ・ [プライバシーに関する声明](#)
- ・ [サービスデータ収集開示](#)
- ・ [Synology エンド ユーザー ライセンス合意書](#)
- ・ [Synology パッケージセンター利用規約](#)



SYNOLOGY INC.

9F, No. 1, Yuandong Rd, Banqiao Dist.,
New Taipei City 220632 Taiwan
電話: +886 2 2955 1814

SYNOLOGY AMERICA CORP.

3535 Factoria Blvd SE, Suite
#200, Bellevue, WA 98006 USA
電話: +1 425 818 1587

SYNOLOGY UK LTD.

Unit 5 Danbury Court, Linford Wood,
Milton Keynes, MK14 6PL United
Kingdom
電話: +44 (0) 1908048029

SYNOLOGY FRANCE

102 Terrasse Boieldieu (TOUR W)
92800 Puteaux France
電話: +33 147 176288

SYNOLOGY GMBH

Grafenberger Allee 29540237
Düsseldorf Deutschland
電話: +49 211 9666 9666

SYNOLOGY SHANGHAI

200070, Room 201, No.
511 Tianmu W. Rd.,
Jingan Dist., Shanghai,
China

Synology Japan 株式会社

〒 101-0031 東京都千代田区東神田
3-1-2 ユニズ東神田三丁目ビル 4F

Synology®



synology.com

Synology では仕様・製品説明を随時予告なく変更する場合があります。Copyright © 2021 Synology Inc. All rights reserved.* Synology および Synology 製品のその他の名称は、Synology Inc. の商標または登録商標です。本書に記載されているその他の製品名および会社名は各所有権利者の商標です。